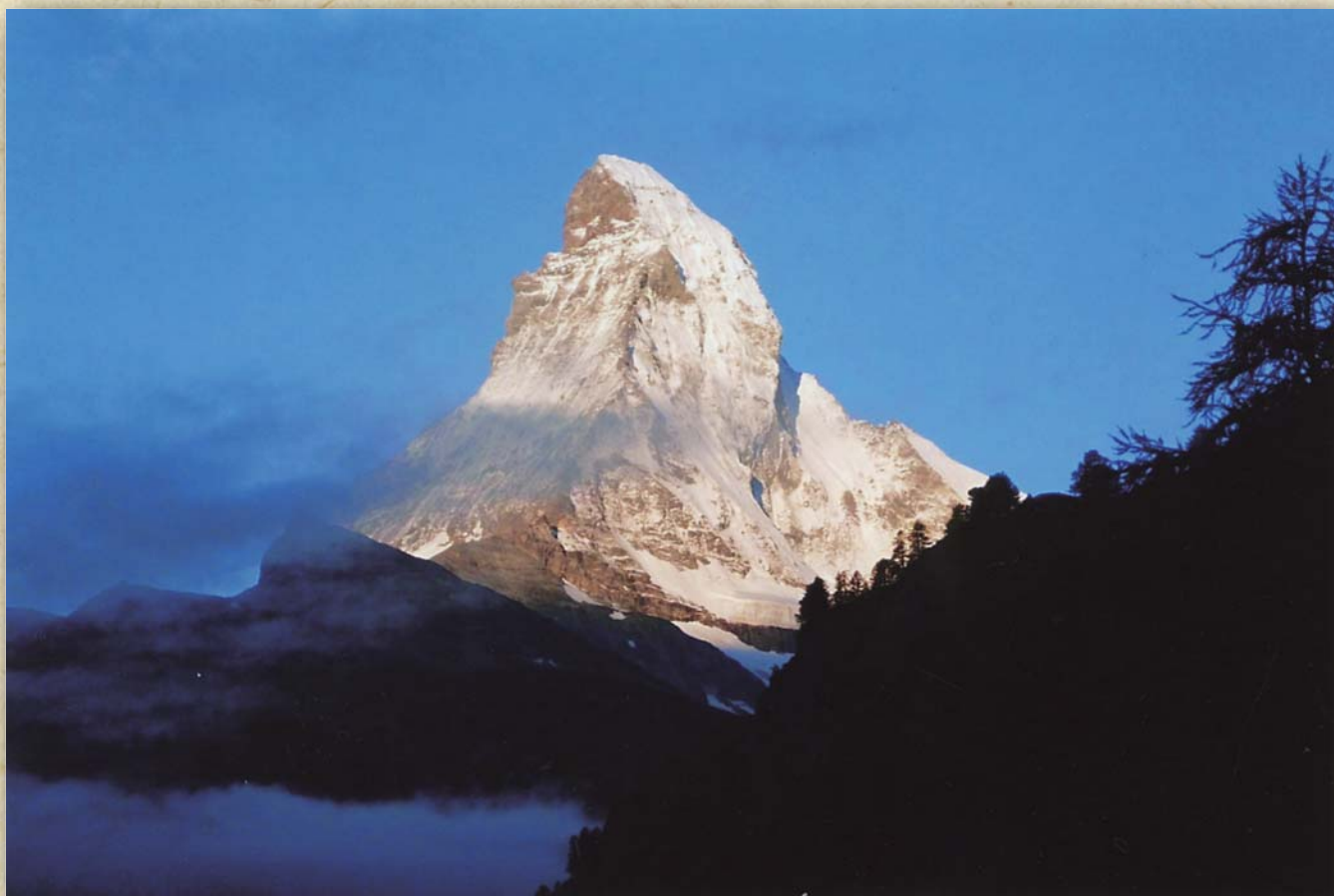




沖縄県薬剤師会報

No.275. 2015(平成27年) 3・4月号



沖縄県薬剤師会

目次

薬剤師倫理規定	
総 会	第71回臨時総会開催 大城 喜仁 … (2)
総 会 資 料	平成27年度事業計画および平成27年度収支予算 (5)
	第71回臨時総会における議案事項 (17)
会務ハイライト	平成26年度第1回日薬九州ブロック会議開催される 田場 英治 … (19)
	平成26年度第2回地区薬剤師会会長会議報告 田場 英治 … (22)
研 修 会	管理薬剤師業務講習会開催される 宮城 幸枝 … (24)
	第5回在宅医療に関する講習会報告 赤木 宗範 … (26)
	平成26年度自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会開催 村田美智子 … (28)
	自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会に参加して 上山 達矢 … (29)
意見交換会	平成26年度FAXコーナー担当者意見交換会報告 池間 記世 … (31)
	FAXコーナー担当者へのアンケートの回答 (32)
	FAXコーナー担当者意見交換会参加印象記&各FAXコーナー連絡先 各FAXコーナー担当者 … (36)
部会だより	青年部会主催 在沖米国軍基地内新海軍病院見学ツアーに参加して … 森下 彰久 … (41)
	平成26年度薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング報告 村田美智子、当真房子、廣川直子、高嶺絵里、仲村喜久子 … (46)
	第14回沖縄県健康教育研究大会参加報告 大城 恭子 … (53)
	第14回沖縄県健康教育研究大会後のアンケート結果をうけて 上原 卓朗 … (54)
	平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告 城村 幹彦 … (58)
	平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部研修会報告 森下 彰久 … (59)
月例相談会	第120回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会） 盛本 直也 … (61)
新 入 会 員	平成26年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成26年10月～平成27年3月末日入会分） … (62)
D I	薬事情報おきなわNo. 232 薬事情報センター … (63)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報 (74)
卒 煙 物 語	その51 良い波及 え ん こ … (75)
薬学の歴史	第39回 抗生物質の時代 (76)
	第40回 薬学の今日と未来 (77)
薬 草 学	身近な薬草を知ろう 第19回 ウイキョウ 狩俣 イソ … (78)
Spot Light	佐久間長昭先生～八重山の医薬分業と地区の活性のために～ 前濱 朋子 … (80)
	大浜貴子先生～八重山美人が語る 「流れにのる自然な生き方、頑張らない生き方」～ 宮城 敦子 … (82)
リレー随筆	「妹」の話し 古波蔵直子 … (84)
薬連だより	平成26年度日薬連盟九州ブロック協議会 姫野 耕一 … (86)
	国会レポート～医療保険制度改革と医療法人制度の見直しについて～ … 藤井 基之 … (89)
	国会レポート～「医薬分業」公開ディスカッション～ 藤井 基之 … (90)
理 事 会	平成26年度第9回定例理事会議事概要 (91)
会 務 報 告	平成27年2月～3月分 (99)
	沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成27年2月～3月分） (103)
行 事 予 定	開催日が決定した平成27年度の主な行事 (103)
転 載 記 事	薬学生・薬剤師向け情報誌「MIL」に本会神殿が掲載され話題に！ (104)
	沖縄タイムス ワラビー「おしごと発見」に薬剤師職紹介される (モデル：会員の垣慶朗ご家族) … (105)
一 包 一 話	“もう一度、国際通り” 橋 の 下 … (106)
会 員 作 品	誌上ギャラリー（裏表紙）について (108)
編 集 後 記	 (108)
お し ら せ	薬物乱用防止指導員について 学校薬剤師部会 … (52)
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！ (60)
	会報原稿募集のご案内 (85)
	研修認定薬剤師申請料について (98)

・表 紙

とよ ひら ほう うん
題字：豊平峰雲

「朝焼けのマッターホルン」 photo by 上原 智佐子（がじまる薬局） 撮影地：ツエルマット（スイス）

総会

第71回臨時総会開催

日時：平成27年3月29日（日）13:00～15:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<第71回臨時総会式次第>

1. 開会の辞

（議長・副議長選出）

2. 議長・副議長登壇あいさつ

（点呼、宣告）

3. 会長あいさつ

4. 議題

報告 第1号 平成27年度事業計画について

第2号 平成27年度歳入歳出予算について

議案 第1号 平成27年度会費額に関する件

第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙について

5. 閉会の辞

司 会 理 事 姫野 耕一

副 会 長 松山 朝雄

議 長 玉城 武範

副 議 長 西川 裕

会 長 神村 武之

副 会 長 吉田 洋史

常務理事 山里 勇

常務理事 山里 勇

選挙管理委員会委員長 野崎 真敏

常務理事 江夏 京子

上記の日程にて、司会の姫野耕一理事により、第71回臨時総会が進行された。開会の辞が松山朝雄副会長から述べられた。議長は沖縄支部の玉城武範代議員、副議長に那覇中央支部の西川裕代議員が選出され、代議員48名中過半数の43名の出席を確認し総会の成立が宣言された。

神村武之会長の挨拶の後、議題に入った。

報告第1号「平成27年度沖縄県薬剤師会事業計画について」は、吉田洋史副会長から事業計画が滞りなく述べられた。部会については保険薬局部会が廃部されたこと、委員会については下記のように名称および職務分掌の変更、集約がされたとの説明があった。

事業計画についての代議員からの質問は、在宅関連事項に集中し、担当の笠原大吾理事が詳細に回答をされた。

<委員会の名称、職務分掌の変更、集約>

○学術研修委員会（旧：薬剤師学術研修委員会）

○医療安全対策委員会（旧：医薬品事故・過誤対策委員会）

○在宅委員会

保健福祉委員会の一職務であったが、これまで以上に力を注いでいく分野であることから独立することになった。

○地域保健開局委員会

開局委員会、保健福祉委員会、自殺対策委員会、基準薬局制度運営協議会を集約。規模は大きくなるが、これらは薬局で行う業務でありながら連携がとれていなかったこともあり、大きく一つにまとめて連携をとることを目的に設けられた。

○財務委員会

財務・収益事業部委員会と公益事業推進委員会を集約。

報告第2号「平成27年度歳入歳出予算について」と議案第1号「平成27年度会費額に関する件」は、山里勇常務理事から説明がなされ、特に質問も無く、了承された。



会 長あいさつ
神村 武之 会長



議 長：玉城 武範 代議員（左）
副議長：西川 裕 代議員（右）



会長候補者立候補
亀谷 浩昌 氏



監事立候補
大城 桂子 氏



監事立候補
友利 弘一 氏

< 立候補者 所信表明 >



司 会
姫野 耕一
理事



開会の辞
松山 朝雄
副会長



報告第1号
吉田 洋史
副会長



報告第2号
議案第1号
山里 勇
常務理事



在宅関連事項回答
笠原 大吾
理事



選挙管理委員会
野崎 真敏
委員長



閉会の辞
江夏 京子
常務理事

議案第2号「一般社団法人沖縄県薬剤師会
会長候補者及び監事選挙について」は、最
初に選挙管理委員会の野崎真敏委員長より、
次のとおり今回の選挙の経緯から説明がな
された。

「平成26年12月16日に神村会長名で
選挙の公示をした。これは、本会の会長候補
者及び監事選挙規則と同施行細則により、来
る平成27年6月に開催予定の第72回通常
総会とその直後に開催される臨時理事会にお
いて選定する、会長（代表理事）に係る候補
者を決定するための選挙である。この公示に
基づき、平成27年3月13日の午後5時を
以て候補者の届出を締め切り、選挙規則第6
条により候補者一覧表を本会事務所に掲示、
本日の臨時総会において候補者が選挙される
ことになっている。会長候補者に亀谷浩昌氏、
監事に大城桂子氏と友利弘一氏が立候補され
てきたが、3氏の届け出に不備は無く、3氏
ともに推薦を得てこれを承諾し立候補の届け
出をされている。今回は、会長候補者、監事
ともに立候補者数が員数を超していないので

選挙規則に則って、本日出席の代議員の議決
を経て、投票を行わずに、その候補者をもっ
て当選者としていただきたい。」

野崎選挙管理委員会委員長の説明の後、議
長と副議長の議事進行により、最初に3氏か
ら立候補の所信表明がなされた。その後、代
議員、選挙管理委員会、担当事務局員以外は
議場から退場させ閉鎖された。改めて出席代
議員数を確認し、各立候補者に対して挙手に
て当選の承認を得ることになった。結果、3
氏ともに大多数の挙手を得て選出された。退
場させていた役員と立候補者を再び入場さ
せ、改めて議長より3氏が選出された旨の報
告がなされた。

○会長候補者 亀谷 浩昌 氏

○監事 大城 桂子 氏

○監事 友利 弘一 氏

滞りなく会を進行してきた議長と副議長が
降壇し、閉会の辞が江夏京子常務理事より述
べられ、予定通りの時間で閉会となった。

（報告：事務局 大城 喜仁）

[第71回臨時総会出席者]

敬称略

<理事・監事>

- | | |
|------------------|--------------------|
| ○神 村 武 之 (会 長) | ○姫 野 耕 一 (那覇地区代表) |
| ○松 山 朝 雄 (副 会 長) | ○新 垣 秀 幸 (南部地区代表) |
| ○吉 田 洋 史 (副 会 長) | ○下 地 仁 (宮古地区代表) |
| ○田 場 英 治 (専務理事) | ○幸 地 良 信 (八重山地区代表) |
| ○亀 谷 浩 昌 (常務理事) | ○外 間 惟 夫 (病薬部会代表) |
| ○江 夏 京 子 (常務理事) | ○村 田 美智子 (女性薬部会代表) |
| ○山 里 勇 (常務理事) | ○我喜屋 美 香 (実務実習担当) |
| ○前 濱 朋 子 (常務理事) | ○笠 原 大 吾 (保健福祉担当) |
| ○玉 城 純 (北部地区代表) | ○大 城 桂 子 (監事) |

<代 議 員>

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| ○成川 賢一 (名護支部) | ○伊波 重宏 (浦添支部) | ○比嘉 真三 (那覇東支部) |
| ○屋嘉比康作 (名護支部) | ○比嘉 保 (浦添支部) | ○前田 峰伸 (那覇東支部) |
| ○江夏 恭範 (具志川支部) | ○吉富 弓江 (浦添支部) | ○新垣 晶市 (小禄支部) |
| ○川平 浩子 (具志川支部) | ○又吉美智子 (首里支部) | ○具志堅興信 (小禄支部) |
| ○福地 健治 (具志川支部) | ○安次富長洋 (那覇北支部) | ○上原 陽子 (南風原支部) |
| ○山内 広美 (嘉手納支部) | ○伊是名秀平 (那覇北支部) | ○川上雄一朗 (南風原支部) |
| ☆玉城 武範 (沖縄支部) | ○西平 克子 (那覇北支部) | ○城間 盛伸 (南風原支部) |
| ○仲井間 清 (沖縄支部) | ○川満 直紀 (那覇中央支部) | ○照屋 秀子 (南風原支部) |
| ○平田 明子 (沖縄支部) | ○鈴木 一徳 (那覇中央支部) | ○小湾 勝敏 (糸満支部) |
| ○石垣 満子 (沖縄支部) | ○渡慶次全康 (那覇中央支部) | ○高良 武和 (糸満支部) |
| ○長濱 照美 (沖縄支部) | ○我喜屋恵美子 (那覇中央支部) | ○松本 圭吾 (糸満支部) |
| ○新垣 慶朗 (宜野湾支部) | ◎西川 裕 (那覇中央支部) | ○荒井 千春 (糸満支部) |
| ○新川 祥平 (宜野湾支部) | ○上原 幸代 (那覇東支部) | ○古謝 真己 (平良支部) |
| ○仲座 方利 (宜野湾支部) | ○諸見川裕子 (那覇東支部) | |
| ○武富 弘記 (浦添支部) | ○入月 健 (那覇東支部) | |

☆：議長、◎副議長



代議員席側

第71回臨時総会資料

<報告第1号 平成27年度事業計画の件>

平成27年度 事業計画

～はじめに～

平成26年度は、新しく薬事法の名称が「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）」へと変更になり施行された。さらに、薬剤師法の一部改正により、薬剤師業務の拡充と役割が明確化した。医薬品販売及び調剤された薬剤の提供における薬剤師による薬学的知見に基づく指導が明記、義務付けられたが、これら改正の趣旨を十分に認識し、真摯に対応していくよう徹底する。

特に開局薬剤師は、地域に密着した健康情報の拠点として、医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等のセルフメディケーション支援や「かかりつけ薬局」としての機能、在宅医療への積極的な参画、介護・認知症等の初期相談、自殺防止対策、ジェネリック医薬品の使用促進、危険ドラッグの啓発活動など、専門性を活かした地域住民とのコミュニケーションにより、相談できる「かかりつけ薬剤師」となるべく、これら業務の拡充に向け取り組んでいく。

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」においては、より一層薬剤師としての職能を発揮することができるよう、在宅医療・終末期医療の推進、未就業薬剤師の復職支援を行っていく。

また、チーム医療での薬剤師が果たす役割も明確になり、周囲からの期待も高まっている。入院から地域、そして在宅へと、医師、歯科医師、看護師、介護支援専門員など多職種と連携を密にして安心、安全でシームレスな医療提供体制を確保していく。

最後に、分業バッシングや薬歴未記載などの社会的問題を受け、薬剤師業務の理念や職能倫理の周知を始め、医薬品医療機器等法、健康保険法などの法令遵守を徹底していく。

これらの課題に対応するとともに、組織強化を図り、地域住民・地域社会の健康の維持・増進に寄与することを目的に、以下の事業を行う。

1. 医薬分業の推進とかかりつけ薬局の普及啓発

近年、医療の質や安全性への国民の意識の高まりに加え、急速な医療技術の高度化や新薬の登場などにより薬物療法が複雑化している。また超高齢社会の移行、生活習慣病の増加等医療を取り巻く環境は益々厳しくなっている。これからの薬剤師には薬剤の適正使用、服薬指導、医療安全対策など幅広い分野に於ける役割が求められている。

沖縄県の医薬分業率は他府県に比較し上位を維持しているが、本年度も「かかりつけ薬局・薬剤師」の普及に加え、厚労省が「地域住民が身近で気軽に専門的な支援・相談が受けられる健康情報拠点事業薬局の増加」を目指しており、それに向けた研修会・講習会を充実させていきたい。

また、在宅医療推進の為に多職種との連携、薬薬連携の強化に取り組み、超高齢社会でチーム医療の一員として、薬剤師職能を大いに発揮していかなければならない。

お薬手帳は切れ目のない薬物治療のツールとして今年度も普及活動を継続していく。

不動態庫・備蓄ネットワークシステムは、一般名処方が増えている状況で後発医薬品使用増加に伴う不動態庫の抑制に有効であることから更なる啓蒙に取り組んでいく。

これらのことを踏まえ、本年度は以下の事業を行う。

(1) かかりつけ薬局・薬剤師の普及

今年度も、薬と健康の週間事業等で、かかりつけ薬局・薬剤師について県民へ周知、啓発をしていく。薬局薬剤師による処方薬の一元的な薬歴管理（お薬手帳）の他、後発医薬品の適正使用の推進、健康相談や一般用医薬品の販売を通じたセルフメディケーションの支援等を行う。

また自殺対策のゲートキーパーとして、業務の中でリスクの高い患者を早期に見つけ出し、適切な医療に結び付ける役割も担っていく。

(2) 在宅医療への薬局の参画

在宅療養支援病院・診療所、訪問看護ステーション等と連携し、各地域で情報交換会や研修会等を開催し、多職種連携の推進や薬剤師の資質向上など、多くの薬局が在宅医療に参画するための体制整備を例年に続き支援する。すでに実施の運びとなっている“地域ケア会議”への薬剤師の参加を通して、各地区・支部での活動の充実を図るべくこれを支援する。そのための、“在宅医療マニュアル”の作成を計画している。本マニュアルの作成は、昨年度からの継続事項であるが、平成27年の介護保険改正に鑑み、その内容を盛り込んだものとして本年度再検討して完成する。

あわせて、共同利用施設である無菌調剤設備(会営うえはら)の活用ならびに、医療用麻薬の適正使用に向けた各薬局の取り組みの推進も図る。さらに、支援ツールとして、薬剤師のフィジカルアセスメントの実践を促進するための講習会・研修会等を、おきなわクリニカルシミュレーションセンターを最大限に活用して行う。宮古・八重山地区へは、これらに関する出前講習会の実現に継続して取り組む予定である。

- ① (多職種連携である) 地域ケア会議への参加を見据えた多職種と共同の、あるいは各地区・支部における勉強会・講習会等の実施ならびに開催の支援 (一部新規)
- ② 無菌調剤施設利用研修、患者が自宅で使用する医療材料・衛生材料の供給に関与する体制の整備 (継続)
- ③ 医療用麻薬適正使用の推進 (継続)
- ④ フィジカルアセスメント講習会(BLS講習含む)の実施 (継続)
- ⑤ 在宅医療マニュアル(沖縄県薬剤師会編)の作成 (継続)

(3) 夜間・休日等の対応

地区薬剤師会とも連携をとり、夜間・休日等における医薬品等の供給を行う体制整備を推進し、医療提供施設としての役割を担っていく。

(4) 薬薬連携の推進

医薬分業を適正に推進するためには、薬局・病院等の薬剤師が患者の医療情報を共有して充実した医療に結びつける薬薬連携は必須である。また、超高齢社会における在宅医療への参画は重要で、入退院時の薬薬連携により、安全で良質な切れ目のない薬物治療を継続していかなければならない。今年度も医薬分業対策会議、医薬分業担当者会議を開催し、前記について充実させていく。

2. 医療安全対策への取り組み (～根付かせよう安全文化～)

医療の担い手である薬剤師の業務が拡大すると同時に、責任も重くなっている。加えて、国民の権利意識の高まりと法曹環境の充足に伴い、薬剤師に関する法的な紛争の増加が予想される。

昨今の現状を見るにつけ、開局・病診薬局において、資質向上や内部チェック体制整備などの医療安全体制の構築に努めていく必要がある。

下記を確認、順守し、取り組んでいく。

- (1) 薬局における医療安全管理指針、業務手順書の定期的な見直し（薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令「体制省令」による）
- (2) 薬局における安全管理のための職員研修の支援（研修を実施した場合は、開催要綱を3年間保存する）
- (3) 薬局管理者への調剤事故報告の徹底
- (4) 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の登録・報告の促進
- (5) その他

3. 生涯学習

生涯学習については各種認定制度があり、何れの制度においても積極的に取得することが望ましい。また各種研修会、講演会など学習機会は豊富にあるが、その学習成果を日本薬剤師会認定薬剤師制度などの認定の取得、あるいは学術大会で発表するなど、業績として残していくよう推進していく。

本会においては、論文作成や学会発表の技術向上やノウハウの伝授、研修会等を企画するなど、生涯学習を推進するための支援体制の充実を図る。

以下の事項を推進する。

- (1) 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」の登録及び利用促進
- (2) 日本薬剤師研修センター認定薬剤師の認定薬剤師取得の支援
- (3) 沖縄県薬剤師会学術大会の開催
- (4) 九州山口薬学大会への参加・発表促進
- (5) 地域薬剤師会生涯研修の計画及び実施の支援
- (6) 病院薬剤師会との共催による学術講演会の開催
- (7) 他団体の実施する研修会・講演会への積極的参加の促進
- (8) 日本薬剤師会学術大会への参加・発表促進
- (9) 新任・新人薬剤師研修会及び調剤実務研修の実施
- (10) 認定実務実習指導薬剤師の育成
- (11) 実務実習及び研修受入体制の整備と強化
- (12) 健康とお薬についての市民公開講座の開催

4. 関連事業

- (1) 月例「健康とおくすり相談会」
- (2) 「薬と健康の週間」事業（10月17日～10月23日）
- (3) 各種関連協議会への参加協力
- (4) 関連機関団体との協議及び懇談
- (5) 関係行政当局との定期的連絡協議
- (6) 賠償責任保険への加入促進
- (7) 県薬会報の発行
- (8) 薬剤師求人求職斡旋事業
- (9) 財政基盤の強化

- (10) 麻薬覚せい剤及び薬物乱用防止対策行事への参加協力
- (11) 公的介護保険制度への積極的参加
- (12) 「健康おきなわ2010」の企画実践

5. 委員会・部会

(1) 学術研修委員会

- ① 沖縄県薬剤師会学術大会の開催
- ② 新任・新人薬剤師研修会の開催
- ③ 九州山口薬学大会への参加・派遣・発表促進
- ④ 日本薬剤師会学術大会への参加・派遣・発表促進
- ⑤ 「JPALS」の登録及び利用促進
- ⑥ 薬剤師生涯学習の支援
- ⑦ 生涯教育担当者連絡会議等への参加
- ⑧ その他研修会・講演会の共催及び支援

(2) 医薬分業対策委員会

- ① 医薬分業対策会議の開催（薬薬連携及び医療従事者間の連携事業推進）
- ② 委員会主催研修会、講演会の開催
- ③ 不動態庫・備蓄ネットワークシステムの推進
- ④ お薬手帳の啓蒙活動
- ⑤ その他

(3) 医療保険委員会

平成26年度は、調剤報酬改定が行われ、保険薬局にとっては医薬分業のバッシングの波を受け厳しい改定となった。また、3年に一度実施される共同指導が、1年早く実施された。それと、平成27年度からは、保険薬局の数が増えてきとことに伴い、例年新規40件程度、既存が40件程度の個別指導から増えることが予想される。これらを受け平成27年度は、調剤報酬改定における留意事項や、突合点検における査定事例等の研修会を実施すると共に、共同指導・個別指導における指摘事項についての研修会を開催する予定である。特に共同指導においては、例年多額の返還金を伴っている現状に日頃から対策をしておかないといけない。

次年度も以下の事項について実施していきたい。

- ① 個別指導・共同指導における指摘事項についての研修会
- ② 適正な調剤報酬請求業務についての研修会
- ③ 「新規保険薬局勉強会」の開催
- ④ 会報への「調剤報酬請求業務Q&A」の掲載
- ⑤ その他

(4) 医療安全対策委員会

- ① 調剤業務・医薬品販売業務に関する過誤対策及び支援（継続）
- ② 薬局・薬店における「ヒヤリ・ハット」事例の収集と解析の推進
- ③ 医療安全講習会の開催
- ④ その他

(5) 在宅委員会

- ① 介護ならびに在宅療養（在宅医療）における服薬管理を支援する事業
 - 在宅服薬業務に関する種々の研修会・講習会の企画ならびに実施（日薬アクションプランに基づく支部支援事業、在宅において必要なフィジカルアセスメント、無菌調剤共同利用施設の利用推進、医療用麻薬使用推進を含む講習会の開催、支援ツール（在宅医療マニュアルの作成）の充実、地域ケア会議への参加促進）
講習会等は、各地区薬年1回以上、県薬として年1～2回の実施を目標とし、そのサポートを行う。また、多職種連携を推進する。
 - 在宅服薬支援薬局の県薬ホームページへの登録の推進（平成27年1月現在57薬局）ならびに他職種への情報提供の推進
- ② その他

(6) 地域保健開局委員会

- ① 一般用医薬品販売に関する事業
 - 一般用医薬品の適正使用と安全対策のためのスキルアップ研修の実施（生理学、症候学、トリアージ：人体の構造と薬の特性。症状からみた医薬品の適用とその作用）
 - 第一類OTC薬の取り扱い方法ならびにOTC薬等販売の推進
 - 改正薬事法施行後の医薬品販売制度の啓蒙の継続
 - 劇物・毒物及び規制医薬品等の取り扱いに関する研修会の開催（行政・警察との連携）
 - 薬事法・医療法等の変更による会員を支援するための対応（研修会開催等）
 - 救命活動の訓練、講習会の開催（他委員会等と協働）
 - DEM事業に関する事
 - 他機関（行政、製薬会社等）との連携
 - 療養介護に使用する器具の紹介および使用方法についての啓発（他委員会等と協働）
- ② 禁煙支援事業
 - 県薬剤師会認定禁煙支援薬剤師ならびに禁煙サポート薬局対象のフォローアップ研修会の開催
 - 禁煙サポート薬局（平成27年1月現在17薬局）の認定拡大
 - 行政とのタイアップ事業：県の長寿復活県民健康づくり事業ならびに“健康情報拠点推進事業”における「禁煙補助薬を使った薬局での禁煙支援の拡充（平成27年度実施予定：沖縄県、豊見城市、西原町、南城市、那覇市等）
 - 学校薬剤師部会と連携した、学校における未成年の禁煙支援の強化
- ③ 健康とおくすり相談会事業等薬剤師の予防医療に関わる事業
 - 健康チェック（動脈硬化度、体成分分析等）、生活習慣指導ならびにおくすり相談を、今年度は那覇地区以外にも広げ、他の部会・委員会との共催で行なう。特に、地域の“健康まつり、産業まつり”に参加しての実施を支援する（共催予定：女性薬剤師部会、青年薬剤師部会、学校薬剤師部会）
 - 看護協会、栄養士会、臨床検査技師会など他団体とタイアップした事業の展開の推進
 - なごみ会（沖縄県医療保健連合）主催第5回健康フェア企画準備（平成27年8月9日（日）に開催予定）
 - “薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業”の推進
（平成26年度は、“お薬バッグ事業”、“健康サポート事業”の2事業について、約70薬局の参加のもと実施した）

④ 自殺対策に関する事業

- 行政が行う自殺予防対策事業への協力
- 会員を対象とした自殺予防につながる研修会の開催(ゲートキーパースキルアップ研修会など)
- 気づき、つなぐための体勢づくり
- 学校薬剤師会と連携し、くすり教育に協力して命の大切さを伝える活動を展開

⑤ 県薬の他委員会・部会等との連携における事業推進

- 講習会等の開催(内容に合わせて、学校薬剤師部会、女子薬剤師部会、青年部会等との共催)

⑥ 薬と健康の週間に関する事業

⑦ 基準薬局制度に関する事業

⑧ 高度管理医療機器継続研修会に関する事

⑨ その他

(7) 広報委員会

① おきなわ薬剤師会報の年6回隔月発行・会報掲載用取材

② 薬剤師職能のPR(県民への啓蒙・学生との懇談)

③ 広報に関する事(本会主催行事の司会役等)

④ 「熟年の集い」企画・開催

⑤ マスコミ、医薬情報誌発行社等との情報交換会

⑥ 他団体、他薬剤師会広報委員との情報交換会

⑦ 薬科系大学との情報交換

⑧ その他

(8) 薬学生実務実習受入委員会

薬学生実務実習は6年目を迎える。今年度は九州地区、その他の地区合わせて11大学23名の受け入れとなる。ふるさと実習参加大学も年々増え新規で受け入れする大学は3大学になる。平成27年度からは薬学教育改訂コアカリキュラムがスタートし、これに基づいた実習がはじまる平成31年までに実習薬局の整備が求められる中、以下の事業項目を遂行する。

① 認定実務実習指導薬剤師養成のための講座開催

② 認定実務実習指導薬剤師養成のため九州山口地区ワークショップへ参加派遣(地区の充実のための人選及び公募)

③ 平成27年度(実務実習は平成31年度)から開始される新コアカリキュラムに対応するための実習薬局の整備

④ 実習開始まえの薬学生実務実習受入施設指導薬剤師の研修会開催

⑤ 実務実習指導薬剤師の適正配置と実習生のマッチング

⑥ 実習サポート体制の充実(実務実習オリエンテーションの開催等)

⑦ 地区を中心としたサポート体制づくりのため地区との連携を強化

⑧ 実習協力施設・委員会(在宅、学校薬剤師・薬局製剤・薬事情報センター、一般用医薬品・医薬品卸・地区委員会等)との連携強化

⑨ その他

(9) 災害対策委員会

- ① 県の防災計画・訓練等への積極的な参画
- ② 沖縄県薬剤師会BCP(事業継続計画)の作成・訓練
- ③ 災害時の救援活動等への医薬品・支援用品の準備
- ④ 災害拠点薬局・事前登録支援薬剤師の募集・訓練
- ⑤ 新型インフルエンザへの対応
- ⑥ その他

(10) 財務委員会

- ① 一般会計、収益事業部の予算決算に関すること
- ② 本会職員の賃金、退職金に関すること
- ③ 会費徴収に関すること
- ④ 公益法人移行への検討
- ⑤ 収益事業部の運営・経済面での監督、指導
- ⑥ その他

(11) 学校薬剤師部会

- ① 学校薬剤師としての資質の向上：講習会・研修会の実施（くすり教育に関する研修）／県内外研修会派遣と伝達講習会の実施／県薬学術大会・学校保健研究大会での発表／図書等の購入・斡旋／公認スポーツファーマシスト認定取得の推進
- ② 学校保健に関する調査、研究：「全国学校保健調査」の実施ならびにデータ解析
- ③ 学校環境衛生検査：未実施項目の実施への働きかけ（特に、日常点検の実施）
- ④ 学校薬剤師部会組織の強化：支部活動の活性化／学校薬剤師未配置校(公立学校では3校が未だ学校薬剤師未配置)をなくす／県薬試験検査センターへの検査委託の推進／部会員名簿の作成と学薬実施希望者のウェイティングリストの作成
- ⑤ 関係団体（県・市町村教育委員会／県・地区学校保健会／沖縄県医師会／沖縄県歯科医師会／沖縄県薬物乱用防止協会等）との協力と連携の推進（講習会へ講師派遣等）
- ⑥ 新学習指導要領に基づいた“くすり教育”の充実（ゲストティーチャーとしての授業への参加の推進）／薬物乱用防止教室の開催を通じた未成年の喫煙・飲酒防止ならびに薬物乱用防止活動の推進／授業用資料の充実（カプセル・軟膏模型等）
- ⑦ 県薬、各種委員会・部会との連携：薬学部実務実習生の受け入れと集合研修の実施／新人薬剤師研修会への講師派遣／自殺対策委員会への協力／保健福祉委員会への協力“健康とおくすり相談会”への参加
- ⑧ 県薬ホームページ“学薬の頁”の充実と県薬会報“学薬だより”への寄稿
- ⑨ 沖縄県学校薬剤師会40周年記念誌作成
- ⑩ その他

(12) 病院診療所薬剤師部会

- ① 組織と役員会の強化拡大
- ② 学術・教育研修活動の推進
- ③ 認定・専門薬剤師育成
- ④ 薬薬連携の強化・拡大

- ⑤ 学会、学術大会に対する協力
- ⑥ 病薬会誌発行とホームページの活用と充実
- ⑦ 実務実習の充実と新規事業への取り組み
- ⑧ その他

(13) 女性薬剤師部会

- ① 一般社団法人日本女性薬剤師会研修講座「平成26年度薬剤師継続学習通信教育講座（旧診療ガイドライン・薬剤コース）」の幹旋とスクーリングへの実施
- ② 漢方講座の定期的継続開催 年2回
- ③ 沖縄の薬草への知識を深める活動
 - 県薬会報誌連載「くらしの中の薬草学」の継続
 - ミニ薬草園の充実
- ④ 「妊娠・授乳と薬」についての知識を深める
 - 薬局窓口で役立つ情報の収集
 - 勉強会の開催
 - 病院薬剤師会「妊娠・授乳婦と薬」分科会との連携
- ⑤ 「健康とおくすり相談会」への参加
 - 保健福祉委員会との協働、なごみ会主催活動
- ⑥ その他

(14) 青年薬剤師部会

- ① 青年部組織強化（各地区での情報交換会）
- ② 研修会・勉強会・交流会の開催
- ③ 他県薬青年部との交流（九州各県との交流）
- ④ なごみ会主催県民健康フェアへの参画
- ⑤ 薬剤師職能に関する啓発活動（グッジョブ事業など）
- ⑥ 薬学生とU・Iターンに関する相談（薬剤師無料職業紹介所との協働）
- ⑦ その他（施設見学など）

(15) 卸勤務薬剤師部会

- ① 学術大会、研修会、フォーラム等への派遣
日本薬剤師会、日本医薬品卸勤務薬剤師会主催の学会、研修会、フォーラムへの派遣、九州山口薬学大会、沖縄県薬剤師会学術大会への派遣、参加
- ② 薬学生実務実習生の受け入れ対応
卸見学研修会の開催等、実務実習支援には積極的に協力する。
- ③ 継続研修の充実
平成27年度の継続研修テーマに則った研修の実施
- ④ その他
沖縄県薬剤師会会報への寄稿

(16) 行政薬剤師部会

- ① 組織の強化拡大
- ② 全国又は地方学会等への参加
- ③ その他

平成27年度 試験検査センター事業計画

1. 平成27年度計画的試験
 - 運営委員会で選定された計画的試験の品目についての試験及び成績書発送
 - 期間は、平成27年12月から平成28年3月頃まで
2. 学校関係の水質及び空気検査委託業務
 - 「学校環境衛生の基準」に則った環境検査
 - 飲料水及びプール水の水質検査
 - 教室等の空気環境検査「ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物」
 - 教室等の空気環境検査「ダニ又はダニアレルゲン」
 - 期間は、平成27年5月から平成28年2月頃まで
3. 試験検査センター運営委員会の開催
 - 試験検査センターの運営、機器購入、計画的試験品目の選定など
4. 会員並びに調剤薬局等から医薬品等の分析依頼に対応する
5. 試験検査センター業務に関連する薬事法上の事項に対する問い合わせへの対応
 - 薬局等の開設手続きに関し、薬局等構造設備規則に係わる器具等の相談に与る
 - 医薬品、化粧品等の製造・販売や規格に関する事項
6. 学校薬剤師業務に対する支援

平成27年度 薬事情報センター事業計画

1. 薬剤師会関連機関との機能連携業務
 - 会員のIT利用の支援。[行政、日薬及び県薬ホームページの活用等]
 - 全都道府県薬事情報センターの協同事業：DI図書館、情報バンク、「文献データベース Bunsaku」（担当雑誌：新薬と臨床、総合診療、臨床薬理、おきなわ県薬会報、産科と婦人科）等の事業の運用に協力。
2. 医薬品情報の管理業務
 - 医薬関連書籍の整備・管理
 - 医薬品情報データベース等の充実（適応外使用情報、質疑応答、ドーピング使用可能薬リスト）
 - 関係各機関からの医薬品情報の収集・整理・評価・文書管理
3. 会員への情報提供業務（収集・評価・伝達）

○電話による質疑応答業務	○会報（薬事情報おきなわ）の発行
○医療事故・ヒヤリハット事例収集業務	○緊急安全性情報等
○研修会の開催	○英語の指差し表
4. 一般への情報提供業務
 - 一般県民に対する苦情・相談業務「おくすり相談室」
 - 県民の頁（ホームページ及び会報）
 - PL相談窓口業務
5. 薬学生・実務実習受け入れ
6. ドーピング防止活動
 - スポーツファーマシスト委員会の事業
 - 薬剤師会ドーピング防止ホットライン業務
 - 沖縄県体育協会スポーツ医・科学委員会への協力
7. 地域公衆衛生活動の推進
 - 禁煙指導活動の支援
 - 薬物乱用防止活動の支援

第71回臨時総会資料

＜報告第2号 平成27年度歳入歳出予算について＞

平成27年度 収支予算

(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
	小 計	小 計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
【 経 常 収 益 】				
基 本 財 産 運 用 益	1,000	0	0	1,000
基 本 財 産 受 取 利 息	1,000	0	0	1,000
特 定 資 産 運 用 益	3,000	9,300	7,700	20,000
特 定 資 産 受 取 利 息	3,000	9,300	7,700	20,000
受 取 入 会 金	0	0	700,000	700,000
受 取 入 会 金 費	0	0	700,000	700,000
受 取 会 費	0	6,000,000	92,300,000	98,300,000
正 会 員 受 取 会 費	0	0	50,000,000	50,000,000
賛 助 会 員 受 会 費	0	0	1,000,000	1,000,000
賛助会員受会費(応能会費)	0	6,000,000	41,300,000	47,300,000
特 別 会 員 会 費	0	0	0	0
事 業 収 益	83,478,668	1,550,205,000	0	1,633,683,668
出 版 物 事 業 収 益	2,475,000	3,325,000	0	5,800,000
広 告 料 事 業 収 益	500,000	0	0	500,000
そ の 他 事 業 収 益	4,657,000	1,120,000	0	5,777,000
調 剤 報 酬 収 入	35,500,000	1,366,000,000	0	1,401,500,000
一 部 負 担 金 収 入	6,800,000	167,500,000	0	174,300,000
小 分 治 療 剤 収 入	15,960,000	0	0	15,960,000
保 険 外 料	780,000	8,100,000	0	8,880,000
受 取 手 数 料	150,000	4,160,000	0	4,310,000
保 険 等 調 整 増 減	0	0	0	0
新 規 契 約 賦 課 金	100,000	0	0	100,000
利 用 契 約 金	2,900,000	0	0	2,900,000
医 薬 品 検 査 手 数 料	156,650	0	0	156,650
水 質 検 査 手 数 料	10,830,042	0	0	10,830,042
空 気 検 査 手 数 料	2,669,976	0	0	2,669,976
保 険 受 託 収 入	0	0	0	0
受 取 補 助 金	4,289,279	0	0	4,289,279
受取地方公共団体補助金	2,500,000	0	0	2,500,000
受取補助金等振替額	1,789,279	0	0	1,789,279
受 取 寄 付 金	0	0	398,501	398,501
受 取 寄 付 金	0	0	1,000	1,000
募 金 収 入	0	0	0	0
寄 付 金 等 振 替 額	0	0	397,501	397,501
雑 収 入	152,000	240,300	2,575,000	2,967,300
受 取 利 息	2,000	20,300	14,000	36,300
受 取 賃 借 料	0	0	1,000	1,000
雑 収 益	30,000	170,000	30,000	230,000
事 務 受 託 収 益	120,000	50,000	2,530,000	2,700,000
経 常 収 益 計	87,923,947	1,556,454,600	95,981,201	1,740,359,748

科 目				実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
				小 計	小 計		
【 経 常 費 用 】							0
事 業 費				163,720,768	1,529,444,664	0	1,693,165,432
期 首 棚 卸 高				3,500,000	73,300,957	0	76,800,957
仕 入 高				27,475,000	1,299,400,000	0	1,326,875,000
期 末 棚 卸 高				△ 3,500,000	△ 73,300,957	0	△ 76,800,957
役 員 報 酬				2,964,000	768,000	0	3,732,000
給 与 手 当				43,432,500	73,407,500	0	116,840,000
雑 給				14,862,800	47,227,200	0	62,090,000
賞 与				2,503,800	14,200,000	0	16,703,800
退 職 給 付 費				2,090,180	3,395,000	0	5,485,180
法 定 福 利 費				5,890,000	18,201,000	0	24,091,000
福 利 厚 生 費				300,000	1,145,000	0	1,445,000
会 議 費				3,006,000	844,000	0	3,850,000
旅 費 交 通 費				12,630,000	5,660,000	0	18,290,000
通 信 運 搬 費				2,743,226	2,478,774	0	5,222,000
減 価 償 却 費				13,678,060	4,153,757	0	17,831,817
消 耗 品 費				3,810,000	6,600,000	0	10,410,000
修 繕 費				400,000	210,000	0	610,000
研 修 費				100,000	200,000	0	300,000
出 版 物 印 刷 費				5,240,000	2,860,000	0	8,100,000
会 報 発 行 費				0	0	0	0
地 代 家 賃				1,080,000	20,630,000	0	21,710,000
光 熱 水 料				2,083,200	4,032,600	0	6,115,800
賃 借 料				1,230,000	1,742,000	0	2,972,000
広 報 費				3,270,000	1,200,000	0	4,470,000
保 険 料				405,443	692,676	0	1,098,119
諸 謝 金				450,000	50,000	0	500,000
租 税 公 課				3,336,000	628,000	0	3,964,000
支 払 負 担 金				1,400,000	0	0	1,400,000
支 払 補 助 金				0	6,000,000	0	6,000,000
支 払 寄 附 金				155,000	0	0	155,000
委 託 費				0	0	0	0
外 注 費				2,050,000	0	0	2,050,000
支 払 手 数 料				1,896,000	8,483,000	0	10,379,000
交 際 費				113,000	94,000	0	207,000
管 理 諸 費				0	0	0	0
管 理 維 持 費				2,996,400	3,712,400	0	6,708,800
新 聞 図 書 費				20,000	280,000	0	300,000
新 貸 倒 引 当 金 繰 入 額				0	0	0	0
雑 費				0	0	0	0
支 払 利 息				1,930,159	249,757	0	2,179,916
商 品 廃 棄 損 失				180,000	900,000	0	1,080,000
雑 損 失				0	0	0	0
法 人 会 計 (管 理 費)				0	0	35,711,370	35,711,370
役 員 報 酬						2,268,000	2,268,000
給 与 手 当						6,300,000	6,300,000
雑 給						0	0
賞 与						0	0
退 職 給 付 費						240,000	240,000
法 定 福 利 費						840,000	840,000
福 利 厚 生 費						75,000	75,000

科 目			実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
			小 計	小 計		
表	彰	費			0	0
会	議	費			1,000,000	1,000,000
旅	交	通			3,500,000	3,500,000
通	運	搬			700,000	700,000
減	賃	却			1,370,000	1,370,000
消	耗	品			400,000	400,000
修	繕				200,000	200,000
出	版	物			0	0
会	報	発			0	0
地	代	家			0	0
光	熱	水			220,000	220,000
賃		借			360,000	360,000
広		報			0	0
保		険			150,000	150,000
諸		謝			200,000	200,000
租	税	公			600,000	600,000
支	払	負			13,700,000	13,700,000
支	払	補			0	0
支	払	手			1,100,000	1,100,000
交		際			900,000	900,000
管	理	維			1,300,000	1,300,000
雑		持			0	0
支	払	利			288,370	288,370
経 常 費 用 計			163,720,768	1,529,444,664	35,711,370	1,728,876,802
評価損益等調整前当期経常増減額			△ 75,796,821	27,009,936	60,269,831	11,482,946
評 価 損 益 等 計			0	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額			△ 75,796,821	27,009,936	60,269,831	11,482,946
2. 経常外増減の部			0	0		0
(1) 経常外収益			0	0		0
経 常 外 収 益 計			0	0		0
(2) 経常外費用			0	0		0
固 定 資 産 除 却 損			0	0	0	0
什 器 備 品 除 却 損			0	0	0	0
経 常 外 費 用 計			0	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額			0	0	0	0
会 計 振 替 額			0	△ 3,255,368	3,255,368	0
税引前当期一般正味財産増減額			△ 75,796,821	23,754,568	63,525,199	11,482,946
法 人 税 等			38,000	7,289,000	0	7,327,000
当期一般正味財産増減額			△ 75,834,821	16,465,568	63,525,199	4,155,946
一般正味財産期首残高			△ 33,635,057	261,593,603	400,212,257	628,170,803
一般正味財産期末残高			△109,469,878	278,059,171	466,992,824	635,582,117
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0	0		0
受 取 補 助 金 等			0	0	0	0
受取地方公共団体補助金			0	0	0	0
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額			△ 2,689,279	0	△ 397,501	△ 3,086,780
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額			△ 2,689,279	0	△ 397,501	△ 3,086,780
当期指定正味財産増減額			△ 2,689,279	0	△ 397,501	△ 3,086,780
指定正味財産期首残高			2,484,983	5,888,204	26,943,911	35,317,098
指定正味財産期末残高			△ 204,296	5,888,204	26,546,410	32,230,318
Ⅲ 正 味 財 産 期 末 残 高			△109,674,174	283,947,375	493,539,234	667,812,435

第71回臨時総会資料

＜議案第1号 平成27年度会費額に関する件＞

平成27年度会費額は、次の基準により徴収する。

1. 正会員

(1) ＜入会金＞ 10,000円

(2) ＜会費＞

正会員A 年額 54,000円（県薬会費36,000円＋日薬会費18,000円）

正会員B 年額 39,400円（県薬会費32,400円＋日薬会費7,000円）

※新規入会者に対して、上記会費内訳に示す日薬会費は、次のとおりとする。

正会員A →（9月までに入会 18,000円）（10月以降に入会 9,000円）

正会員B →（ ” 7,000円）（ ” 3,500円）

(3) ＜納付方法および早期納入割引＞

※ 会費納入は原則一括納入とする。

※ 納入方法は、口座引き落としを原則とし、やむをえない場合は振込とする。

※ 一括納入支払期限は平成27年7月末日とする。

※ 平成27年7月末日までに一括納入の場合、早期納入割引として

正会員A 3,000円、正会員B 2,700円を還付する。

参考（会員規程より）

正会員Aとは、薬局の開設者および管理薬剤師又は正会員Aであることを希望する者

正会員Bとは、正会員A以外の者

2. 賛助会員

(1) ＜会費＞

賛助会員A 年額 15,000円

賛助会員B 処方せん受付回数1回あたり8円（上限48万円）

(2) ＜賛助会員B会費の納付＞（会費規程より）

第7条 賛助会員Bは、薬剤師職能の向上に係る事業の経費として賛助会員B会費を毎月納付しなければならない。

2 前項の賛助会員B会費の額は、1箇月の処方せん受付回数に別表3に掲げる額を乗じて得た額（100円未満の端数は切り捨て）とする。

3 前項の処方せん受付回数は、前年1月から12月までの総処方せん受付回数とし、これを12等分した額を当年度4月から翌年3月にかけて支払うこととする。但し、上限を48万円とする。

4 年度途中の入会等、過去の実績の無い賛助会員Bは、入会後の処方せん受付見込み回数により、1箇月の平均回数を算出するものとし、その方法は理事会で定める。

5 賛助会員B会費の納付は、原則として会員の銀行等の口座からの口座振替によるものとする。

参考（会員規程より）

第9条 定款第5条に定める賛助会員の種別は、次のとおりとする。なお、この中で、

(1) から (4) 及び (6) に該当する者を賛助会員 A、(5) に該当する者を賛助会員 B とする。

- (1) 薬局経営者
- (2) 薬剤師以外の薬品の製造業及び卸業者等の関係者
- (3) 医薬品販売に従事する者
- (4) 薬科学生（薬剤師以外）
- (5) 薬局
- (6) その他希望する個人及び団体

2 正会員 A が在籍する薬局は、賛助会員 B として入会するものとする。

3. 特別会員

(1) <会 費>

特別会員 A 年額 10,000 円 特別会員 B 年額 1,000 円

(2) <納付方法>

- ※ 会費納入は原則一括納入とする。
- ※ 納入方法は、口座引き落としを原則とし、やむをえない場合は振込とする。
- ※ 一括納入支払期限は平成27年7月末日とする。

参考（会員規程より）

特別会員 A とは、年齢が満 80 才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者
(特別会員 A は沖縄県薬剤師会の会員資格のみを有するものとする)

特別会員 B とは、正会員、賛助会員以外の個人で、薬学を専攻する学生その他薬学及びそれに関連する知識・業務経験を有し、この法人の目的、事業に賛同するため入会を希望する者

<議案第 2 号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙について>

薬 局	薬 局	区 分
202	201	番受 号付
友利 弘一	大城 桂子	立候補者氏名
那覇地区	那覇地区	薬所 剤属 師地 会名 区
前田 峰伸	村田美智子	推薦者代表

監事立候補者名簿

病 薬	区 分
101	番受 号付
亀谷 浩昌	立候補者氏名
那覇地区	薬所 剤属 師地 会名 区
外間 惟夫	推薦者代表

会長候補者立候補者名簿

一般社団法人沖縄県薬剤師会
会長候補者及び監事 立候補者一覧

会務ハイライト

平成26年度 第1回
日薬九州ブロック会議開催される

日時：平成27年2月7日(土) 13:00～15:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



神村会長 田尻泰典 日薬常務理事 山本信夫 日薬会長

平成27年2月7日(土) 13時より沖縄県薬剤師会館において、平成26年度第1回日薬九州ブロック会議が開催された。参加人数は41名で内訳は日薬から4名、佐賀県薬2名、長崎県薬4名、熊本県薬4名、大分県薬3名、宮崎県薬3名、鹿児島県薬5名、沖縄県薬8名、福岡県薬7名、山口県薬1名(オブザーバー参加)であった。司会は当会の吉田洋史副会長が務めた。



専務理事
田場 英治

1. 開会の辞 沖縄県薬剤師会会長 神村 武之
当会の神村会長より、歓迎のあいさつと本会議がより良い意見交換の場となるようお願いの辞が述べられた。

催されることへの感謝の意と日薬及び薬剤師を巡る最近の現状と課題を中心に報告及び意見交換していききたいことが述べられた。

2. 挨拶

日薬九州ブロック世話人 吉富 直助
日本薬剤師会会長 山本 信夫
山本日薬会長より、沖縄県で本会議が開

3. 日薬報告及び報告に関する協議・意見交換

① 薬剤師を巡る最近の課題について
○薬局・薬剤師を活用した健康拠点事



沖縄県薬

日本薬剤師会



福岡県薬

佐賀県薬

長崎県薬

業の充実・強化

- 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の活用
- 危険ドラッグ対策の充実強化と薬剤師の活用
- 保険調剤等に対する非課税制度に関する仕入税額控除
- 薬学教育に係る長期実務実習費の非課税化
- 薬局に係る不動産取得税・固定資産税の軽減措置の創設
- その他の課題
 - ・地域医療確保のための薬局の体制
 - ・チーム医療における病院薬剤師の活用
 - ・薬学教育、生涯学習への支援
 - ・医療安全管理体制の整備
 - ・公衆衛生・感染症対策

② 薬局薬剤師を活用した健康拠点事業の推進

- 薬局の求められる機能とあるべき姿
- 薬局に求められる要件
- 地域における薬局の役割
- 薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進
- 都道府県における事業項目例（抜粋）
- 「日本再興戦略」改訂2014

- 薬局が健康管理支援・・・厚労省モデル事業

- 事業が目指すもの
- 事業で行うべきこと

③ 地域包括ケアシステムと医療介護総合確保方針について

- 人口ピラミッドの変化
- 社会保障・税一体化改革で目指すもの
- 医療・介護機能再編の方向性イメージ
- 機能分化推進のための仕組み
- 地域医療ビジョンについて
- 医療機能の分化連携の取り組みの流れ
- 地域包括システム
- 都道府県別高齢者人口（65歳以上）の増加数
- 地域包括ケアシステム構築（概念図）
- 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律
- 地域における医療及び介護を総合的に確保するための仕組み
- 医療・介護提供体制の見直しに係る今後のスケジュール

④ その他

- 薬剤師資格証の発行について



熊本県薬

大分県薬

宮崎県薬



宮崎県薬

鹿児島県薬

山口県薬

沖縄県薬

4. 九州ブロック協議事項

① 九山保険担当者並びに介護保険担当者における協議会の開催について(依頼)

大分県薬剤師会会長 安藤 哲也

安藤大分県薬会長より、標記の協議会を開催し意見交換したいことが提案され、満場一致で了承された。協議会タイトルについては、検討することになった。

② 休日・夜間救急における管理薬剤師の兼務について

沖縄県薬剤師会会長 神村 武之

神村会長より、薬局では、24時間調剤

体制が求められているが、全国的な薬剤師不足の中、それらのことに対応するためには、休日・夜間救急における管理薬剤師の兼務は必須と思われる。当県薬では、沖縄県の担当課および保健所に積極的に要望していることが述べられた。

山本日薬会長より、管理薬剤師兼務については、必要に応じて各県単位での積極的な対応してほしい旨が述べられた。

参加した各県薬の4県薬からは、県の了解のもと一定の条件で管理薬剤師兼務を実施していると述べられた。

以上の内容で進行された。引き続き、平成26年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会が開催され、終了後の懇親会（料亭那覇）では総勢53名の参加があり、琉球舞踊を観ながらの楽しいひとときを過ごし、沖縄の夜、2次会へ流れて行った。

＜日薬九州ブロック会議出席者＞

○山本 信夫（日本薬剤師会会長）	○寺山 善彦（日本薬剤師会専務理事）
○田尻 泰典（日本薬剤師会常務理事）	○吉田 力久（日本薬剤師会理事）
○藤野 哲朗（福岡県薬剤師会会長）	○濱 良一（福岡県薬剤師会副会長）
○井上 章治（福岡県薬剤師会副会長）	○三浦 公則（福岡県薬剤師会副会長）
○原口 亨（福岡県薬剤師会専務理事）	○福井 豊登（福岡県薬剤師会常務理事）
○小田 真稔（福岡県薬剤師会常務理事）	○吉富 直助（佐賀県薬剤師会会長）
○曲渕 直喜（佐賀県薬剤師会副会長）	○宮崎長一郎（長崎県薬剤師会会長）
○田代 浩幸（長崎県薬剤師会副会長）	○蒲池 芳明（長崎県薬剤師会副会長）
○井手 陽一（長崎県薬剤師会常務理事）	○廣田 誠介（熊本県薬剤師会会長）
○江上 祥一（熊本県薬剤師会副会長）	○村瀬 元治（熊本県薬剤師会副会長）
○神田 晴生（熊本県薬剤師会専務理事）	○安東 哲也（大分県薬剤師会会長）
○副 千秋（大分県薬剤師会副会長）	○森 一生（大分県薬剤師会副会長）
○田代 和久（宮崎県薬剤師会会長）	○日高華代子（宮崎県薬剤師会副会長）
○小山 明俊（宮崎県薬剤師会専務理事）	○内野 悟（鹿児島県薬剤師会会長）
○上野 泰弘（鹿児島県薬剤師会副会長）	○吉水 久純（鹿児島県薬剤師会副会長）
○西島 徹（鹿児島県薬剤師会専務理事）	○沼上 正樹（鹿児島県薬剤師会事務局長）
○神村 武之（沖縄県薬剤師会会長）	○吉田 洋史（沖縄県薬剤師会副会長）
○田場 英治（沖縄県薬剤師会専務理事）	○江夏 京子（沖縄県薬剤師会常務理事）
○亀谷 浩昌（沖縄県薬剤師会常務理事）	○山里 勇（沖縄県薬剤師会常務理事）
○宮城 敦子（沖縄県薬剤師会常務理事）	○前濱 朋子（沖縄県薬剤師会常務理事）
○中原 靖明（山口県薬剤師会会長）	

敬称略

会務ハイライト

平成26年度第2回地区薬剤師会会長会議報告

日時：平成27年2月28日（土）19:00～21:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



専務理事 田場 英治

平成27年2月28日（土）19時より、沖縄県薬剤師会館にて平成26年度第2回地区薬剤師会会長会議が下記の内容で開催された。

1. 会長あいさつ

2. 報告

（1）琉球大学への薬学部設置に関する要望書について

米軍施設「西普天間住宅地区」返還跡地に新薬の研究開発拠点「沖縄メディカル・イノベーション」（OMIC）の創設が検討され進められている。日米の大学が連携して創薬の研究者養成、新薬の開発製薬会社の拠点を置き、医療人の人材育成に繋がりたいとの構想がある。更にはがん治療重粒子線治療施設を設置し医療産業拠点とする基本構想を策定した琉球大学医学部並びに附属病院の移転が企画されている。それを機に同大学に薬学部（1学年60～70名程度で地元から10～15名程度の枠）を創設して頂きたいと参議院議員の島尻安伊子氏にお願いしてきた。

（2）小児救急電話相談事業「＃8000」

小さなお子さんをお持ちの方が、休日、夜間の急な子どもの病気にどう対処したらよいのか、病院の診療を受けたほうがいいのかなど、判断に迷ったときに＃8000をプッシュすることにより、お住まいの都道府県の相談窓口へ自動転送され、看護師、医師からお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けるシステムで、19時～23時まで看護師相談員がお薬についての相談が必要となった場合に、今回か

ら会営薬局医療センター前の専用回線で薬剤師会も電話対応することになった。

（3）各種補助金について

- ①薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業
お薬バッグ事業に69薬局、健康チェックに28薬局が参加することになった。
- ②平成26年度沖縄県地域医療介護総合確保基金事業で、薬剤師確保対策支援事業に128万円の予算が付き実施することになった。

（4）委員会・部会編成案について

各小委員会を無くし、常設の委員会に集約してワーキンググループ（目的、設置期間等を設け、有識者を選出する）として取り組むこととする。お薬手帳検討委員会、不動在庫・備蓄ネットワーク委員会は医薬分業対策委員会に集約、自殺対策委員会は地域保健開局委員会に集約、スポーツファーマシスト委員会は薬事情報センター委員会に集約する。

また、薬剤師学術研修委員会を学術研修委員会、医薬品事故・過誤対策委員会を医療安全対策委員会、試験検査センター運営委員会を試験検査センター委員会、薬事情報センター運営委員会を薬事情報センター委員会に名称変更。保健福祉委員会を在宅委員会と地域保健開局委員会に分け、開局委員会と基準薬局制度運営委員会を地域保健開局委員会に集約、財務・収益事業部委員会と公益事業推進委員会を財務



委員会に集約することになっている。

部会編成については、保険薬局部会を廃止し、学校薬剤師部会、女性薬剤師部会、病院診療所薬剤師部会、行政薬剤師部会、卸勤務薬剤師部会、青年薬剤師部会は従来通りとする。

(5) 移動理事会開催について

平成26年11月8日は北部地区、平成27年2月14日は八重山地区でそれぞれ開催した。

(6) 代議員選挙について

(7) 会長候補者及び監事選挙について

立候補届出締切が3月13日となっている。

(8) 第71回臨時総会

平成27年3月29日(日)13時から県薬ホールで開催する。

(9) 各地区からの現況報告

(10) その他

北部地区より、北部保健所から大人の薬を子供が間違えて飲むケースが増えているという話があり、子供の誤飲防止などポスターによる啓発の協力依頼があった。県薬ではポスターを各薬局に配布することになった。この件について中部地区から、お薬手帳に貼れるようなサイズで誤飲防止に関連した連絡先等の入ったパンフレットを作成する提案があった。

3. 協議事項

那覇地区より、地区と県薬の委員会、部会などが協働できるような関係を築きたいという提案があり、活発な意見が出て協議し終了した。

その後、居酒屋首里殿内で親睦会が行われた。

平成26年度 第2回 地区薬剤師会長会議出席者

(敬称略)

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| ○神村 武之 (沖縄県薬剤師会会長) | ○吉田 洋史 (沖縄県薬剤師会副会長) |
| ○田場 英治 (沖縄県薬剤師会専務理事) | ○山里 勇 (沖縄県薬剤師会常務理事) |
| ○江夏 京子 (沖縄県薬剤師会常務理事) | ○宮城 敦子 (沖縄県薬剤師会常務理事) |
| ○亀谷 浩昌 (沖縄県薬剤師会常務理事・那覇地区薬剤師会会長) | |
| ○神山えり子 (北部地区薬剤師会会長) | ○浅沼 健一 (北部地区薬剤師会理事) |
| ○前原 信照 (中部地区薬剤師会会長) | ○伊佐 常隆 (中部地区薬剤師会理事) |
| ○川満 直紀 (那覇地区薬剤師会副会長) | ○新垣 秀幸 (南部地区薬剤師会会長) |
| ○川満 正啓 (宮古地区薬剤師会会長) | ○山城 専 (八重山地区薬剤師会会長) |

研修会

『管理薬剤師業務講習会』開催される

日時：平成27年3月15日(日) 10:00～12:00

会場：沖縄コンベンションセンター 会議場A1



医療保険委員会
宮城 幸枝

去る3月15日に沖縄コンベンションセンターにて「管理薬剤師業務講習会」が開催されました。当初はスクール形式での座席予定でしたが、急遽、座席をシアター形式に変更しなければ会場に入れないくらい多くの申し込みがあり、352名参加で会場は満席となりました。

今回は、「管理薬剤師業務」に特化した内容という事で企画され、1つ目は沖縄県保健医療部薬務疾病対策課の津波氏による「薬事監視の状況について」、2つ目は医療保険委員会委員長の仲真氏による「管理薬剤師業務」についてという講習内容でした。

津波氏からは、「平成26年度医薬品等一斉監視指導の結果」「薬局等構造設備規則の改正」など、主に今回の薬事法の改正点とそ

の基準に適合しているか等を確認した監視指導について話されました。また、「薬歴未記載」の問題点から「調剤に従事する薬剤師の員数」が満たされているのかを把握するために調査を行うとのお話もありました。

仲真氏の講習内容は、日頃行っている業務の一つひとつ、それこそ、処方箋と調剤録の記載事項や薬局の管理、調剤報酬請求までを「薬剤師法」「薬事法」「健康保険法」「薬局業務運営ガイドライン」「保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則」等の関連法規に沿ってわかりやすくお話いただきました。

当然のことながら、私たち薬剤師はこの関連法規は熟知しながら業務に携わらなければならないのですが、全てしっかりと行えているだろうか、忙しさに流されてつい

<講習会次第>

1. 会長挨拶
2. 「薬事監視の状況について」
3. 「管理薬剤師業務」について
4. 閉会の挨拶

司 会	医療保険委員会	照 屋 林一郎
沖縄県薬剤師会	会 長	神 村 武 之
沖縄県保健医療部薬務疾病対策課		津 波 昭 史
医療保険委員会	委員長	仲 真 良 重
沖縄県薬剤師会	副会長	吉 田 洋 史



「管理薬剤師業務について」 仲真 良重 氏



「薬事監視の状況について」 津波 昭史 氏



多くの会員が参加した

平成26年度 管理薬剤師業務講習会



主催・企画担当者で記念撮影

抜けてしまっていることはないだろうか、今回の講習会は、改めて日頃行なっている業務を振り返る良い機会となったと思います。しっかり行えているところはこれまで通り、また不十分だと感じたところは、改善に向けて取り組んでいきましょう。

今、私たち一人一人が初心に帰り、今回学んだことを「薬剤師」として「管理薬剤師」として関連法規を遵守し、業務を遂行することが重要だと思います。そして、「調剤バッシング」や「分業バッシング」などがある中で、国民の信頼を損なうことがないように、薬剤師としての役割をしっかりと果たしていくよう努めていきたいと思っています。

研修会

第5回 在宅医療に関する講習会 報告

日時：平成27年3月1日（日）12：00～16：15

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

協賛：(株) 沖縄三和メディカル、(株) 大塚製薬工場、ニプロ（株）
ティーアンドケー（株）、(株) ジェイ・エム・エス



(株) たいよう薬局 赤木 宗範

去る3月1日の第5回在宅医療に関する講習会に参加しましたので報告致します。

○ランチョンセミナー

「経腸栄養剤の最近の話題」

イーエヌ大塚製薬(株) 学術部

一條 昌志 先生

フレイル・サルコペニアと栄養の関係性、ONSの有効性またツールとしてラコールNF半固形剤の提案、診療報酬改定から予測される事、口腔ケアについて講演されました。

印象的なものとして1日3食しっかりとタンパク質を摂取することの重要性が解説されていました。高齢者のみならず、それ以外の世代でも重要なことであると認識しました。

普段、朝の食事を抜く、パンやシリアルだけで済ませてしまう人は意外と多いのではないのでしょうか。

また、経腸栄養剤を半固形することにより、逆流を防止、注入時間の短縮、生理的な消化管運動による下痢の予防などのメリットの解説がされていました。



一條 昌志 氏

同様なケースで悩む事例にすぐにでも現場で提案できる内容で大変参考になりました。

○視察報告「薬剤師の参加する地域ケア会議」

保健福祉委員会委員長

笠原 大吾 先生

地域ケア会議が実施されるに当たり、先進県と言われる大分県別府市、杵築市の地域ケア会議を視察してきた様子についてご報告いただきました。

傍聴の感想では、薬剤師は、地域ケア会議の専門職アドバイザーとして必要不可欠であるとのことでした。ケア会議の参加メンバーは17～18名でかなり大規模で驚きました。また患者さん1症例当たり20～30分を要していたようで、かなりの時間がかかっていることに驚きました。労働人口が減り、高齢者は増え続けていく中で、現実にはやっていけないのだろうかという疑問も湧きました。

しかし、現実には地域ケア会議は平成27年度より実施され、次年度より宮古島市で地域ケア会議モデル事業が実施されます。地域



笠原 大吾 氏

それぞれの包括ケアシステムが姿を現す段階に来ています。薬剤師としてどう地域を支えていくのか？どうやって業務を回していくのか？改めて問われたように思われました。

○基調講演「地域包括ケアシステムと薬剤」

長崎県薬剤師会 在宅医療委員会委員

中村 美喜子 先生

地域包括システムの解説、構築プロセス、地域ケア会議について講演頂き、実際に長崎県で行われている業務についてお話し頂きました。

実際に薬剤師が何をしているのかを聞くことができ大変参考になると共に、ならば私もと勇気を頂いた薬剤師も多かったのではないのでしょうか。先生は医師や他のスタッフともよくお食事や会合に出かけるようです。

<プログラム>

○あいさつ

理事・保健福祉委員会委員長 笠原大吾

○ランチョンセミナー「経腸栄養剤の最近の話題」

イーエヌ大塚製薬(株) 学術部 一條昌志

○視察報告「薬剤師の参加する地域ケア会議～大分県の実状と宮古島市の模擬ケア会議～」

理事・保健福祉委員会委員長 笠原大吾

○基調講演「地域包括ケアシステムと薬剤師～地域ケア会議への参画を考える～」

長崎県薬剤師会 在宅医療委員会委員 中村美喜子

○グループワーク「模擬地域ケア会議」

○質疑応答

○閉会の辞

常務理事 江夏京子



中村 美喜子 氏

業務をスムーズに行うために仕事以外を含めた普段からのコミュニケーションが大事であることは間違いが無いようでした。

実際には、結果→課題→修正と行っていくようです。模擬で行うことでケア会議では一体何をするのか？という不安が取り払われた薬剤師も多かったのではないのでしょうか。また、様々な意見が出すぎてしまい、まとまらなかったり、時間がかかってしまったケースも多いように見られました。

何よりもまず実際にケア会議を行っている薬剤師のもとでシュミレーションできたことが大きな収穫でした。

ただ、残念なことに模擬ケア会議前に退席されてしまった方が多々おられました。試験ではなく実際に何をすべきかを知る場でした。退席はもったいないです。

模擬ケア会議は今後も研修プログラムに入れ、より多くの薬剤師が参加していただけたら良いと思いました。

○グループワーク「模擬ケア会議」

中村先生からご指導いただき、薬剤師、民生委員、ケアマネージャー、書記、発表者で5名1組になり、実際にあった事例をもとにケア会議を開きました。

課題を出す→目標を立てる→解決へのプロセス→担当者→期日の順に支援計画練り発表いたしました。

グループワークでは発表で終わりましたが、



グループワーク「模擬ケア会議」

研修全体を通して、薬剤師として実際に何をするのか、何が行われているのかが見えて大変有意義な研修となりました。

研修会

平成26年度自殺予防対策事業 ゲートキーパー養成研修会開催

日時：平成27年3月8日(日) 10:00～12:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



自殺対策検討委員会
委員長 村田 美智子

去る3月8日(日)の10時から12時半まで、31人の会員が参集し、薬剤師会館において、平成26年度自殺予防対策活動の一環としてのゲートキーパー養成研修会を開催しました。

初めに、埼玉県薬剤師会が作成したDVDを視聴しました。二部構成になっていて、前半は、眠剤を過量服用して不足をきたしたため早めの受診となった患者へのアプローチ例、後半は、配偶者の降圧剤を受け取りに来局した妻へのアプローチ例でした。前者は背後にうつ症状が垣間見られ医師への情報提供となり、後者は配偶者にアルコール依存症が疑われる例でした。「うつ」と同じように「アルコール依存」も自殺度が高いことから、2例を挙げての研修用DVDで、非常に参考になりました。(視聴ご希望の方は、県薬剤師会までご一報下さい。)

次の沖縄県健康長寿課の喜納みどり主任からは、自殺をめぐる沖縄県の現状と取り組みについて、国の情報と比較しながらの説明がありました。国が平成24年度に自殺者3万人をきったことに呼応して、沖縄県も300人を割り267人と減少しました。しかし、その後25年度は278人、26年度も12月推定278人と、微増の傾向にあるとのことでした。自殺は社会的損失が大きく、国の自殺予防対策事業が平成29年度まで計画されていることもあり、県としても今後とも取り組んでいくとの説明でした。

最後に、沖縄県立総合精神保健福祉センターの仲本晴男所長より「うつ病の最近の知

見と自殺～認知行動療法によるうつ病予防を含めて～」と題してのご講演をいただきました。ストレスの捉え方、いわゆる新型うつ病を含めての適切な診断のありかた、認知行動療法による治療、不幸にして自殺既遂が生じた場合の遺族や同僚に対する上司の対応等、講演は多岐にわたりました。薬局におけるゲートキーパーとしてのスキルアップに留まらず、我が身に置き換えて、家庭や職場においても参考になる講演でした。うつ病も早期発見、早期対応が大切であること、萎縮を伴ううつ病があるとはいえ認知症による萎縮部位とは違うこと、うつ病は正しく診断し認知行動療法に取り組めば必ず治るという力強いお言葉がありました。センターでは、主治医からの認知行動療法希望患者紹介も受け付けているそうです。

講演の詳細については、当日参加した上山達矢先生にご報告いただいておりますので次頁に掲載します。



主催者あいさつ
村田 美智子氏



司 会
松本 圭五氏

< 式 次 第 >

○ あいさつ

司会 自殺対策検討委員会 松 本 圭 五
自殺対策検討委員会 委員長 村 田 美智子

○ 埼玉県薬剤師会作成DVD視聴

「心に悩みを抱えた患者の支援 ～ゲートキーパーとしての薬局・薬剤師～」

講演1 『沖縄県の自殺対策の現状と取り組み』

沖縄県 保健医療部 健康長寿課 精神保健班 喜 納 みどり

講演2 『うつ病の最近の知見と自殺予防 ～認知行動療法によるうつ病予防を含めて～』

沖縄県立総合精神保健福祉センター 所長 仲 本 晴 男

<自殺予防対策事業ゲートキーパー養成研修会に参加して>



ライム薬局
上山 達矢

埼玉県薬剤師会作成DVDを視聴

心に悩みを抱えた患者の支援

～ゲートキーパーとしての薬局・薬剤師～

薬局で薬剤師としてどのような自殺予防対策ができるのか。埼玉県薬剤師会が作成したDVDでは、夫との喧嘩や子どもの受験でストレスを感じてしまい眠剤を過量服用してしまった主婦のケース、失職したことをきっかけに夫が朝からずっと飲酒していることに悩んでいる主婦のケース、2つの例があげられていた。

日々、忙しく業務に追われていると機械的に患者様と接してしまいがちである。どちらのケースでも重要なことは薬剤師が患者様の小さな変化に気づくことや薬の処方変更等はどういった原因があるのか、薬剤師から患者様に声掛けし傾聴することなのだろう。自分から話し出すには難しい事情が多い。また、うつ病やアルコール依存といった病気にはまだ「意志が弱いから」「人に甘えている」といったイメージを持っている方も多い。誤った病識を正してあげるのも薬剤師の重要な仕事である。

そして、身の回りに相談できる人がいるかどうかを確認し必要ならば関係機関の連絡先等も伝え、必要なら主治医へ情報をフィード

バックし、その後を注意深く見守る。

眠剤や安定剤などを過量服用した過去がある方は自殺者の中でも高い割合という事実があるため、眠剤や安定剤を処方日数よりも早く処方箋を持ってくる方には特に注意が必要だと感じた。

しかし、声掛けや傾聴をしようにも薬局の構造が患者様のプライバシーにしっかりと配慮されていない薬局も多いと思う。人目が気にならず、周りに会話の内容が聞こえないようにすると言った薬局の作り自体も見直さなければ相談したいと思っている患者様も相談できないだろう。

ソフト面とハード面の両方を整えるためにも、まずできることを少しずつでも始めて行くことが求められていると思う。



埼玉県薬剤師会作成DVD視聴

講演 1. 沖縄県の自殺対策の現状と取り組み

沖縄県保健医療部健康長寿課の喜納みどり氏より、自殺の現状、自殺騒動対策推進の枠組み（国、県）、県の取り組みについて報告と説明を聞く。

国際的にみて日本は自殺率が高く大きな社会問題となっている。県別でみても沖縄県は全国の水準よりも自殺の割合が高い状態がつづいており県内でも大きな問題である。自殺の原因として精神疾患が一番高いのも医療従事者にとっては大きな課題であると思う。

薬剤師として精神科医、救急医との連携の仕組みを作っていく、薬局にてなにか気づくことがあれば医療機関等への情報提供を行っていくなどの行動も求められていくと思う。



喜納みどり氏

講演 2. うつ病の最近の知見と自殺予防 ～認知行動療法によるうつ病予防を含めて～

沖縄県立総合精神保健福祉センター所長の仲本晴男先生より、社会の変化に伴ってうつ病のタイプも変化してきていること、うつ病に対する正しい理解と対応、集団認知行動療法についてなど貴重な話を聞くことができた。うつ病デイケア等も行っている仲本先生から現場での生の声を聴くことができたのではないかと思います。

認知行動療法は薬物療法と効果は同等であるというのが一般的となっており、欧米ではうつ病治療への第一選択ともなっているが国内ではまだまだ知名度も低い。認知行動療法はうつ病の治療や再発予防だけでなく多



仲本 晴男氏

くの人にとって有益な内容であるため、もっと一般的になるべきだと思っている。

ストレスには外側からくる避けることのできないものと、内側からくる自分自身が作り出しているものがある。ストレスの総量を減らすために自分自身が作り出しているストレスを減らすことができればすべての人にとって良いことであるのは明らかである。

気分と思考と行動の3つはそれぞれ独立したものはあるが実際ほとんどの人はそれぞれが繋がっているように感じているのではないか。なぜかわからないがムカムカして子どもを叩いてしまったり、家でリラックスしているのに苦手な上司や仕事のことを考えて落ち込んでしまったりする経験は多くの人にあるだろう。気分を把握しコントロールする方法を少しずつ行っていく、思考を修正することで行動は前向きに変化するし、そうなれば気分も少しずつ良くなり落ち着いてくる。

今回の研修にぜひ参加したかった理由の一つとして、私自身がうつ病で1年半休職した経験があり、毎日希死念慮に苦しめられていたが、仲本先生の行っているうつ病デイケアに参加し、集団認知行動療法を受けたことで復職することができ、再発率の高いうつ病で今のところ3年間は再発することなく生活ができているからである。認知行動療法に命を救われた思いであるため、うつ病等の治療の選択肢の一つとして全国でもっと広がってほしい。そのためには今回の研修に参加した皆様にはぜひ認知行動療法について調べ、日常生活で使えることを実践し、内側のストレスを減らし、その効果を感じてもらえれば周りの人にも教えたくなるだろう。認知行動療法が少しずつ知られていけば結果として自殺者も減ってくるのではないかと思います。

最後に参加者からの質問に対して、仲本先生がうつ病は治る病気であるし後遺症もありませんと聞いた時はとても勇気づけられた気がした。

意見交換会

平成26年度 FAXコーナー担当者意見交換会報告

日時：平成26年 2月15日（日） 14:00～16:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

医薬分業対策委員会
委員長 池間 記世



2月15日（日）午後2時より県薬剤師会館ホールにて、医薬分業対策委員会主催の各地区FAXコーナー担当者意見交換会が開催されました。県立北部病院・北部地区医師会病院・県立中部病院、ちばなクリニック、那覇市立病院、沖縄赤十字病院、県立南部医療センター・子ども医療センター、大浜第一病院、友愛会南部病院、豊見城中央病院、与那原中央病院、県立宮古病院、県立八重山病院、琉大医学部附属病院の各FAXコーナー職員（19名）と各地区薬の担当者が参加しました。この日は前日の土曜日に八重山で県薬の移動理事会があり、出席予定の役員達は、移動理事会から帰って休む間もなく此の会議に出席していただきました。いつもの事ながら定刻前にはFAXコーナー職員達は着席しており、参加者達の意識の高さが感じられて、応需薬局としてFAXコーナー職員の存在はおろそかには出来ないという思いを強く持ちました。会議は神村薬剤師会会長の、FAXコーナー職員達の日頃の労をねぎらう挨拶に続いて、あらかじめ各地区にお願いしてあったアンケート結果について川上善久委員より報告がありました。その中からいくつか取り上げます。（詳細は次頁参照）

☆応需薬局の問題点について

- ・ 備蓄がないからとすぐ断る（急がないので取り寄せて欲しいと患者が希望しても断る）
 - ・ 同じ薬でも毎回備蓄があるか確認して欲しいとFAXコーナーに頼む
- 処方内容をファクシミリ送信する事は、患者の調剤待ち時間の短縮及び地域分業による患者サービスの向上に資することを目的として行うものであり、応需薬局の

便宜を図るためではないので、今後は備蓄を含めて問題がある時は、薬局薬剤師と患者との間で話をしていただき応需薬局の責任で解決を図って頂くようにする。

→薬剤師法第21条において、調剤の求めがあった場合に「正当な理由」がない限り調剤拒否を禁じています。もちろん備蓄がないと言うことは「正当な理由」にはなりません。

☆ファクシミリ送信枚数が減って、薬局からの入金金額が減少傾向にあるので、今後これまでにどのようにFAXコーナーを維持出来るのかどうか不安である。

→年々医療機関側の人も変わっていくので、地区薬役員も医療機関側と密接に話し合いの場を持って「患者のためのFAXコーナー」であることを理解していただき、FAXコーナーを利用しやすくして送信枚数を減らさないようにする事が大切。

→FAXコーナー職員が減り患者に親切に教えてくれる人がいなくなれば、患者は必然的に門前の薬局に行くことになり、医薬分業の本筋からはずれることになります。

短い時間ではありましたが、今回の会議で、地区薬の役員がFAXコーナーと医療機関や応需薬局との間に立って迅速に問題解決に当たっている地区では、FAXコーナー職員も安心して業務に専念出来るように思われました。またFAXコーナー職員から麻薬取り扱い可・配達可・臨時休業など薬局のいろいろな情報は薬局側から発信していただかないと分からないことなので是非連絡いただきたいとの事でした。

アンケート回答（まとめ）

今回の意見交換会は、FAXコーナー職員皆様方の日頃の業務の中から問題点を取り上げていきたいと思えます。そこでお忙しい中恐れ入りますが下記（A～H）のアンケートにお答えください。（A）・（B）・（C）（D）（E）については、①患者から喜ばれた事例 ②薬局 or FAXコーナーの対応が悪くトラブルになった事例についてお教えてください。（今回のアンケート回答は匿名で行いますので、遠慮なく本音の話をお聞かせください）

尚、ご回答は出来るだけメールでお願い致します。お忙しい中とは存じますがよろしくお願い致します。

（A）応需薬局の麻薬の取り扱いに関連して

- ①初めて麻薬が処方された場合、麻薬指定薬局かどうか患者さんはわからないので、FAXコーナーで指定薬局を案内できること。
- ①患者さんが薬の内容を理解されていた為、FAXコーナーより薬局へ確認し確実に受け取ることが出来た。
- ②FAXコーナーを通らずに直接薬局に薬を取りに行き、麻薬指定薬局で無かった為、そこでは受け取れず別の薬局を案内された。
- ②麻薬指定薬局になっているが、薬の在庫が揃っていない。
- ②麻薬取扱いが無く薬局から別の薬局へ廻された。

（B）応需薬局の自立支援等公費の取り扱いに関連して

- ①自立支援の手続きを家族がして本人はどこの薬局を指定したかわからない時、FAXコーナーで役所や保健所に確認してFAX送信してあげる。
- ②指定薬局が休みの時に処方せんが出て、新しい薬が処方された時。
- ②自立支援等公費に関しては直接受付の方に連絡を入れてもらっています。
- ②次の様なことがあったため、病院（経営課）の方に「申請する前に、FAXコーナーで保険の取り扱い・所在地・営業時間等の薬局情報を確認することによって、スムーズに行くと思いますが」と相談したところ、現在はトラブルが減った。
- 薬局の住所が病院から近いとの判断で自立支援の申請手続きをした患者が、実際薬局へ行ってみると遠かったため再申請した。
- 患者が更生医療等の指定薬局として申請している薬局から「薬がない」等の理由で調剤を断られる事がある。
- 指定薬局（更生医療申請手続き済み）へ備蓄確認をすると「薬が無いのですぐには無理。3時間位かかる」との事。患者より「次回は備蓄大丈夫ですか？」との問いに「分からない」との返事。
- 役場の方が決めたので今後も利用するとの事。
- 役場で、会営センター前薬局（救急で利用したことがある）を指定薬局として申請した患者。FAXコーナーに処方箋を持って来られた時、センター前薬局の営業時間を説明したところ、別の薬局で薬の受け取りを希望し、指定薬局の変更手続きをするとの事。
- ②午前中、薬局へ処方箋をFAX送信。取り寄せのため患者は午後4時頃薬局へ行くことになった。夕方、薬局より「高額医療認定証のため同一薬局がいいとの事でキャンセルになった。

取り寄せた薬は高額で返品できないかもしれない」と報告があった。

- ②取り扱いの確認をして患者を案内したが、薬局へ行くと取り扱いが無く患者からのクレームとなった。
- ②薬局指定のある患者さんとなない患者さんの違い（システム）がよくわからないので窓口対応で戸惑うことがある。

（C）応需薬局の開局時間について

- ①閉局時間前だったがTEL連絡して準備してもらう事が出来た。FAXを送信してもらったので早く取れた。
- ①Y薬局はPM21：00まで開いているので助かる。
- ①開局時間がPM9：00までの薬局 ⇒ 仕事帰りに受け取ることが出来るため助かるとの事
- ①局時間が長い薬局は助かる。
- ②閉局の連絡や臨時休業の連絡や営業時間の変更など薬局から連絡がない場合、患者さんから聞いて知ったり、わからないままFAX送信してしまうことがある。
- ②土日祝の時間帯について対応出来ないのか？急な休み（連絡無し）で閉局になった時など対応に困る。
- ②「門前薬局の閉まる時間が早い」と苦情あり。
- ②開局時間が前より短くなったうえに土曜日まで休みになった薬局 ⇒ 不便に感じるとの事
- ②開局時間変更等は早めに連絡をして欲しい。
- ②門前薬局は出来れば遅くまで開けていて欲しい。
- ②平日定休日にFAX電源が切れていて送信できない薬局がある。

（D）患者からの苦情の対応（分かる範囲で）

- ①車イスや重度の患者さんなど、自宅配達をしてくれる薬局を探して案内すると、助かると喜ばれる。
- ①患者より「FAXコーナーの方の顔を見たら安心する」とよく言われる。
- ①タクシーを使うので早めに受け取りたい。
⇒薬局に薬が準備できる時間を確認し、準備が出来るまで患者に院内で待ってもらうか又は仕上がり時間を伝える。
- ①FAXで連絡してあるので、準備されていて早く受け取れるし、希望すれば配達してくれるので助かる。
- ①患者さんから開局時間の問い合わせがある際は、薬局に電話して最新情報を確認して伝えるようにしている。付せん紙を活用して患者さんの希望を伝えるようにしている。（例：受取希望、後発品希望等）
- ②病院の会計システムが変わり、待ち時間が増えて、不便になったと患者さんの苦情を聞く。（中部）
- ②FAX送信しているのに薬の準備がされていなかったり、患者さんが薬局に着いてからしか薬の準備をしない。（FAXを送った意味がない。）
- ②薬を受け取るのに時間がかかった。FAXを送信したのに薬がなぜ無いのか。なぜ薬の無い薬局に案内したのか。
- ②薬剤師の対応が悪い、薬の間違い、ジェネリックに勝手に変更された等の苦情が寄せられる。
⇒苦情は全て地区薬事務局へ報告し対応してもらっている。

- ②処方箋をFAX送信し備蓄確認後、患者が薬局へ行くと「うちは置いていない」と別の薬局を紹介された。「無いなら最初から無いと言って欲しかった」とクレームがあった。
- ②患者からの苦情は、地区薬事務局へ報告している
- ②処方箋をFAXしても、受け取りに時間がかかる。FAXの意味が無い。
⇒一包化などで時間がかかる。混み具合等を説明する。
- ②時間外（救急）土日祝祭日は院外薬局が遠すぎて大変である。
- ②薬局に行っても薬が準備されていない（患者様にお薬を渡す前に、来られてから再度お薬のチェックをしているため、お待たせする場合がありますと説明しました）

（E）薬の取りそろえ

- ①新患さんや新しい薬が処方された場合、薬が揃ってない事が多いですが、最近は薬を揃えてくれる薬局が増えて、患者さんの不平が減っている。（ちばなクリニック）
- ①薬を取り揃えて届けてもらっているのを助かった。
- ①備蓄が無くても準備し患者へ電話連絡してくれる薬局が増えており、患者から喜ばれている。
- ①薬局の近所の方は、処方箋をFAX送信しておくで後で薬を受け取りに行けるので助かるとの事
- ①処方箋をFAX送信後、薬局へ行くと薬の準備ができていたと喜ばれた。
- ①薬が無い場合は、後日郵送などで対応している。
- ①患者さんと薬局がスムーズに連絡が取れるように、患者さんの携帯電話を付せん紙に書いて処方せんをFAXするようにしている。患者さんにも薬局名や電話番号のメモを渡している。
- ②患者さんが家の近くの薬局を希望し翌日受け取りでもかまわないと言っているのに、薬の準備ができないと門前薬局で受け取るように促す薬局がある。
- ②薬が無くて他の薬局に廻された。
- ②薬が2～3日分残っているので急がない」と話しても「無理です」と断られたことがある。
- ②薬局へ備蓄の確認をするとすぐに「ないです」と断られた。
- ②患者が取り寄せを希望しても、薬局から断られる。
- ②薬局に行ったら薬が無く、待たされたり、次の日に取りに来て、と言われた。
- ②最近病院では、後発品が採用されているが、逆に薬局では、後発品の備蓄がない時がある。備蓄が無いとき、取り寄せ時間がわかると患者さんへの案内がスムーズにできる。

（F）FAXコーナーが今困っている問題がありましたら教えてください。

- 病院の会計の派遣業者が変わり、会計システムが変わり、FAXコーナーを通る患者が減り、FAXコーナーの職員が人員削減になってしまった。（中部病院）
- 自宅配達をしてくれる薬局が限られているので、もっと増えたら有難い。
- 処方せんの不備が多く、病院側に話をしても改善されない。（中部病院）
- FAX送信したらすぐに薬が受け取れると思っている患者さんが殆どです。特に門前薬局など薬局にも待ってる患者さんがいるので、その時の状況でどちらが優先かわからないので一言声掛けはしています。（ちばなクリニック）
- 病院との連携が取れていないと思う所がある（会計終了後 ⇒ FAXコーナーへの流れがあまりスムーズに行かない）。
- 開局時間の変更、臨時休業は早めに連絡をいただきたい。
- ピロリ菌の薬を備蓄している薬局が少ないため、対応してくれる薬局を探すのに時間がかか

る場合がある。

- FAXコーナーの設置場所が自動精算機の近くにあり、自動精算機の使い方がわからない患者が多く頻繁に聞かれ対応に困っている。
- 患者の希望で自宅配達のできる薬局を探すのに時間がかかる。
- FAXコーナーの隣に、院内薬の受取所があるため、遅いところらに文句を言いに来る。
- 患者との信頼関係が出来ており、患者の都合や状態を把握し対応している。
- 備蓄が無い場合は、取り寄せし患者の希望に対応している。
- 訪問指導薬局と配達対応薬局の違いがよくわからない。最近りんご調剤のCMを見た患者さんからの問い合わせが増えている。リストがあれば欲しい。又リストは患者さんに見せて良いのか否か。

(G) FAXコーナーから地区薬・県薬に対する要望

- 中部地区薬剤師会では、FAXコーナーが無人化の方向に進んでおり、無人化になったら新患さんとか面の薬局でもらう患者さんは減り門前薬局を利用する患者さんが増し、今まで分業対策してきたことに意味はあるのでしょうか？（中部病院）
- 開局時間の変更や臨時休業の連絡は、FAXコーナーではなく県薬か地区薬事務局にして欲しい。
- 「配達可能薬局」のリストを作成して欲しい。
- 新規薬局が増えたので、新しい地図（地区別）があれば患者様にご案内しやすい。
- 麻薬取扱い薬局の最新リストが欲しい（現在2007.1.5付けのものを使用している）
- 麻薬取扱い薬局のリストを患者さんに見せて薬局を選択させて良いのか否か。
- リストに掲載している開局時間に変更が生じた場合は速やかにかつ確実に連絡が欲しい。
- 地図の最新版が欲しい定期的に地図を更新してほしい。

(H) FAXコーナーから見た信頼できる応需薬局とは？

- 薬の確認をしなくても、処方せんの薬が揃っているか、準備をしてくれる。
- 電話の対応がスムーズ
- 薬の受け取り時間の指定や患者さんの希望時間に合わせる（ちばなクリニック）
- 患者からの色々な情報で良いと思われている薬局
- 薬の取り揃えや開局時間等の連絡が確実にある薬局
- FAXした処方に対し、断らずに責任をもって準備してくれる薬局。
- 備蓄薬が無くても責任をもって対応してくれる薬局。
- 患者との信頼関係が出来ており、患者の都合や状態を把握し対応している。
- 備蓄が無い場合は、取り寄せし患者の希望に対応している。
- 薬がそろっている、しっかり備蓄されている薬局
- 新患や難しい薬、あるいは少ない薬でも確実に対応してくれる薬局

FAXコーナー担当者意見交換会に参加して

北部地区薬剤師会理事 成川 賢一

FAXコーナー担当者会議の報告をさせていただきます。今回は執行部の先生も出席され、前日は石垣島での移動理事会という事もあり大変お疲れ様です。

各地区のFAXコーナー担当者からのアンケートを基に、日頃の業務で困った点を話し合いました。FAXコーナーと言っても業務は同じですが、設置されている病院ごとに特色がある為、会計からの流れを患者さんへ周知する事が難しいFAXコーナーがあります。また所属している地区により病院への対応も異なり、そんな中、各地区のFAXコーナー担当者の意見を聞いてアイデアを貰う事は日常業務を見直す良い機会です。

北部地区薬剤師会では、FAXコーナーの業務は患者様のFAX送信の手伝いと調剤薬局からの疑義照会を医師へ取り次ぐ業務のみを行い、患者の自由意思へ干渉する可能性のある業務や、麻薬処方せんの判断等、個人情報に抵触する恐れのある業務は一切行いません。それはFAXコーナーが薬剤師会の出張機関であり、病院の業務の一部を担う部署ではなく、またそれに伴い何か問題が顕在化した際に外部機関であることが問題になる可能性があるからです。

今回の会議の中で印象に残っている意見で、時間外や休日の対応をしている薬局を聞かれるが何を参考に対応すれば良いかとの意見がありました。

現在、九州厚生局にて基準薬局が公開されています。基準薬局は24時間対応が義務付けられていますので、公開されている薬局に連絡をとるように患者様に返答する事が提案されました。会場では基準薬局の説明から始まり、地区薬としてFAXコーナー担当者との情報連携の不足を感じさせられました。

また一方で、会場からはFAXコーナーの設置場所が自動精算機の横である為、患者様から自動精算機の使用法を聞かれ、やむを得ず教えており、それが日中業務を圧迫してい

る。病院側に対応をお願いしても聞き入れてもらえない。あるいは、麻薬処方せんが発行されているが、FAXコーナーで処方せんを選別することは出来ないで麻薬取扱いのない薬局に患者様自身が希望し、あとでクレームが届く、また調剤薬局側からも麻薬処方せんかどうかFAXコーナーで判別してほしいなど要望があるがどうすればいいか？など現場の悲鳴が上がっていました。

医薬分業の中で、院外に出す処方せんについては、薬局と患者個人の関係の為、病院は関係ないとする実態がありますが、これは数年来変わっていません。

上記のケースについて薬剤師会より、自動精算機の説明職員の配置を病院側に依頼すること、FAXコーナーの位置を考え直す等、働きかける必要がありますし、また麻薬が処方された患者については、患者本人がFAXコーナーで麻薬を取扱っている薬局の情報提供を求めているため、病院側から指導していただくよう働きかける必要があります。その上で、あくまでもFAXコーナーは患者様の負担軽減するための出先機関であることを理解してもらうことが必要です。その為、職員を守る意味でもその業務範囲を逸脱しない中で行えることを話し合う必要があります。

今回の担当者会議ではクレームとして問題のある薬局には沖縄県薬剤師会より対応していただけたとの事になり本当に助かっています。また、病院へは引き続き各地区より働きを強めることを再確認しました。

北部地区にとっても、医薬分業の大切な仕組みであるFAXコーナーを今後とも地域薬局の先生方の助けになれるよう健全に運営していく必要性を感じました。

もちろん、その他にも患者様に感謝された声や、堅実な業務とその成果の発表もありました。

今回の会議を日常業務に生かして、地域の患者様の為の業務を継続して行きたいと思います。

沖縄県立中部病院・ちばなクリニックFAXコーナー 安里 和美・野原 千寿子

今回のFAXコーナー担当者意見交換会を終えて、他の地区のFAXコーナーの職員も自動支払い機の対応等、直接FAXコーナーの業務ではない仕事や各地区が抱えている色々な問題に対して情報提供をしたり、どうしたら院外薬局でスムーズに薬を受け取れることができるのか等、患者さんの為に日々奮闘している各FAXコーナーの職員の方々と情報交換が出来て良かったです。

私たちのFAXコーナーの状況は、4月から無人化に向けて進んでおり、人員削減となるため、今までとは変わり患者さん本人が薬局にFAX送信するように案内しております。

他の地区のFAXコーナーの職員の方々にも、

これからのFAXコーナーの在り方について少し問題定義できたかと思いました。また県の役員の先生方に話を聞いて頂ける機会ができた良かったと思いました。

今後も定期的にFAXコーナー担当者意見交換会を状況交換や情報交換の場として続けてほしいと思います。

今回は、麻薬指定薬局や24時間対応の薬局情報のリストを頂けて良かったです。

要望としては、他の地区の薬局配置の最新地図や薬局リスト、また他にも役立つ情報のリスト等がありましたらご提供の程お願い致します。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターFAXコーナー 中村 圭子

私は、今回初めてFAXコーナー担当者意見交換会に参加させて頂きました。緊張していましたが、役員の方と各FAXコーナー職員の方の率直で活発な意見交換会に、大変有意義な2時間半を過ごすことができました。

会議では、県薬から事前に各FAXコーナーへアンケートが配布されていたので、回答に沿って進行されました。各FAXコーナーから色々な問題点が上がっており、特に保険（麻薬、自立）の取り扱いについては、「患者さんが直接薬局へ行くと、保険対応できる薬局ではなかったため薬局を転々とした。保険登録されている薬局なのに薬が無いと断られた」等の患者さんが困っている状況があげられ、FAXコーナー職員がどこまで対応しているのか等について話し合いました。

事前アンケートに「FAXコーナーから見た信頼できる応需薬局とは？」の問いに私たち

県立は「断らずに責任をもって薬を準備してくれる薬局」と回答しました。同じような回答が多数ありました。私は、FAXコーナーに勤める前までは、処方箋を持って行けばどのような薬でも、すぐに受け取れると思っていました。しかし「備蓄が無い薬もある。小分けに時間がかかる」等のFAXコーナーへ勤めないとわからない事が多々あることに気付かされました。このような私の経験を活かし、少しでも患者さんへ助言できればと考えます。患者さんがもっとFAXコーナーを気軽に利用してもらえよう心掛け、頑張っていきたいと思います。

今回意見交換会へ参加し、他地区FAXコーナーの問題点・意見等が聞け、大変参考になりました。今後の仕事に活かしていきたいと思います。

お疲れ様でした。

豊見城中央病院薬局FAXコーナー 赤澤 京美・島根 美佳

平成26年度FAXコーナー担当者意見交換会に始めて参加させて頂き、他のFAXコーナー担当者の様々な意見、対応の仕方、業務の工夫等、とても参考になりました。

私が一番感じたのはFAXコーナーの在り方でした。豊見城中央病院の門前薬局は、3ヵ所あり、「こんなに近いのに院外処方せんをFAX送信して意味があるのか？」と問われる事があります。もちろん、院外処方せんをFAX送信後、すぐに門前薬局へ行けばFAXより患者さんが先に着いているとの話もあります。しかし、病院内で点滴中の患者さんや他にもしばらく時間が経ってから行く場合は、「とても助かります」との患者さんの

声も多く聞きます。今回薬剤師の先生方の話で「事前に院外処方せんがFAXで届く事によって、患者さんが来る前にお薬の準備、対応が出来るから助かります」という意見を聞く事が出来て安心しました。

FAXコーナーの意義として、面薬局へ患者さんを案内する役割を担っているという事を改めて感じました。積極的に「かかりつけ薬局」の案内をしております。

また、対応の悪い薬局についての話を聞いて、本来の薬局の在り方を学ぶことが出来ました。

これからもFAXコーナーを通して薬局と患者さんがスムーズにお薬の受け渡しが出来るように努めていきます。

沖縄県立宮古病院FAXコーナー 本村 未来

二月の意見交換会お疲れ様でした。

私は、二回目の参加になりますが、前回同様、本島にあるFAXコーナーの皆さんの大変さに驚きでした。

宮古病院では、ほとんどの患者様がFAXコーナーの存在を知っており、病院側も協力的で案内してくれています。

応需薬局に関しても、他の地区が抱えているような麻薬、備蓄、調剤拒否という問題もなくスムーズにできていると思います。

これからも患者様、薬局、病院から信頼されるFAXコーナーであるよう努力していきたいと思います。

沖縄県立八重山病院FAXコーナー 中村 直子

私はFAXコーナーに勤務して、10年が経ちました。

その間に病院のシステムも変わり、自動精算機・電子カルテ・再来受付機が導入されました。

システムが変わるたびに、FAXコーナーに質問をしてくる患者さんが多く、院外処方せんを持っている患者さんを待たせてしまう事もあります。そんな時には、総合案内や医事課受付の方が、患者さんの対応をしてくれます。これからもお互い協力しながら本来の業務である処方せんの内容（麻薬処方せん・ジェネリック変更等）をしっかりと確認しながら薬局

案内ができるように頑張りたいと思います。

今回参加して気づいた事は、どこのFAXコーナーの職員も、自動精算機の操作に困っている患者さんの対応をしているという事です。（患者さんの為に！！との思いは同じです。）私達の病院だけが自動精算機がFAXコーナー近くにあり、対応しているのかと思っていました。

今回、他のFAXコーナーの職員の皆さんと意見交換できたことで有意義な時間をすごすことができました。

琉球大学医学部附属病院FAXコーナー 下地 和美

去る2月24日（日）沖縄県薬剤師会館において2年に一度のFAXコーナー担当者意見交換会が行われました。

事前のアンケート結果を読み合わせた後にディスカッションに入りました。ディスカッションでは各地区FAXコーナーの抱える問題点や調剤薬局に対する要望等、多数の意見が出されました。調剤薬局によっては、前回同様、院外処方せん受け入れの対応に差がある様に感じられます。院外処方せん受付の看板を出している以上、院外処方せんの受け入れを是非お願いしたいと思います。

今回の会議で出された院外処方せん案内コーナーの問題点をそれぞれが共有し改善していきたいものです。

私達、院外処方せん案内コーナーの職員は、今一度原点に帰り「医薬分業とは、かかりつけ薬局とは」の意味を見つめ直して進化していく医薬分業に対応し、患者さんと調剤薬局をつなぐ架け橋となる様これからも日々努力して行きたいと思います。

医薬分業対策委員の皆様、薬剤師会の役員の皆様には、このような貴重な会議に参加出来たことを感謝いたします。



（北部地区）
成川賢一氏、屋嘉比康太氏



（宮古地区）本村未来氏、下地仁氏
（八重山地区）中村直子氏、宮良長博氏



（県薬）
下地和美氏、上原和子氏



（那覇地区）
川満直紀氏、中村圭子氏、与那嶺智子氏



（那覇地区）
金城悦美氏、津波古峰子氏



（那覇地区）
知念聡子氏、大城美和子氏、比嘉瞳氏



（中部地区）
仲座方利氏、安里和美氏、野原千寿子氏



（南部地区）
友利洋子氏、大城めぐみ氏



（南部地区）
徳川幸子氏、赤澤京美氏、島根美佳氏

＜FAXコーナー担当者意見交換会出席者・各FAXコーナー連絡先＞

- 神村 武之（沖縄県薬剤師会会長） ○池間 記世（医薬分業対策委員会委員長）
○吉田 洋史（沖縄県薬剤師会副会長） ○姫野 耕一（医薬分業対策委員会副委員長）
○田場 英治（沖縄県薬剤師会専務理事） ○仲真 良重（医薬分業対策委員会委員）
○江夏 京子（沖縄県薬剤師会常務理事） ○川上雄一郎（医薬分業対策委員会委員）

地 区	担当役員	FAXコーナー	担当職員	FAXコーナー 連絡先
北 部 地 区	成 川 賢 一 北部地区薬剤師会理事 (医薬分業担当)	県 立 北 部 病 院 F A X コ ー ナ ー	屋嘉比 康 太 (北部地区事務局)	0980－ 54－0119
		北部地区医師会病院 F A X コ ー ナ ー		0980－ 52－7818
中 部 地 区	仲 座 方 利 中部地区薬剤師会副会長 県薬医薬分業対策委員会委員	県 立 中 部 病 院 F A X コ ー ナ ー	安 里 和 美	098－ 974－9451
		ちばなクリニック F A X コ ー ナ ー	野 原 千寿子	098－ 921－1705
那 覇 地 区	川 満 直 紀 那覇地区薬剤師会副会長	県立南部医療センター こども医療センター F A X コ ー ナ ー	与那嶺 智 子	098－ 882－6577
			中 村 圭 子	
		那 覇 市 立 病 院 F A X コ ー ナ ー	金 城 悦 美	098－ 887－0849
			津波古 峰 子	
		沖 縄 赤 十 字 病 院 F A X コ ー ナ ー	知 念 聡 子	098－ 833－6238
			大 城 美和子	
南 部 地 区	新 垣 秀 幸 南部地区薬剤師会副会長 県薬理事（南部地区代表）	大 浜 第 一 病 院 F A X コ ー ナ ー	比 嘉 瞳	098－ 860－7044
		友 愛 会 南 部 病 院 F A X コ ー ナ ー	大 城 めぐみ	098－ 992－2693
			友 利 洋 子	
		豊 見 城 中 央 病 院 F A X コ ー ナ ー	島 根 美 佳	098－ 850－7611
			赤 澤 京 美	
宮 古 地 区	下 地 仁 県薬理事（宮古地区代表） 県薬医薬分業対策委員会委員	与 那 原 中 央 病 院 F A X コ ー ナ ー	徳 川 幸 子	098－ 945－7101
		県 立 宮 古 病 院 F A X コ ー ナ ー	本 村 未 来	0980－ 73－1139
八 重 山 地 区	宮 良 長 博 県薬医薬分業対策委員会委員	県 立 八 重 山 病 院 F A X コ ー ナ ー	中 村 直 子	0980－ 83－6616
県 薬	—	琉大医学部附属病院 F A X コ ー ナ ー	上 原 和 子	098－ 895－6638
			下 地 和 美	

部会だより

青年部会主催 在沖米国軍基地内新海軍病院見学ツアーに参加して



(株) 琉葉 森下 彰久

平成27年2月11日(祝・水)、青年部会主催在沖米国軍基地内新海軍病院見学ツアーに参加する機会を得ましたので、ご報告します。

天候にも恵まれ、参加者約20名が13時北谷町町営駐車場に集合しました。その日は、隣接する北谷公園球場で中日ドラゴンズの春季キャンプが行われていたこともあり混雑していました。その後、事前に登録を済ませた車両に分乗して参加者一同出発をしました。基地内には、北谷町のCAMP FOSTER GATE5より入り、約10分の走行、13時50分 新海軍病院(以下、新病院と略します)に到着しました。基地内での車両の走行は、日本と同じ左側通行でした。私は初めて基地内に入りましたので、普段見ることが難しい建物や標識、ガソリンスタンド等の風景を車窓から眺めていました。新病院は、普天間のサンエー食品館が見える場所に立地していました。

新病院は、地下1階、地上4階建てで約2年前の2013年から稼働しています。移転前は、北谷町の58号線から見える場所(キャンプ・レスター)にありました。新病院のベッド数は80床ですが、最大183床まで対応することが可能で西大西洋地域で1番大きいとのことでした。新病院の勤務スタッフ数は、約1,000~1,200名で、日本人スタッフも155名勤務されています。受診される患者は、18~24歳くらいの若い海兵隊の方が多いようです。また、海兵隊員のパートナーも若い方が多いので新病院では年間1,200名の出生があるとのことでした。

新病院の正面玄関をくぐるとすぐ右側に受付ブースがあり、そこで入館証を受け取りま

した。そこから少し真つすぐ進むとすぐ左手奥に薬局がありました。その薬局から薬が出てくるのを待っている方用のロビースペースもあり、十数名著座しておられました。その後、新病院の渉外広報官から本日見学する施設の簡単な説明がありました[写真]。



見学する施設は、①複合病棟、②ER、③薬局の3ヶ所で、それぞれ約15~20分かけてまわり、その後日本人インターンとの質疑応答の時間が設けられていました。今回は人数が多いので、約10名毎の2グループに分かれて見学を行いました。

まずは、複合病棟(Multi-Service Ward)を見学するために、病院スタッフ用のエレベーターで1階から4階まで移動しました。エレベーターは2台あり、1台は病院スタッフ用(食事用カートやストレッチャー、サプライ製品を運ぶ)で、一度に20名以上が乗れるほどの広さでした。もう1台は患者用でした。4階のエレベーターを降りて直ぐの室外には西海岸の海が一望出来る広いテラスがあり、そこでは、式典等が行われるようです。複合病棟の説明は、病棟部長から英語

でされましたが、渉外担当官による通訳で理解をすることが出来ました[写真]。



複合病棟は27床（プライベートルーム[一人部屋]が6床でそれ以外は1部屋2～4床）あり、内科や小児科、外科の患者が利用されます。

その病棟では25名のスタッフ（看護師、衛生兵、日本人従業員等）が勤務されていました。各病棟には、Prep Roomと呼ばれる薬剤を準備する部屋が設置されており、そこにはPyxisシステムという薬剤を払い出すタッチパネル式の機器がありました。その機器には、指紋認証の機能があり特定の薬剤を選択すると、自動的にその薬剤がセットされている場所の蓋が開くという取り違い防止にも有用な仕組みが備わっていました[写真]。



その後は、空室になっていたプライベートルームを見学しました。そこにあったベッドは、日本の病院より一回り以上大きく、体重も寝たまま計測が可能であったり、褥瘡の方にはベッドが可動することで患部とベッドとの接着面を変えることも可能という優れたものでした。また、シャワールームと洋式トイレ

が病室内にあり、車椅子でも入れるほどの空間がありました。

無呼吸症候群専用の病室も見学しました。そのベッドの上部には、観察用のカメラが付いていて、患者が就寝中の映像をモニターする目的で設置されていました。全ての病室には、使用済みの医療関連廃棄物を入れるダストボックスが壁に設置されていました。日本の病室には見られないものだと思います。

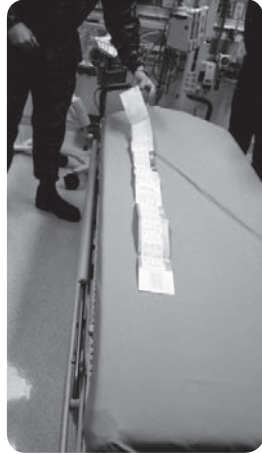
次にERの見学のため、エレベーターで4階から1階に移動しました。1階には薬局以外に放射線科や整形外科等の診療科があります。その一つにERがありました。

ERの説明は、ER看護師に行って頂きました。見学したのは、2床あるベッドの部屋で、大きな交通事故で負傷した患者等が運ばれた時に使用している旨の説明がありました。また、大災害を想定した訓練が年2回実施されていて、その際にも応急処置用の部屋として利用されているようです。救急処置用の部屋にも、他の病棟に設置されていたクラッシュカートと呼ばれる処置に必要な薬剤（エピネフリンやカルシウム製剤、糖液等）や医療機器（各種カテーテルやチューブ等）一式がセットになっている移動可能なカートがありました。そのクラッシュカートには、赤色の成人用とカラフルな色彩の棚を有する小児用の2種類がありました[写真]。



カート内の物品は、毎日チェックされていて、使用した分の補充等は薬局からセットされたものが送られてくるとのことでした。

小児用のクラッシュカートは、棚が1段ずつ色分け（緑、オレンジ、青、白、黄色等）されていました。その理由は、ベッドに横たわった小児の身長を簡便に計測する紙にもカートの色と同様の色彩表示がされていて、その身長（体重も考慮）に相当する紙の箇所に表示された色と同じ色のカート棚を開けるとその患者の成長に見合った薬剤や医療機器のセットをすぐに取り出すことが出来るというものでした[写真]。



緑色のカートには気道挿管用のセットが入っているようです。また、救急処置室には、各種緊急時に必要な薬剤や医療機器がセットされており、すぐに持ち運び可能なように取っ手の付いた約10kgの重量があるイメージケースも準備されていました。緊急時には本ケースを持って処置に当たります。病院内ではコードレッドが火事で、コードブルーが患者の急変等の危険な状態を示すということでした。また、ER内にはナースステーション[写真]や、髄膜炎やおたふく患者等が入る陰圧室が1床ありました。ICUにも陰圧室が3床くらいあるようです。病院内で、薬剤のオーダー等を行う際には紙は全く使用せず、全てデータで情報のやり取りを行っているとのことでした。



ER見学後は、同じ1階フロアにある薬局見学のための移動中、1階にはドルで支払いが行われる売店やサブウェイがありました。また、沖縄県内には6ヶ所のブランチクリニックがあるという掲示がなされていました（キャンプキンザー等）[写真]。



薬局内の説明は薬剤師から行って頂きました[写真]。

薬局には、27名のスタッフが配置されていて、その内薬剤師は9名、それ以外にはテクニシャンの方がおられました。薬局内はかなり広いスペースでしたが、薬品棚や薬品倉庫、各種調剤関連機器等があるため、通路は3名がすれ違えるくらいでした[写真]。

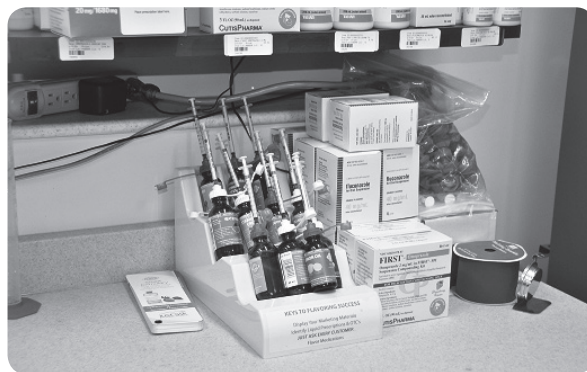


棚に入っている薬剤は、当然のことながら全て英語表記で、領域別に分けられているように感じました（例：アレルギー関連では、アレグラやエピペンが近接した棚に設置されていました）。目に入るのは長い英語で記載されている一般名が多かったような気がしますが、ブランド名で認識できた製品もありました。薬品棚の中には、赤いボックスに医薬品の箱等が入っているものもありましたが、それは要注意薬（ハイアラート薬）で、他の医薬品以上に注意を要するものとして視覚的にすぐ判別出来るようになっていました。薬局内には、オピオイド等の鎮痛薬等が入っている鉄格子付きの金庫もありました。調剤は、まずテクニシャンが医薬品のバーコード等を専用の機械で読み取り確認を行った後、薬剤師がチェックを行っている（ダブルチェック）ようです[写真]。



患者には、テクニシャンが薬剤を渡すとのことでした。また、薬局では、1度医薬品の箱や容器から薬剤を出した後不要になったり、落としたりしたものは専用の廃棄ボックスに入れ、絶対に取り出した容器に戻さないようにしているとのことでした。日本より厳しい管理をされているなと感じました。その他にも定期的に来院する患者で通院頻度が高いトップ200名の人用に、事前に薬を取り揃える調剤機器が設置されていたり、子供用の抗菌剤等（例：アモキシシリン）を水で懸濁させた溶液に、子供が好きなレモンやオレンジ、ストロベリー等のフレーバーを自由に選択して添加したものを患者に渡しているという話を聞きました[写真]。

日本では、小児用のドライシロップ等には



予め香り付けされている製品が多いので、このような違いがあることに驚きました。新病院の薬局に勤務しているテクニシャンには、最低6ヶ月～1年の訓練が必要で、その後、実務についているとのことでした。米国にある民間病院では、カウンターにおける患者への投薬説明は薬剤師がされているようです。

最後は、4階の教育訓練棟の会議室に全参加者が集合して、日本人インターンの医師（救急科専攻）及び渉外広報官から色々な話を質疑応答の形で伺いました[写真]。



その内容について箇条書きで記載します。
○透析や化学療法の治療については新病院では行っていないので、アメリカもしくは日本の病院を紹介し治療が行われている。

○現在、日本人インターンの医師は6名おり、インターンの期間は1年。インターンの採用は、個人で応募した後（日本の医師免許を持っていることが最低条件）、書類審査、面接審査があり、当然のことながら全て英語で行われる。応募は全国から30～40名集まるので、狭き門。

○日本人インターンは、米国の医師免許を有

していないので患者に直接接したり、処方箋を出すことが出来ない。現在、薬剤師や看護師で日本人のインターンはいない。

○日本人インターンの1年間のスケジュールは米国の医学生のスケジュール（12ヵ月）に基づいていて、4週間毎に必須科目の内科等を順に回っていき、その他は選択科目として病理等を選ぶことが可能である。1日のスケジュールは、内科の場合は午前6時頃から患者の診察を行い、午前7時～8時まではカンファレンスで、症例報告等のプレゼンテーションを行う。午前8時から内科医師との打ち合わせ等になっている。

○当直業務は24時間勤務で、日本人インターン6名でPHSによるファーストコールとセカンドコールが割当てられている。搬送が必要な急患が一度に2名来院された場合には、セカンドコールのインターンへ応援要請を行う。

○日本との違いは、言語、使用可能な医薬品の他、痛み止めの使用方法も異なる。（日本ではアセトアミノフェンやNSAIDs等から開始し様子を見る、一方新病院ではオピオイドをすぐに使用する）

○日本で米国関係の病院で勤務出来るのは、基地のある横須賀や沖縄しかない。

○新病院が連携している沖縄県内の医療機関には、沖縄県立中部病院、牧港中央病院、琉球大学医学部附属病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、名嘉村クリニック等がある。

○体格が異なる日本人と米国人との医薬品投与量の違いについては、基本的に体重に基づく/kg換算で行われている。

○新病院が管轄している地域の中には、プライマリドクターが7～8名いる。

○経験則として、炎症性腸疾患の患者が多いという印象がある。

○司令官から毎週金曜日に、患者からの病院に対する賞賛の声（〇〇さんの対応が素晴らしかった等）に関する話があり、それがスタッフのモチベーションアップに繋がっている。

○日本人インターンに対して患者からの治療に関するクレーム等は特にない。ただ、病院内にはクレーム対応担当者が1名いる。

○患者の病室は、ほとんどが西側でオーシャンビューになっている。

○新病院の目の前にある現在建築中の建物には、産業医が入る公衆衛生部が出来る。

1時間弱の時間でしたが、非常に内容の濃い新病院の話や日本人インターンの日常業務・役割に関する事等、多岐に渡る現場の話を伺えたことは貴重な体験になりました。なかなか、救急科に勤務されている医師の話を聞ける機会がないため、話も新鮮に感じました。

以前に海軍病院見学ツアーが開催されたのは、約7～8年前の病院が移転される前であつたとのことで、今回幸運にも参加することができ、非常に勉強になりました。

最後になりますが、このような機会を与えて頂きまして誠にありがとうございました[写真]。



※本報告書は、全て口頭で聞き取りをした内容をまとめたものになります。従いまして、聞き取り間違いや微妙なニュアンスが上手に表現できていない箇所があるかもしれませんことを、お含みおきください。

部会だより

平成26年度日本女性薬剤師会研修講座
「薬剤師継続学習通信教育講座」スクーリング報告

日時：平成27年2月22日(日) 9:55～15:50

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

女性薬剤師部会

部会長 村田 美智子

平成26年度通信教育講座スクーリングを去る2月22日(日)に開催しました。通信教育未受講者を含め51人の参加があり、70分の4講座(①女性のライフスタイルと健康管理、②腰痛と肩こり、③糖尿病治療の最新戦略、④睡眠障害/不眠の訴えにどう応えるか)とランチョンセミナー(製品説明：新睡眠剤ベルソムラ錠:MSD(株))合わせて、10時から16時までの長丁場の講座でした。

① 講師：高宮城直子先生(N a o k o 女性クリニック院長)

月経に始まり更年期に至るまで、ほぼ一生を通じて女性ホルモンと女性の健康とのかわりを講義していただきました。女性内性器の仕組み、女性特有の病気、ホルモン剤の使い方、漢方薬の使い方とお話は多岐にわたりました。妊娠回数が減った現代女性は、かつての母体とは違って月経を繰り返すことでホルモンの影響を受けやすくなり、それが逆にライフスタイルにも影響しているという話が印象的でした。

② 講師：吉川朝昭先生(よしかわ整形クリニック院長)

E B M(Evidence Based Medicine)至上主義は必ずしも患者さんの側には立っていないことをお話しされました。例えば腰痛の場合、先生のクリニックでは必ずしも腰痛診療ガイドライン(A, B, C, D, I 評価)に沿って治療が行われているのではないこと等。“痛み”に対峙するのであればなおさらのことだと、我が身を振り返る機会となりました。

③ 糖尿病治療の最新戦略：田仲秀明先生(田仲医院院長)

沖縄の現状を踏まえ、ご自身の研究発表や他の報告等を統括したうえで、今後の糖尿病治療戦略をお話しされました。メトホルミンの多彩な薬理作用とG L P 1作用を示すD P P 4阻害剤(常用量の1/4量で効果あり)、玄米に含まれるγ-オリザノールの肥満や糖質代謝に及ぼす影響など、これら3者を併用した“トリプルパンチ(メトホルミン1000mg、D P P 4阻害剤少々、玄米1日1食以上)”が、初めての方にもお勧めのカクテルだということでした。

④ 睡眠障害/不眠の訴えにどう応えるか：

名嘉村博先生(名嘉村クリニック院長)

不眠症の定義と分類さらにその対応の仕方について、在宅治療の現場から見えてくること等を話されました。小児の不眠症については、いかに日常生活のリズムが重要かということがわかりました。睡眠薬や抗うつ薬の服用者が車の運転をする等の危険性と規制等をどう指導するかとの会場からの質問に対して、先生は以下のように答えられました。“添付文書通りすべて規制することはほぼない。個々の状況に合わせた指導を行っている。”と。薬剤師は医師とよく連携して患者さんに対応することが求められていると改めて痛感しました。

*ランチョンセミナーとしては、MSD(株)の町田大輝氏に、新作用機序の睡眠薬であるベルソムラ錠について説明していただきました。お礼申し上げます。

*各医師の講義につきましては、会員の先生方にお願ひしました。詳細を以下に掲載しますので、参考にして下さい。

＜プログラム＞

○開会の挨拶

女性薬剤師部会 会長 村田 美智子

○「女性のライフスタイルと健康管理」

Naoko女性クリニック（婦人科・漢方内科）院長 高宮城 直子

○「ロコモティブシンドロームって何だろう(加齢に伴う運動機能低下とその予防について)」

よしかわ整形クリニック 院長 吉川 朝昭

○製品紹介（ランチタイム）MSD(株)九州エリアCNS領域スペシャリスト 町田 大輝

○「糖尿病/血糖コントロールの目標改訂！」

田仲医院 院長 田仲 秀明

○「睡眠障害/不眠の訴えにどう応えるか」

名嘉村クリニック 院長 名嘉村 博

○閉会の挨拶

女性薬剤師部会 副会長 狩俣 イソ

＜女性のライフスタイルと健康管理＞

すこやか薬局 具志川店 当真 房子

女性のライフスタイルと健康管理について、Naoko女性クリニックの高宮城直子先生による講座を受講して、学んだことと感想を報告させていただきます。

高宮城先生は女性ホルモンの基礎から、月経前症候群（PMS）、月経困難症、不妊症、子宮内膜症、子宮筋腫、婦人科がん、更年期障害、子宮脱や膀胱脱などの症状についてとホルモン療法や漢方療法、手術療法等の対策まで、症例を交えてとてもわかりやすく説明してくださりました。

女性のからだは、年齢とともにいくつかの段階を経て変化していきます。初潮に始まり、妊娠・出産し、閉経に至るまで、女性ならではの体の仕組みをエストロゲン（卵胞ホルモン）とプロゲステロン（黄体ホルモン）のふたつのホルモンがコントロールしています。これらは皮膚、血管、骨、脳など体のあらゆる組織にも影響しており、丈夫な骨を維持し、コレステロール値の調整、動脈硬化を防ぐなど、様々な働きで女性のからだを守ってくれます。しかし、40代後半から、卵巣機能が低下し閉経を迎えます。この閉経前後の10年間は「更年期」であり、ホルモンバランスが急激に崩れることで冷え、肩こり、腰痛、頭痛、不眠、うつ症状などといった様々な心

と体に不快な症状が起こります。また、更年期を過ぎて老年期を迎えると、女性ホルモンの分泌がほとんどなくなること、骨粗鬆症や高脂血症、動脈硬化を起こしやすくなります。

婦人科疾患は増加しているといわれています。それは現代の女性のライフスタイルが関係しているということでした。

一生のうちに6～10人位の出産をしていた昔の女性に比べ現代の女性は初経年齢の低年齢化、出産回数の低下、閉経の遅延などのため出産や授乳期も含めた無月経の時期が短くなり、結果として、月経の回数が多くなることで（なんと現代の女性は一生に約450回に対し昔は約50回だったそうです）、女性ホルモンの暴露される期間が長くなったことも子宮筋腫や内膜症が増えた要因一つのことでした。また、ダイエットや食生活の乱れ、ストレスや睡眠不足などでホルモンバランスは乱れ、PMSや月経困難症などの月経トラブルが起こり、ホルモンバランスの乱れが自律神経にも影響し、イライラや落ち込み、浮腫等全身の不調も起きやすくなります。そして出産を終えると、仕事や子供の教育、親の介護など多忙な時期に更年期から老年期へ移行していきます。女性のライフスタイルの中でこれらは密接にかかわっており、産婦人科とのかかわりは妊娠、出産のみならず、女性の一生を通してとても重要なのだと感じました。

さて、更年期障害や閉経後の骨粗鬆症や

高脂血症、動脈硬化にはホルモン補充療法（HRT）が有効なのですが、HRTの副作用に乳がんや血栓症があげられます。しかし一昔前に比べ、かなり低用量なLEP（low dose estrogen progestin：低用量卵胞ホルモン/黄体ホルモン配合剤）製剤や合成エストロゲンの経皮製剤の開発で乳がんや血栓症のリスクがかなり低くなっており、5年程度の使用では乳がんや血栓症のリスクが上がることはなく有益性は高いということでした。ただし一部の専門医の中では否定的な意見もあるとのことで、HRTの普及しない理由が見え隠れしもどかしさを感じられました。

高宮城先生は「症状があってもほとんどの女性が婦人科の受診を躊躇しており、悪化してから受診したり、また更年期の症状は様々で、そうとは思わず健康食品を試したり整体やマッサージ、他科のドクターショッピングを繰り返し、最後に産婦人科にたどりつく。薬局で気づいたら、ぜひ婦人科クリニックの受診を勧めていただきたい」とおっしゃってありました。

毎日の服薬指導の折、実際に窓口で「ホルモンは乳がんになるからと言われた」という患者様もおられました。また生活習慣病や精神疾患等の服薬指導で患者様のお話を聞いていると、更年期症状かなと頭をよぎることもあります。しかしながら私自身もこれまでHRTと乳がんや血栓症のリスクについて情報を得る機会がなかったため、産婦人科を勧めるまでには至りませんでした。それは高宮城先生のようにホルモン補充療法（HRT）を行う婦人科を知らなかったからということもあります。

薬剤師は基本的にジェネラリストであり特定の分野だけに縛られず、幅広く専門性を学ばなければならないと言われております。確かにそうでないと本当の意味で患者様のサポートを行うことはできないと実感しました。

今回の講座でこれまでの疑問が払拭されたのを機に、改めて婦人科疾患について学び、

少しでも患者様に役立つ情報提供ができるようになりたいと思いました。

＜腰痛と肩こり＞

ハイジア薬局 廣川 直子

講演内容

1. EBMなんてくそくらえ
2. 偽薬ほど素敵な薬はない
3. 凝りについて
4. 腰痛について
5. 肩こりについて
6. 腰痛・肩こりの治療

1. EBMなんてくそくらえ

EBM=Evidence-Based Medicine は果たして金科玉条、錦の御旗なのか？

例えば、“腰痛の治療に安静は必要”は、D評価。即ち、“推奨しない。否定する根拠がある。”となっているが、私（吉川先生。以下同様）のところでは、患者さんには“安静にしてくださいね”と言うことはある。

“経皮的電気刺激法は有効である”。これに対してはI評価。“十分なエビデンスがない。相反するエビデンスがある”。となっているが私のところではやっています。

“牽引療法は有効である”に対してもI評価であるが、これもやっているし、効果の出る方あり。（吉川先生ご自身もされるとのこと）

“コルセットは腰痛の機能改善に有効である”はB評価、“行うよう推奨する。中等度の根拠に基づいている”であるが、症例によるし、やりっぱなしは筋力が落ちるので、却ってよくない。

運動療法についても“急性腰痛には運動療法は無効”に対してB評価であるが、やっても良い症例あり。“運動の種類によって効果の差はない”に対してはB評価であるがそのようなことはない。（差は生じるので患者ごとに運動の種類は変えることがある。）

“硬膜外注射、局所注射は有効”はⅠ評価だが、実際効果の出る方あり。(吉川先生ご自身もされて、効果があったとのこと)

“手療法(カイロプラクティック)は効果があると言えない”に対してB評価であるが、施術者の技量の差が大きく、熟練者の施術であれば効果があることもあるのでなんとも言えない。

“鍼治療は慢性腰痛に対して他の保存療法よりも効果があるとは言えない”に対してB評価だが、鍼灸師の技量にもよるところがある。

以上のように、全てEBM通りとはならないのが現実。コントロールの取り方、相乗効果が含まれていない、個人差や治療時期による差の考慮がない、測定機器・検査データの正確性・再現性・メタアナリシスの信頼性、他EBMには様々な問題がありそうである。

2. それでもよく効くのはグルコサミン

大規模臨床試験で効果は認められていないが実際に効果を実感している人は大勢いる。人間には自然治癒力・適応能力が備わっていて、プラセボ効果を甘くみてはいけない。

3. 凝りについて

姿勢、精神的あるいは寒冷のストレス、運動不足が3大原因で、これらの要因で筋肉が固くなり、血流が悪くなり、疲労物質がたまって凝ると考えられている。

“凝り”が起こると、発痛物質が発生→神経の刺激→血管の収縮→痛み→筋肉の緊張→“凝り”の悪循環サイクルに。注射はこの悪循環サイクルを断ち切る一つの手段である。

4. 腰痛

腰痛の85%が原因不明。腰痛既往者の47%はMRI正常。ヘルニアや骨棘があっても痛みを伴わない場合もある。

活動障害を伴う腰痛の予測因子はMRIや椎間板造影所見よりも心理社会的因子

(心理的苦痛、恐怖回避の思考)が大。

知っておきたい腰痛の新常識「画像所見のほとんどは腰痛の原因を説明できません。なので、ヘルニア像も含め、画像データが良くなかったからと言って、悲観する必要はありません」

流し台の高さは身長÷2+5cmが理想。たたみに敷布団が一番良い。うつ伏せ寝はNG。

5. 肩こり

肩こり自体の正確な定義がなく、その為、確定的な診断方法や治療法も日本人に多い。英語には“肩こり”に該当する単語すらない。

肩こりになりやすい体型

- ・なで肩
- ・やせ形(筋肉量が少ない)
- ・肥満型(腕の重さが重くなる)

日本人は欧米人に比べ、筋肉量が少なく、なで肩なので凝る。

ストレートネックは原因でもあり、結果でもあるので、正しい姿勢を続ければ治ることもある。スマホ等でのメール長時間はストレートネックになりやすい。

肩こりの徴候が現れる疾患は多数。特に気を付けたいのは左肩の肩こり。狭心症や心筋梗塞のことがある。

整形外科領域の肩こり

頸椎疾患、肩関節疾患、肩甲帯の疾患
枕は固い方がよい。首や肩まであてない。

6. 腰痛・肩こりの治療

リハビリ

EBMレベルは低いが症例によっては急性期も行う。慢性期はできるだけ運動療法。効果は限定的だが物理療法も。EBMレベルは低くても、トリガーポイント注射している。

投薬

ノイロトロピン：作用機序は不明であるが、副作用が少ない。

上行伝導路の抑制(オピオイド作動性に

よる)：モルヒネ

下行性疼痛抑制系

SNRI, SSRI, 三環系抗うつ剤
トラムセツト, ترامドール,
NSAID, 局所麻酔剤, リリカ、
ガバペン など

漢方薬

腰痛

通導散：体動時の腰痛

牛車腎気丸：腰痛・下肢しびれ

当帰四逆加呉茱萸生姜湯：

腰痛・四肢の冷え、脊椎管狭窄症

芍薬甘草湯：急性腰痛

肩こり

葛根湯（＋桂枝加朮附湯または＋ブ
シ末）：肩こり

加味逍遙散：肩こり、イライラ

五積散：肩こり、頭痛

最後に、薬剤師は副作用の情報提供も当然
仕事のうちであるが、一言「先生、いいお薬
出してくれたねえ。。」などと言ってから副
作用の説明をしてもらえると「そんな怖い薬
は飲みたくない!!」ということにならずに
助かります。とのことでした。

初めにクリニック内の写真を見せてくださ
いしましたが、カフェのような空間づくりをさ
れていて、先生の軽快で明るい語り口がより
一層通院を楽しくさせるようで、私も通院し
たくなりました。

エビデンスが最上のものではないと、私も
思っております。人間は一人一人、違うの
で、書物に書いてある事柄、習った事柄等を
100%鵜呑みにして決めつけるのではなく、
患者さまお一人お一人の言葉に、謙虚に耳を
傾ける姿勢は医療者として一番大切なことだ
と思います。

プラセボも大切、気持ちも大切。私たち薬
剤師も、患者さまの気持ちを明るく前向きに
して差し上げるよう、配慮しなくてはいいな
いと思います。

ところで、グルコサミンは本当にプラセボ
なのでしょうか??私のところはOTCにも
力をいれておりますので、現在のところそう
は思っておりません。整形外科での使用後
データ等をとっているメーカーもあります
し、患者さまに摂取を勧めているペインクリ
ニックさんもありました。今後のより一層の
研究が待たれるところです。

＜糖尿病/血糖コントロールの目標改訂！＞

ふく薬局 うむさ店 高嶺 絵里

今回の通信教育講座スクーリングプログラ
ムで一番楽しみにしていたのは、この「糖尿
病」だった。田仲秀明先生の講義は何度か
受けた事があるが、硬い話だけでなく時には
笑いも交えて沖縄県 Met S (metabolic
syndrome) の現状を話して下さり、とても興
味深くわかりやすい。

テーマは4つ、沖縄クライシスとMet
S・2型糖尿病の治療目標・沖縄型2型糖
尿病へのアプローチ・SGLT2i (SGLT-2
inhibitor)への期待と懸念。服薬指導はもち
ろんの事、この中で私達が業務に生かさなけ
ればならないのは“肥満の解消”食事・運動
などの生活指導だ。

以前にRBC沖縄健康長寿プロジェクトの
CMで、フォアボールで一塁に出る打者がタ
クシーを呼んで乗っていくというのがあって
大笑いしたが、冗談事ではない。沖縄の若者
の3～4割は1日30分も歩かないのだそう
だ。最近では、沖縄県って…という保険医療
福祉事業団のCMを見ない日が無いくらいだ
が、さて実際にはどうしたら良いのだろうか？

田仲先生は「玄米食のススメ」について語
られていた。脂肪嗜好性を軽減する玄米食は、
食事療法の第一選択になるとのお話に、患
者指導だけでなく自身も取り入れてみよう
と思った受講者も多かったと思う。

私は以前から、栄養・健康運動指導士を含めた糖尿病ケアチームにとっても興味があった。2013年沖縄で行なわれた日本糖尿病学会九州地方会にも参加し、栄養・運動指導の会場を主にまわった。その中で特に興味をひかれたのが、浦添総合病院健診センターによる「夕食の食事法に焦点をおいた栄養支援の検討」と同センターで行なわれている「呼吸法道場」だった。当時私は、このまま運動を全くしない生活が続くと命にかかわるかもと危機感をつのらせ始めていた。そこで思い切ってこの道場に入門することにした。「糖尿病学会で興味をもったので参加させていただきたいと思って」と話しても良かったのだが考えた末、医療従事者であることはふせて一人の肥満患者として参加することに決めた。週1回1時間で3カ月コース。健康運動指導士による呼吸法（姿勢を正し息をはきながらお腹を強く凹ます）とストレッチ指導、毎回の体重・腹囲測定に加えて3か月開始前後に採血と内臓脂肪測定がある。月1回栄養士による食事指導のポイントは3つ。午後8時、遅くとも9時までには夕食をすませる・夕食には一番先に中皿一杯の野菜サラダをノンオイルで食べきる・1口30回しっかりと咀嚼する。サラダを手軽に用意するための食材紹介や保存方法、脂肪を溜め込むBMA L 1の話を含め体内時計のメカニズムをわかりやすく説明してくださる。よく噛んで、遅い時間に食べないようにというのは私も指導するが、長年の習慣だから無理だね～という言葉に「なかなか難しいですよね…」と答えてしまう。しかしここで運動指導士は私に「この際だから習慣をガラッと変えましょう」ときっぱり言った。これが不思議なくらい心に響いた。運動指導士からの生活ポイントは2つ、朝晩体重測定してグラフ化する・運転中でも良いので毎日呼吸法を100回行なうこと。実践してわかったことだが、食習慣を一部（夜）だけ変えるのはそれほど難しくはない。3カ月で腹囲－10cm、体脂肪は－30%

以上落ちた。こんなに減った人初めてー！（ではないと思うが）などと言われると素直に嬉しくて運動と食事を工夫するのが楽しくなる。ストレッチも、最初は腕をふるだけでぽきぽき音がし体をそらすだけで気が遠くなっていたが、段々動けるようになってきた。やはり、体に良いと実感し継続してもらえよう指導しなければダメだというのがよくわかる。

「受診せずに生活コントロールのみで対応出来る患者さんも多く、調剤薬局にて糖検査が行えるようになれば医療費の削減にもなる。薬剤師の支援で患者さんが自己管理出来るようになる事を期待する」田仲先生の言葉が印象的だった。

私達は、薬だけでなく検査、また栄養・運動指導についてもしっかりと勉強し患者さんと接しなければならない。そのために患者さんと同じ目線、いや少しだけ先を行けるよう生活習慣の改善を考え実践していこうと思う。

＜睡眠障害・不眠の訴えにどう応えるか＞

サンチェリー薬局 仲村 喜久子

これまで、睡眠薬を処方された患者さんに、投薬する際、睡眠薬の効能、副作用等について説明してきたつもりでしたが、それが十分であったか疑問が残るところでした。今回、名嘉村先生の『睡眠障害、不眠の訴えにどう応えるか』と題する講義を受講し、睡眠障害の原因及び定義、その対応等について学ぶことが出来、薬剤師としての技量の向上に資することができました。

名嘉村先生は、「睡眠は生存に不可欠なもの」、「良好な睡眠なくして日常の生活機能も維持出来ない」と強調されました。

まず診察にあたっては患者の睡眠障害、不眠の原因を下記事項によりチェック、把握する必要があります。

1. 適応障害不眠：心理社会的、対人関係・環境や身体的問題等原因がはっきりしたストレス
 2. 神経質性不眠：眠れないのではないかという不安
 3. 睡眠状態誤認：実際は眠っているのに自覚的には眠れていないと訴える
 4. 本能性不眠：子供の頃に発症する慢性不眠
 5. 不適切な睡眠習慣：昼寝の時間の長さや回数が多い・就床時間や起床時間が変化
ベッドにいる時間の長さ・寝る前のテレビやパソコン（強い光）
 6. 精神科疾患による不眠
 7. 薬物の副作用による不眠：抗パーキンソン病薬・降圧薬・ステロイド製剤・気管支拡張薬・インターフェロン製剤等
 8. 身体疾患による不眠：痛み・痒み・呼吸苦（喘息・骨折・アトピー性皮膚炎・心臓病・脳血管障害・パーキンソン病）
- また、不眠症のタイプには入眠障害・中途覚醒・早朝覚醒・熟眠感の欠如等があり、これらが同時に現れる場合もある。これらのタイプによって処方が異なる。

服薬指導について、

1. 睡眠状況の確認：睡眠が改善されていなければ医療機関へ受診勧奨
2. 睡眠薬に対する不安の軽減：本人だけでなく家族や介護者への情報提供
3. 併用薬等の確認：作用増強や減弱する薬剤・不眠の原因となる薬剤の確認
4. アルコールとの併用の注意：副作用増強（ふらつき・記憶障害・呼吸抑性）がある。
5. 服用時間：夕食からある程度時間をおいて就床直前に服用
6. 医師の指示を守り、自己判断での増量や減量、中止しないこと。
（急に中断すると休薬前より症状が深刻になる場合があるので、体調をみながら医師の指導を受け徐々に減量、徐々に服薬間隔を空けて適量にし、次第にやめる事ができる。）

7. 睡眠薬の副作用の説明

- ①持ち越し効果 翌日まで効果が持続（ふらつき・眠気・脱力感・倦怠感）
- ②健忘服用後に目覚めた後、ある一定の期間の事が思い出せない。

毎年、数人の医師による講義が聴ける女性薬剤師スクーリングを楽しみにしています。
ありがとうございました。

薬物乱用防止指導員について

学校薬剤師部会

薬物乱用防止指導員は、薬剤師や民生委員、保護司など様々な職種で構成されている。その任期は2年で、次回の募集は平成28年となる。主な活動は、ダメゼったい運動への参加、地域や学校における薬物乱用防止教室の開催などの他、講師を招き薬物乱用防止に関する講演会を開催している。

薬物乱用防止指導員として、薬剤師が求められている。興味のある方は学校薬剤師部会までご一報下さい。

部会だより 第14回沖縄県健康教育研究大会参加報告

日時：平成27年2月5日(木)
会場：浦添市てだこホール



学校薬剤師部会
副部会長 大城 恭子

例年開催されている標記大会に今年も参加しましたので報告致します。

同大会の開会式では毎年、学校薬剤師が表彰されており、今年は「沖縄県学校保健関係表彰」に喜舎場綾子氏、高良弘子氏、伊集俊雄氏の3氏が受賞されました。受賞される学校薬剤師を毎回選出できことは大変喜ばしく、また長年学校保健に携わってきた先輩学校薬剤師の受賞とあって、改めて学校薬剤師業務に励んでいきたいと奮起したしだいです。受賞おめでとうございます。また、開会式には来賓として本会会長名で席が設けられており、前濱朋子部会長が神村武之会長の代理で登壇されていました。今回の受賞を含め、学校薬剤師の表彰者が増えたのは、学校薬剤師の活動を日頃から地道に頑張っている各会員の力によるものであると感じます。

開会式の次は毎年著名な講師をお呼びしている大変楽しい特別講演です。今年は、香川県の元小・中学校校長で「子どもが作る“弁当の日”」提唱者の竹下和男氏による『子どもを台所に立たせよう』でした。「弁当の日

の原則」「弁当の日に託した六つの夢」を掲げ、その独特な切り口と起伏、高揚に富む講話に圧倒され感動しました。竹下氏は年中、ほぼ毎日、全国各地の小・中学校でご講演されているとのことです。この特別講演の前日にも沖縄県南部の小学校でご講演されたとのことでした。

昼食を挟んで分科会が保健、安全、給食の3部会に分かれて行われました。「心身の健康をコントロールできる児童生徒の育成を目指して」を主題とした学校保健部会分科会に、学校薬剤師の上原卓朗氏が「これからの医薬品教育における学校薬剤師の役割～活動紹介とアンケート調査よりみえてきた課題～」と題して発表されました。現在、部会で取り組んでいる若手学校薬剤師の起用はここでも素晴らしい活躍を見せ、大変頼もしい限りでした。

以上、報告とさせていただきますが、最後に上原卓朗氏の発表要旨と同発表におけるアンケート結果について、次頁より掲載致します。

沖縄県学校保健関係表彰



おめでとうございます

喜舎場 綾子先生 高良弘子先生 伊集俊雄先生



左より伊集俊雄氏 代理受賞者、喜舎場綾子氏、高良弘子氏

第14回沖縄県健康教育研究大会後のアンケート結果をうけて



学校薬剤師部会
上原 卓朗

大会終了後に行った参加者へのアンケート調査より、学校薬剤師に関する意見や感想を多く頂きました。

まず、「学校薬剤師が医薬品教育をしてくれる事を初めて知った」「学校薬剤師が医薬品教育にT. T. として関われる事を知った」等といった、学校薬剤師の役割の周知を実感できる感想が多くありました。また、「今後、医薬品教育を行っていきたい」「学校薬剤師を活用していきたい」という前向きな意見も頂き、これから医薬品教育の依頼が増えることが期待されます。

一方で、「学校薬剤師は忙しいから依頼が難しい」「薬物乱用防止教室も断られる」などといった厳しい意見もありました。発表でも述べたように、学校薬剤師が医薬品教育を行っていくうえでは多くの課題を乗り越えなくてははいけません。しかし、薬剤師の先生方は横のつながりが強いと感じております。

学校薬剤師として、医薬品教育を広めていけるよう頑張りたいと思います！

＜学校保健部会分科会発表要旨＞

これからの医薬品教育における学校薬剤師の役割

～活動紹介とアンケート調査よりみえてきた課題～

学校薬剤師 上原 卓朗

1 目的

学校保健は、子供たちの今を見守るための「保健管理」と子供たちの明日を育むための「保健教育」に大別されると考えられる¹⁾。保健管理については、環境衛生検査等を通じて、学校の適切な環境の維持に学校薬剤師が役割を担っている。

一方、保健教育については、これまで薬物乱用防止や環境衛生に係る教育に学校薬剤師が貢献していると評価されており、今後は医薬品に関する教育への貢献も期待されている²⁾。近年、セルフメディケーションの普及や一般用医薬品販売の規制緩和などにより、保健教育の課題はより専門化・複雑化してきており、専門的な知識や経験が必要となってくことも少なくない。そこで、これからの医薬品教育における学校薬剤師の役割を紹介するとともに、県内の学校薬剤師に行った、医薬品教育の実施状況のアンケート調査の結果を紹介する。

2 医薬品教育における役割

(1) 学習指導要綱

学校における医薬品教育については、中学校学習指導要領において、「医薬品には主作用と副作用があること。医薬品には、使用回数、使用時間、使用量などの使用法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする」(解説、一部抜粋)³⁾とされており、従来の高等学校で取り上げられた内容の多くが取り込まれている。

一方、高等学校学習指導要領においては、「医薬品には、医療用医薬品と一般用医薬品があること、承認制度により有効性や安全性が審査されていること、および販売に規制があること。個々の医薬品の特性を理解した上で使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であること。副作用については、予期できるものと、予期することが困難なものがあること」(解説、

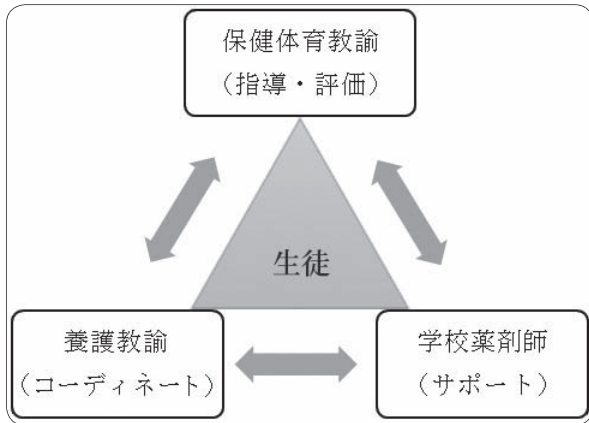


図1 医薬品教育のチーム・ティーチング

一部抜粋⁴⁾とされており、これまでの教育内容が一新され、医薬品の製造や販売にあたっての規制など、より高度で専門的な内容に充実が図られている。また、これまで薬物乱用と医薬品が同じ項目であったものが、改定後は医薬品のみ別の単元に移行されており、薬物乱用と切り離して行うことが必要だと考えられる。

(2) 学校薬剤師の役割

学校薬剤師は学校にとって身近な薬の専門家であるため、専門的な知識のアドバイスだけではなく、医薬品の模型（写真1、2）、スライドやDVDなどの教材の提供が行える。また、授業支援として教師とチーム・ティーチング（T.T.）を行うなど、保健体育教諭や養護教諭と連携して医薬品教育をサポートすることが期待されている⁵⁾（図1）。T.T.方式であれば、教諭が授業の組み立てと進行を担当することで、教育目標や生徒の発達段階に合わせた授業を行うことができる。一方、学校薬剤師が医薬品の専門的な事について説明することで、生徒から出される質問につ

いて答えることができる。また、質問に回答することで、生徒は医薬品のことは薬剤師に聞くものであるということを体験的に覚えることができる。

(3) 授業内容

医薬品教育では、薬は正しく使用する必要があることへの理解が求められる。授業の手法は、担当する学校薬剤師によって様々だが、専門用語をわかりやすく説明し、クイズや実験等を通じて、薬の正しい使用方法への理解を深めてもらうための工夫を行っている。以下にいくつかの具体例を挙げる。

① 薬の飲み合わせの実験

薬は水（水道水）で服用することが良いとされている。しかし、その理由は一般的にもあまり知られていない。一例として、貧血などの治療で服用する鉄剤は、お茶の成分のタンニン酸と反応し吸収が阻害されることが知られている。この反応は目で見てわかりやすいので、薬を水で服用する必要が理解できる（写真3）。他にも、胃薬として用いられる重曹をオレンジジュース等の酸性飲料で服用すると、発泡して効果が減弱する実験なども行われている。

② 正しい使用方法（血中濃度の説明）

薬にはそれぞれ使用回数や使用量が定められている。自分勝手に回数や量を変更して服用することは治療の妨げになり、副作用を引き起こす原因にもなる。血中濃度は、薬の正しい使用方法を理解する上で重要な概念となる。まず、血中濃度の説明する上で、すべての薬には主作用と副作用があることを説明する。次に、薬が体の中に



写真1 錠剤の模型（断面図）



写真2 カプセルの模型

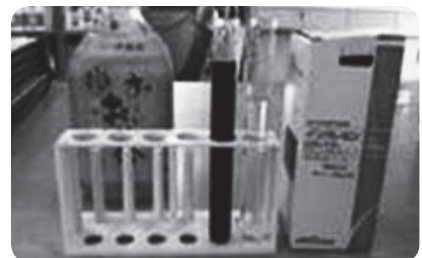


写真3 鉄剤とお茶の飲み合わせの実験

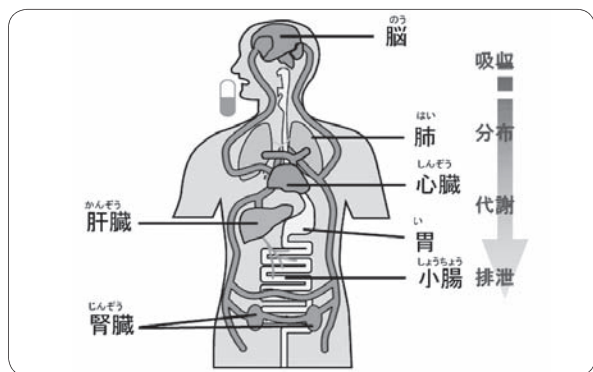


図2 体内での薬の流れ

入るとどうやって全身に行き渡り、そして外へ出て行くのかを説明する（図2）。体内での薬の流れがわかると、血中濃度のグラフを用いて、薬を正しく飲まないとうどう変化するかを示してあげる（図3）。体内での薬の量の变化を見せてあげることで、正しい使用方法の必要性を理解することができる。また、血中濃度をインスタントコーヒーやシロップなどの身近なものに例えるとわかりやすい。「インスタントコーヒーは粉を入れる量が少ないと、味が薄い（効果がない）。逆に多いと苦くて飲めない（副作用が起こる）。」と説明してあげることで、生徒も理解しやすくなる。

3 アンケート調査報告

(1) 概要

沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会の会員166名を対象に、医薬品教育の実施状況について、アンケート調査を行った。なお、回収は166名中73名（回収率44.0%）であった。

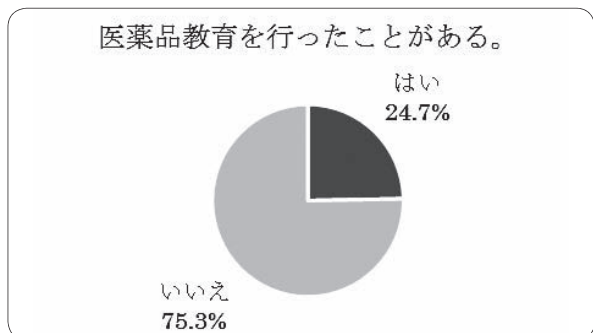


図4 医薬品教育の実施状況

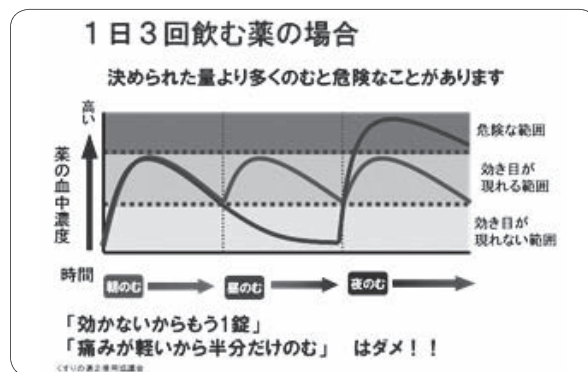


図3 血中濃度の説明

(2) 結果

① 医薬品教育の実施状況

これまでに医薬品教育を行ったことがあるかという質問に対して、「はい」と答えた人は18名（24.7%）、「いいえ」と答えた人は55名（75.3%）であった（図4）。

② 打ち合わせを行った学校担当者

医薬品教育を行ったことがある人で、実施にあたり打ち合わせを行った学校担当者の割合（複数回答）は、「養護教諭」が72.2%、「保健体育教諭」が16.7%、「その他」が5.6%、「打ち合わせなし」が27.8%であった（図5）。

③ 行わなかった理由

医薬品教育を行わなかった人の理由（複数回答）として、「依頼がない」が41.8%、「勤務が休めない」が36.4%、「資料不足」が20.0%、「その他の理由」が20.0%であった（図6）。その他の理由として、「薬物乱用防止教室に含んだ」「力量不足」「自信がない」という意見があった。

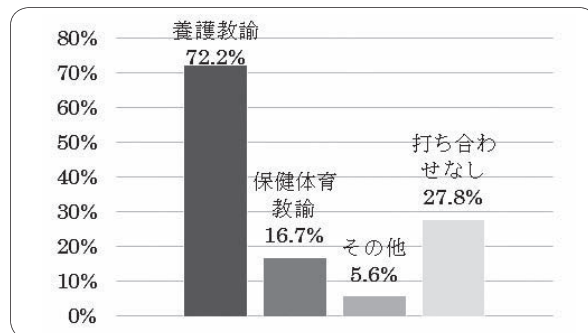


図5 打ち合わせを行った学校担当者（複数回答）

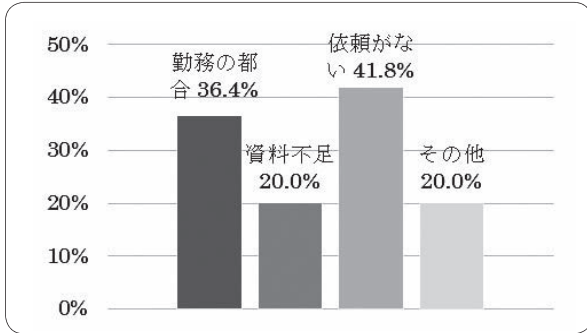


図6 実施しなかった理由（複数回答）

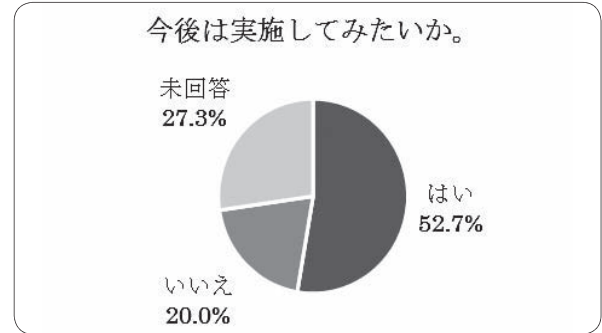


図7 今後の実施予定

④ 今後の実施について

医薬品教育を行わなかった人に、今後は実施してみたいかという質問に対しては、「はい」と答えた人が52.7%、「いいえ」と答えた人が20.0%、「未回答」が27.3%であった（図7）。

⑤ 実施にあたり必要なことや資料について

実施してみたい人で、実施にあたり必要なことや資料について意見を求めたところ、「保健体育教諭への周知」「授業の見学」「勉強会の開催」「実験道具の貸し出し」「資料や経験者のノウハウ」などがあつた。

（3）考察

アンケート調査結果より、学校薬剤師が医薬品教育について前向きな姿勢であるけれども、実施には至っていないことが判明した。大きな原因として、学校薬剤師が抱える問題と学校側への周知不足が考えられる。学校薬剤師は、一人で複数校を担当していることが多く、また本業との兼務であるため、授業を行うための時間や準備する時間の確保が難しい。これについては、県薬剤師会として学校薬剤師の増員や勉強会の開催、資料提供などの体制強化が課題であるといえる。一方、学校側への周知不足に関しては、普段、学校薬剤師が関わるのは学校長や養護教諭が多く、保健体育教諭との関わりは少ない。そのため、学校薬剤師が担える役割が保健体育教諭に十分に伝わってないと考えられる。今後は、今回のような研究発表の場や学校保健委員会への積極的な参加を通じて、医薬

品教育における薬剤師の役割を学校側にアピールしていければと考える。

4 おわりに

医薬品教育における学校薬剤師の役割は、薬の専門家としての知識を提供し、サポーターとして授業内容の充実に貢献できることである。一方で医薬品教育は、数ある教育目標の中のほんの一部であり、限られた時間のなかで取り組みを実施していくのは難しいことかもしれない。しかし、医薬品が子供達の生涯にわたり関わりのあるものであることを考えると、決して軽視できない事項である。今回の発表を担当校に持ち帰り、医薬品教育に対する学校薬剤師の役割を周知して頂けたら幸いである。

【引用文献】

- ¹⁾ 北垣邦彦（2014）：保健管理・保健教育における学校薬剤師の役割．学校薬剤師研修会．
- ²⁾ 中央教育審議会（2008）：子供の心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について（答申）．
- ³⁾ 文部科学省（2008）：中学校学習指導要領解説．
- ⁴⁾ 文部科学省（2009）：高等学校学習指導要領解説．
- ⁵⁾ 公益社団法人日本薬剤師会・くすりの適正使用協議会（2013）：DVD「医薬品とは—高等学校医薬品教育用教材—」学校薬剤師用手引き．

部会だより

平成26年度 日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告

日時：平成27年2月5日(木) 10:30～16:30

会場：【東京会場】日本薬学会 長井記念ホール



1. 講演「薬学6年制の現況と展望

～今後の薬剤師合格率の動向について～」

東京薬科大学 今西 信幸 理事長

① 学部は何故6年制になったのか？

臨床に特化するために6年制になった。30年前の医学部を追っている。30年前の医学部は臨床がなおざりにされていたが、学部改革が起きた。今、ようやく薬学部も臨床を重視して改革が起きている。

② 薬学6年制の現状とその問題点は？

弁護士制度改革により開始された法科大学院はほぼ破綻状況にある。法科大学院卒業生が殆ど弁護士試験に合格しないので、15校が法科大学院を廃止する予定である。昨年の国家試験合格率は史上最低の60%であったが、今年は50%を下回ることが予想されている。このままでは、法科大学院の二の舞となる可能性がある。

③ 学校間偏差値35の中で薬剤師国家試験は成り立っているのか？

国公立大学の薬学部は17校で、制度改革前と学部数に変化はないが、私立の薬学部は29校から57校とほぼ2倍に増加している。入学定員の増加により受験倍率が著しく低下し、ほぼ無試験で入学可能な偏差値35以下の学部が多数できてしまった。こんな基礎学力では国家試験に合格できるはずがない。偏差値60の学生と35の学生が共通の土台に立つことはあり得ない。このままでは、入学したものの卒業ができなかったり、卒業しても薬剤師資格が取得できないことが多いなら社会問題になるだろう。学校経営者と教育者は、責任の追及を覚悟しなくてはならない。また、薬剤師の資格のあり方自体が社

(株) 琉葉 城村 幹彦

会から疑問視されかねない。

④ 4年生薬剤師は6年制薬剤師より劣るのか？

10年前までの私立の薬学部の偏差値は殆どが55以上であったが、5年前には殆どが50以下に低下してしまった。つまり、偏差値というポテンシャルからだけ見れば、4年生薬剤師のほうが優秀であったと判断できる。しかし、これからは薬学部でも附属病院を持つなどして、さらに充実した臨床教育をきちんと受けた6年制薬剤師が排出されることになるので、10年後にはポテンシャルが逆転しているだろう。

⑤ 何故医師は患者の命を守ろうとするのか？

臨床現場での教育の差。医師はまず研修医の時点で必ず重症患者を担当させられる。ここで何人もの人の死を目の当たりにして、悩み苦しみ「自分は何故医師を志したのか？何故、患者が救えないのか？」精神の限界まで自問自答し成長していく。ここが薬剤師の教育と大きく異なる点である。

2. ブロック会員発表

① 毒物劇物販売と危害防止対策

アルフレッサ(株) 長岡支店 三好 慧 氏
新潟県は平成10年に大きな社会事件となったアジ化ナトリウムの毒物混入事件が発生しており、その後規制が厳しくなった。特に管理帳簿の徹底と保管状況の管理が義務づけられている。

② 医薬品等の商品回収

(株) エバルス薬事情報室 山根 仁美 氏
＜回収の際に困っていること＞

○MRが薬剤師に情報を伝えない。(営業

にはある)

○メーカーが勝手に得意先へ情報提供していることがある。

○代替品がない、代替ロットの出荷まで時間がかかった。

③ 麻薬の適正使用に向けた地域協力

(株)モロオ医薬管理室 宗本 晴子 氏
卸7社で「北海道麻薬協会」を組織し、麻薬の適正使用に寄与している。

○得意先、地域住民への啓発活動

○麻薬譲受証の記載例を作成し得意先に配布

○麻薬取り扱いの手引を作成し得意先に配布(毎年発行)

○関係団体との連携(北海道庁)

④ 田県支部における戻り品について

(株)メディセオ北海道・東北支社
国安 和也 氏

＜戻り品で苦慮していること＞

○中抜け品のチェック(重量測定)

○保冷品の得意先での保管状況確認(確認書を受領する場合あり)

○包装変更が多すぎる。

平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部研修会報告

日時：平成27年2月20日(金) 15:00～17:30

会場：(株)琉薬 第1ホール



沖縄県支部事務局
森下 彰久

この度、平成26年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部で研修会を開催しましたので、ご報告致します。研修会として、次の2題を聴講しました。

【研修会①】危険ドラッグについて

沖縄県保健医療部薬務疾病対策課 松田聖子氏

危険ドラッグの意味合い・種類、危険ドラッグによる事件・事故等の事例紹介から、沖縄県における危険ドラッグの対策に至るまで幅広い内容の説明を行って頂きました。

○ 危険ドラッグとは、多幸感、快感等を高めると称し、また、法律の規制が及ばないかのように販売されている薬物。麻薬や覚せい剤等の法律で禁止する成分とは異なるため、「合法」、「脱法」と呼ばれることもあるが、犯罪に悪用されたり、乱用による死亡事故を招くこともある。

○ 危険ドラッグの種類としては、ハーブタイプ、リキッドタイプ、パウダータイプがある。

○ 危険ドラッグ乱用者では、身体があつくするためか服を脱いで暴れることもある。

○ 沖縄県内(保健所・総合精神保健福祉センター)では、危険ドラッグに関する薬物相談実績が増加している(平成21年から平成25年まで年々増加)とのこと。

○ 沖縄県における危険ドラッグが起因と疑われる救急搬送報告では、平成24年(1～12月)が40件で、その内の75%が10代・20代の若年者であった。平成25年(1～12月)では、19件に減少していて、年齢は10代から50代まで幅広かった。

○ 平成26年12月時点で、沖縄県では危険ドラッグの販売店舗数(ネット業者を含む)は、ゼロになっている。

- 沖縄県では、危険ドラッグ対策としてチラシやポスターの作成・配布、ラッピングバス・バス車内での広告も行われている。
- 危険ドラッグに対しては、沖縄県保健医療部、沖縄県警察本部、九州厚生局沖縄麻薬取扱支所が連携している。

危険ドラッグに関する危険性、現状、沖縄県の取り組み等について学ぶことが出来ました。沖縄県内の危険ドラッグ販売店が、今後ともゼロのまま推移するよう県民ひとりひとりの意識が重要であると感じました。

【研修会②】標準予防策（Standard precaution）—感染対策の基本— サラヤ株式会社 平良氏

感染対策の考え方、標準予防策とは、標準予防策の具体策（个人防护具、手指衛生）の説明を行って頂きました。

- 感染に必要な3要素としては、感染源、感染経路、感受性宿主がある。感染予防のためには、“感染ルート”を遮断することが重要である。
- 標準予防策の概念：全ての血液、汗を除く全ての体液、分泌物、排泄物、損傷のある皮膚、粘膜→湿性生体物質は感染性の病原体を含む可能性がある。そのため、感染症の有無に関わらず、全ての患者に普遍的に適用する。

- 湿性生体物質で汚染される場面として、採血時、おむつ交換時、気道吸引時、気管支鏡検査、傷口の処置、くしゃみをする時、検体を取り扱い時などがあげられる。
- 个人防护具（PPE: Personal Protective Equipment）は、湿性生体物質等で汚染される可能性がある場合、必要に応じて着用する。防水性でディスポーザブルのものを使用、脱ぐ際は汚染に注意、使用後は手指衛生を行う。
- 安全なPPEの着脱：着用順序 エプロン→マスク→ゴーグル→手袋、外す手順 手袋→ゴーグル→エプロン→マスク。
- サージカルマスク交換のタイミングは、処置毎、4～6時間おき、濡れた場合である。
- 手指衛生の実践方法：目に見える汚れがある場合は、普通石けん＋流水で手洗いを行う。目に見える汚れがない場合は、速乾性アルコール製剤で手指消毒を行う。

医療現場で実際に行われている標準予防策を学ぶことが出来ました。サージカルマスクの着脱方法や手洗い手順・手指消毒手順の例を再確認することで、日々の生活にも活かしていきたいと思います。

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

月例相談会

第120回健康とおくすり相談会報告

日時：平成27年2月22日(日) 13:00～16:00

会場：サンエー経塚シティー店（浦添市）

担当：那覇地区薬剤師会



ヴァインドラッグ末吉薬局 盛本 直也

サンエー経塚シティー店にてお薬相談があるとの事で、参加を申し込ませていただきました。実際申し込んだのはいいけれど、正直どんな相談を受けるのか、どんな内容なのかわからない事もあり、当日まで緊張しながら会場に向かいました。

開始時刻の30分ほど前に着くとすでに机や椅子などが準備され、いつでも開始できるようにスタンバイされていました！凄い！やる気スイッチが一気にONに！薬剤師会の秘密兵器？とでも言わんばかりの測定する機器も性能の良いすばらしいものでした！せっくなので相談会の前に私自身も計らせていただき結果は・・・要努力！ショック！！落ち込むまもなくいよいよ相談会開始。

私を含め5人の先生方と薬剤師会のスタッフと一緒に自動ドアの前で待ち構え、声を掛け、チラシを配り、待つこと数分、なかなか測定にはいたらず・・・初めは皆さん測定していただけませんでした。なぜなら体脂肪と体重となると恥ずかしいというのが感想でしたが、現実をきちんと見つめて、悪いことばかりに目を向けるのではなく、自分自身の良い面にも目を向けることが出来るのでは非！とお話させていたと測定していただきました方もいました。



写真提供：那覇地区薬剤師会

健康とおくすり相談員

。伊波 重宏 。伊藤 健三 。大城 博次 。亀谷 浩昌 。盛本 直也 （順不同・敬称略）

平成26年度沖縄県薬剤師会新入会員

(平成26年10月～平成27年3月末日入会分)

氏 名	勤 務 先	出 身 校
安次嶺 メリ子	わかさ調剤薬局	北里大学
池 間 功	りんご調剤薬局 東風平店	昭和薬科大学
伊良波 幸子	なかのはし薬局	昭和薬科大学
岩 澤 利 治	はくあい薬局	明治薬科大学
大塚 千賀子	さわやか薬局 西原店	北陸大学
川 寄 敏 枝	オリーブ薬局 小禄店	神戸学院大学
金 城 龍 男	(有)晴天堂薬局	明治薬科大学
具志堅 睦人	アイン薬局 赤道店	日本薬科大学
古 川 靖 子	ハーブ薬局 とみしろ店	東北薬科大学
古波藏 直子	琉球大学医学部附属病院	北陸大学
齋 藤 育 弘	ミドリ薬局 美里店	明治薬科大学
座 波 祥 子	(株)スズケン沖縄薬品 中部支店	愛知学院大学
瑞慶山 正代	ゆい薬局	帝京大学
須 藤 和 彦	うさぎ薬局	京都大学
砂 川 美 佳	すこやか薬局 宮城店	徳島文理大学
高 木 英 子	まごころ薬局 山内店	北陸大学
桃 原 泰 誠	うみ薬局	第一薬科大学
仲宗根 雅恵	とくりん薬局	第一薬科大学
中 村 京 子	ハーブ薬局	星薬科大学
中村 仁奈子	うるま薬局	徳島文理大学
南 雲 翔 太	そうごう薬局 浦添当山店	昭和薬科大学
新 嵩 由 香	新高薬局	第一薬科大学
野 口 淳	そよ風薬局 那覇店	東京薬科大学
橋 本 正 嗣	ゆい薬局 知花店	日本大学
宮城 奈津子	こくら虹薬局	長崎国際大学
山 田 邦 子	すこやか薬局 大北店	昭和薬科大学
山 内 崇 良	すこやか薬局 喜屋武店	東京薬科大学
四 谷 祐 子	すこやか薬局 知花店	北陸大学

(五十音順、敬称略)

薬事情報おきなわ No.232

2015年3・4月号 : Vol.30 No.2

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成26年2月24日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	タケキャブ錠10mg (@B217)	10mg1錠	160.10	武田薬品	ボノプラザンフマル酸塩:カリウムイオン競合型アシッドブロッカー・プロトンポンプインヒビター: ○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制○下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎(新有効成分)
	タケキャブ錠20mg (@B218)	20mg1錠	240.20		
	パリエット錠5mg (@パリエット5)	5mg1錠	70.50	エーザイ	ラベプラゾールネトリウム:プロトンポンプ阻害剤: ○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、Zollinger-Ellison症候群、非びらん性胃食道逆流症、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制○下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助胃潰瘍、十二指腸潰瘍、MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎(新効能 新用量 剤型追加)
	ジャディアンス錠 10mg (S10@)	10mg1錠	205.50	日本ベーリン ガーインゲル ハイム	エンバグリフロジン:選択的SGLT2阻害剤-2型糖尿 尿病治療剤-:2型糖尿病(新有効成分)
	ジャディアンス錠 25mg (S25@)	25mg1錠	351.20		
	オーファディンカプセル2mg (NTBC2mg)	2mg1カプセル	3,960.60	アステラス製 薬	ニチシノン:高チロシン血症Ⅰ型治療剤:高チロシ ン血症Ⅰ型(新有効成分)
	オーファディンカプセル5mg (NTBC5mg)	5mg1カプセル	8,649.00		
	オーファディンカプセル10mg (NTBC10mg)	10mg1カプセル	15,768.20		
	ゼルボラフ錠240mg (VEM)	240mg1錠	4,935.50	中外製薬	ベムラフェニブ:抗悪性腫瘍剤・BRAF阻害剤: BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性 黒色腫(新有効成分)
注 射 薬	ピミジム点滴静注液5mg	5mg5mL1瓶	129,908	BioMar in Pha rmaceu tical Japan	エロスルファーゼ アルファ(遺伝子組み換え):遺 伝子組み換えムコ多糖症ⅣA型治療剤:ムコ多糖 症Ⅳ A型(新有効成分)
	メナクトラ筋注	0.5mL1瓶	19,827.00	サノフィ	髄膜炎菌(血清型A)多糖体ジフテリアトキソイド 結合体:4価髄膜炎菌ワクチン:髄膜炎(菌血清型 A、C、Y及びW-135)による侵襲性髄膜炎菌感染 症の予防(新有効成分)
	イロクテイト静注用250	250国際単位1瓶 (溶解液付)	26,766.00	バイオジェ ン・アイデッ ク・ジャパン	エフラクトコグ アルファ(遺伝子組み換え):遺 伝子組み換え血液凝固第ⅧⅧ因子Fc領域融合 タンパク質製剤:血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に おける出血傾向の抑制(新有効成分)
	イロクテイト静注用500	500国際単位1瓶 (溶解液付)	49,637.00		
	イロクテイト静注用750	750国際単位1瓶 (溶解液付)	71,236.00		
	イロクテイト静注用1000	1000国際単位1瓶 (溶解液付)	92,050.00		
	イロクテイト静注用1500	1500国際単位1瓶 (溶解液付)	132,105.00		
	イロクテイト静注用2000	2000国際単位1瓶 (溶解液付)	170,702.00		
	イロクテイト静注用3000	3000国際単位1瓶 (溶解液付)	244,983.00		

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
注射薬	メチレンブルー静注50mg 「第一三共」	50mg10mL1管	120,382	第一三共	メチルチオニウム塩化物水和物:メトヘモグロビン血症治療剤:中毒性メトヘモグロビン血症
	コセンテックス皮下注用150mg	150mg1瓶	73,123	ノバルティスファーマ	セクキヌマブ(遺伝子組み換え):ヒト型抗ヒトIL-17Aモノクローナル抗体製剤:既存治療で効果不十分な次の疾患(尋常性乾癬、関節症性乾癬)(新有効成分)
	コセンテックス皮下注150mgシリンジ	150mg1mL1筒	73,132.00		
	治療用ダニアレルゲンエキスパ下注「トリイ」10,000JAU/mL	2mL1瓶	4,320.00	鳥居薬品	コナヒョウヒダニエキス及びヤケヒョウヒダニエキス:ダニ抗原による下記アレルギー性疾患に対する減感作療法(アレルギー性鼻炎、気管支喘息)(新有効成分)
	治療用ダニアレルゲンエキスパ下注「トリイ」100,000JAU/mL	2mL1瓶	4,320.00		
	スクラッチダニアレルゲンエキス「トリイ」100,000JAU/mL	スクラッチダニアレルゲンエキス「トリイ」100,000JAU/mL	7,966.00	鳥居薬品	コナヒョウヒダニエキス及びヤケヒョウヒダニエキス:アレルギー検査薬:アレルギー性疾患のアレルゲンの確認(新有効成分)
外用剤	ベピオゲル2.5%	2.5%1g	120.90	マルホ	過酸化ベンゾイル尋常性ざ瘡治療薬:尋常性ざ瘡(新有効成分)
	ロゼックスゲル0.75%	ロゼックスゲル0.75%	101.40	ガルデルマ	ネトロニダゾール:がん性皮膚腫瘍臭改善薬:がん性皮膚潰瘍部位の殺菌・臭気の軽減(新投与経路)

●新医薬品 平成26年3月25日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内服薬	トリメク配合錠 (572Tri)	30錠(瓶)	7,000.30	ヴィーブヘルスケア	ドルテグラビルナトリウム・アバカビル硫酸塩・ラミブジン:抗ウイルス化学療法剤:HIV感染症(新医療用配合剤)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 第12回集計報告

日本医療機能評価機構より、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の第12回集計報告(H26年7～12月)が公表されました。沖縄県は44薬局が参加しています。今回の報告件数は2,594件、うち調剤に関する項目は2,181件でした。患者の状態や生活状況に関して丁寧に情報収集することによりその患者にとって服用しやすい形の医薬品へと処方変更することができた事例や、薬剤取り違い、規格・剤形間違いなどの事例が報告されています。発生要因の集計等詳

調剤に関する項目

発生場面	事例の内容	件数	発生場面	事例の内容	件数
調剤	調剤忘れ	114	管理	充填間違い	7
	処方せん監査間違い	94		遺物混入	2
	秤量間違い	14		期限切れ	3
	数量間違い	616		その他(管理)	2
	分包間違い	55	交付	患者間違い	9
	規格・剤形間違い	340		説明間違い	3
	薬剤取違い	407		交付忘れ	26
	説明文書の間違い	5		その他(交付)	2
	分包紙の情報間違い	14	合計		2,181
	薬袋の記載間違い	99			
	その他(調剤)	369			

日本医療機能評価機構HPより抜粋



Medical News

●山形大医学部：抗がん剤、ロボットが調製（毎日新聞 1月23日）

山形大医学部は、抗がん薬を自動で調製するロボットを附属病院に導入したと発表。同附属病院では抗がん剤の調製量が増加しており、調製ミスの防止と薬剤師らの安全確保が狙い。2本のアーム（腕）を持つ新型ロボットの導入費用は約1億円。

●電子たばこ漂うリスク…一部商品に発がん性指摘（読売新聞 2月11日）

電子たばこの人気再燃に伴い、健康への影響が懸念されている。2010年秋のたばこ増税前後のブームが去った後、欧米での人気急浮上を受ける形で、昨年頃から専門店が相次ぎ出店。一部の商品には発がん性も指摘されている。

●子どもに向精神薬、増加 初調査～医療経済研究機構（共同通信 2月12日）

調査は、2002～10年の診療報酬・調剤報酬明細書のうち18歳以下の約23万件を分析。13～18歳への処方について、02～04年と08～10年を比べると、ADHD治療薬が2.49倍、統合失調症の治療に使う抗精神病薬が2.43倍、抗うつ薬が1.37倍に増えていた。6～12歳ではADHD治療薬が1.84倍、抗精神病薬は1.58倍、抗うつ薬が1.04倍。複数の薬を併用する傾向も目立った。未成年の心の診療に対する理解が進んで専門の医療機関が増え、受診の機会が広がったことが背景にあるようだ。

●薬歴の未記載、3年前に情報 厚労省、調査に入らず（朝日新聞 2月12日）

「くすりの福太郎」で大量（約17万件）の薬剤服用歴が記載されていない問題について、福太郎の元薬剤師が厚生労働省の複数の出先機関に3年前から情報提供していた。厚労省は現在も福太郎の調査に入っていない。厚労省の調査姿勢をめぐっては、診療報酬の不正請求など多くの情報を提供している健康保険組合連合会も、13年10月の中央社会保険医療協議会で不満を表明している。

●中高生5割「入手できる」 危険ドラッグ、民間調査（産経新聞 2月16日）

民間団体「日本薬物対策協会」が首都圏の中高高校生を対象に昨年実施した薬物に関する意識調査で、半数以上が危険ドラッグを「簡単に」あるいは「少し苦労するが」入手できると考えていることが分かった。協会は、直接販売する店舗が減る一方、インターネットや宅配が主な販路になっていることで「ドラッグに対する若者の心理的なハードルが下がっている」と指摘。教育や啓発の強化を訴えている。

●生活保護に後発薬促進（読売新聞 3月5日）

厚生労働省は、生活保護受給者が薬局で薬の処方を受ける際、価格の安い後発医薬品（ジェネリック）を使用する割合を現行の61%から75%以上に引き上げるよう各自治体に求めることを決めた。達成されれば、130億円規模の保護費削減につながる見込み。都道府県の平均で75%を上回っているのは長野、沖縄両県だけで、和歌山県（46%）などの低調な自治体に改善を促す。

●高額レセでジェネリック割合低く - 協会けんぽ調査で判明（薬局新聞 3月18日）

高額療養費の対象相当となる調剤レセプトのジェネリック（GE）薬の使用割合について、全国健康保険協会が調査。1カ月で2万6410点未満のレセプトでは使用割合が58.6%だったのに対し、2万6410点以上の高額レセプトでは34.5%にとどまった。また、昨年9月の1カ月分の調剤レセプトのうち、一般の高額療養費対象相当となる2万6410点（医療費で26万4100円）以上のレセプトでは、GE薬の使用割合が34.5%と、2万6410点未満のレセプトの58.6%に比べて低いことが分かった。

●湿布薬“保険外し”を検討（薬局新聞 3月23日）

政府の規制改革会議に設置した「健康・医療ワーキンググループ」は19日、市販品類似薬の保険給付範囲の見直しに関する議論を行った。健康保険組合連合会は、主成分にサリチル酸メチル、メントールなどが含まれる第一世代の外用消炎鎮痛剤（湿布薬）については保険給付から外すと共に、湿布薬の処方に一定の上限を設けることを提言。市販品類似薬をめぐっては、過去2回の診療報酬改定で保険外しが実施され、2012年度は栄養補給目的のビタミン剤、14年度にはうがい薬の単体処方が保険適用外となった。

●筋ジスなど196疾病を追加 - 要件修正で脂質異常疾患も（薬局新聞 3月24日）

厚生科学審議会の指定難病検討会は19日、7月から医療費助成を開始する第二次実施分の「指定難病」について病名を整理し、筋ジストロフィーや先天性ミオパチーなど196疾病を対象疾病とすることを決めた。また、指定を見送っていた脂質代謝異常の6疾病も対象とすることにした。

●第100回薬剤師国家試験、合格率63.17%で微増（薬事日報 3月30日）

第100回薬剤師国家試験では、受験者数1万4316人のうち、合格者は6年制になってから最多の9044人で、合格率は63.17%だった。合格者数は、前回から1732人増え、合格率も上昇。50%台への転落は免れた。厚労省は、新卒者が前回並みの合格率を維持し、既卒者の合格者数と合格率が増えたためと分析した。国試は、1万6546人が出願し、1万4316人が受験した。「6年制新卒」の合格率は前回の70.49%から微増の72.65%となった一方で、「6年制既卒」の合格率は低水準だった前回の39.85%から53.12%に上昇した。

●市販薬で死亡15例（読売新聞 4月9日）

消費者庁は8日、2013年度までの5年間に、市販薬の服用で起きた副作用の報告が1225症例に上ったと発表した。このうち15症例は死亡例で、後遺症が残ったケースも15症例報告された。医薬品医療機器法（旧薬事法）は製薬会社に対し、副作用の症例を厚生労働省に報告するよう義務付けている。副作用の報告が最も多かったのは総合感冒薬（風邪薬）で400症例。解熱鎮痛消炎剤が279症例で続いた。目の充血や唇の粘膜のただれ、息切れなどのほか、肝障害や腎障害、間質性肺炎などで重症化したケースもあった。

薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。



薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】「薬剤師のためのドーピング防止ガイドブック」をPDFでダウンロードしたいのですが、どこから入手できますか。（企業）

【回答】県薬HP・会員頁の左側メニューにあります。また、日本体育協会ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班が2015年版使用可能薬リストを作製しました。まもなく協会HPによりダウンロード可能となります。ご利用ください。

【回答】インフルエンザでの予防にタミフルなどの薬剤は、保険適応になるか。（学薬）

【回答】各々の添付文書には以下のように明記されている。

・タミフルカプセル、タミフルドライシロップ：医薬品名の下部に＜注＞本剤を予防目的で使用した場合は、保険給付されません。

・イナビル及びリレンザ：【取り扱い上の注意】保険給付上の注意の項に本剤は「A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の発症後の治療」の目的で使用した場合のみ保険給付されます。

・シンメトレル：効能又は効果の欄で予防に用いる事が書かれていますが、用法及び用量の項では、予防の用量の明記がなく、上記薬剤のような注意の明記もない。

これら添付文書の明記不明記にしても、現在日本の健康保険においては、基本的に予防での薬剤投与は保険適応されない。

【質問】以前はワーファリンを服用していた患者だが、イグザレルト（一般名：リバーロキサバン）に変更になった。食品との相互作用で影響のあるものは？（薬局）

【回答】健康食品のセイヨウオトギリソウ（セントジョーンズワート）はCYP3A4を強力に誘導し、イグザレルトの代謝を促進することにより薬の効果が減弱する。イグザレルトと食物との飲み合わせについては影響がないとされている。

【質問】オキシドールは通常3%だが、30%の製剤は市販されていますか？（歯科）

【回答】試薬として販売されている。

【質問】小児科での1処方せんあたりの薬剤品目数、平均を知りたい。また小児慢性特定疾患に罹患している患者数は沖縄県では何人いますか？地域別統計があれば。（薬局）

【回答】「平成25年度版厚生労働省調剤医療費の動向」によると、処方せん1枚当たりの薬剤品目数は平均2.9枚。ホームページでは平成19年度からの統計が閲覧可能である。「小児慢性特定疾患については、25年度は2,766名が認定されている。平成27年1月に対象としたのは2,449名。北部166名、中部887名、南部720名、宮古68名、八重山88名、那覇520名。

【質問】味覚障害の症状と治療薬について（薬局）

【回答】味覚障害では、一般的に何も食べていないのに、塩味や苦みを感じる、味がしない、美味しくない等の症状が報告されている。原因としては亜鉛不足による場合には、亜鉛の摂取により改善されることもあります。また、降圧剤や向精神薬等による薬剤性味覚障害が原因となる事もあり、原因となる薬剤を変更することで、症状の改善がみられることもあります。現在治療薬として保険適応となっている薬剤はなく、ポラプレジンク、H2ブロッカーなどが適応外使用で処方されている。厚生労働省：薬剤性味覚障害（重篤副作用疾患別対応マニュアル）

【質問】今度国体に出場する関節痛の患者に以下のステロイドの注射（リンデロン注やケナコルト注）を使用したいのでドーピングの可否を教えてください。（医師）

【回答】全身投与は禁止されるため、どの薬剤も使用できません。

【質問】老人ホームの在宅を考えているのですが、ケアマネから、看護師などの管理者がいる施設などは薬剤師の在宅はできないと言われたのですが、本当にそうですか。医師の指示は受けています。（薬局）

【回答】薬剤師の行える在宅の種類に、居宅療養管理指導と訪問薬剤管理指導があり、前者が老人ホームなどに当たる療養施設での算定名で、後者は個人宅への算定名になる。質問の老人施設に別に薬剤師が関わっていると算定できないが、薬剤師でなく看護師の管理の場合できないとの制約はない。

別に、ケアマネが介護で行われている支給制限額を気にして薬剤師の在宅関与を断る事例をよく見かけますが、医師等の判断指示で行われる居宅療養管理などは、制限額に適応しないということを知らない方がいます。その場合、文書でもって誤解を解いていただけるものと思います。

参考：在宅服薬支援マニュアル その3 厚労省、区分支給額基準額について（日本薬剤師会、地域・在宅医療委員会）

【質問】喘息患者に使用できる湿布薬を教えてください。（薬局）

【回答】殆どの消炎鎮痛効果のある湿布剤は禁忌となっている。ただ、MSシップ等のサリチル酸メチル含有パップ剤では、これまでに喘息誘発の報告がなく添付文書上でも禁忌とはなっていない。MSシップと喘息の関係についてこれまでも調査・研究が行われてないため、これが直ちに喘息誘発の可能性は否定できない。以上のことから、一般的にアスピリン喘息のある患者さんへの鎮痛消炎剤投与には注意が必要である。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】家族が病院で、周期性なんとか、足のしやくりともいわれた。時々足とかがピクピクとする。大丈夫ですか？（女性）

【回答】周期性四肢運動障害の事と思われます。この疾患は、睡眠中に20～40秒ごとに脚や腕がびくっと動いたり引きつったりするのが主な症状です。睡眠を妨げるため、日中に疲れが出て眠くなります。このような症状については、患者自身は全く自覚がないようです。原因はまだ明らかになっておりませんが、治療には手のふるえや筋肉のこわばり等を改善するお薬が使用されます。

【質問】ジェネリックのエチゾラムはデパスと作用が違うのですか（男性）

【回答】基本的には作用は同じです。薬を開発する時は莫大な費用がかかるため、先に出した薬には、発売後5～10年の特許期間が設けられています。ジェネリック医薬品は、開発費用もかからないため、安価で先発品と同じ効果の薬を作ることができます。

【質問】寝る前にルネスタとゾルピデムを10年来飲んでる。最近効かなくなったようで、医師に相談したら不眠時塩酸リルマゼホン1錠2回分がでた。不眠時とはいつか。夜中の2時や4時に起きたり、昼間すっきりせずにうとうとしている。

【回答】不眠時とは、定期薬を飲んででも眠れない時に飲むという指示です。明け方4時だと朝の起床は難しくなると思われます。夜中2時頃起きた時に服用の方が朝の目覚めはよいでしょう。

●安全性情報●

【質問】グレープフルーツジュースは赤いのと白いのので相互作用の強さはかわりますか？

【回答】グレープフルーツ中のフラノクマリンという物質が血圧の薬等の効果に影響を与えることが判っていますが、白色と赤色では影響する強さが異なります。赤い色（ルビータイプ）のは、白いもの（ホワイトタイプ）に比べてフラノクマリン含有量が半分程度とされています。全く影響がない訳ではありませんので、どちらも同じように注意が必要です。

参考：大日本住友製薬HP

【質問】一日おきに貼るエストラナテープを昨日、今日と連続で貼ってしまった。胸がドキドキし、気分が悪いがこの薬のせいですか？また、体にいいと思って毎日豆乳と納豆を沢山摂っていますが大丈夫ですか。（女性）

【回答】1日おきの薬を連続で貼ってしまった為、通常より多めの薬が体内に入ってしまったようですね。すぐに剥がして動悸が治まってから、再度1日おきで使用するとよいでしょう。また、豆乳や

納豆に含まれている大豆イソフラボンには弱いエストロゲン様作用が報告されています。お薬を服用中の過剰摂取は控えた方がよいでしょう。

【質問】子宮の切除後、ルナベルを飲み始めて最初の頃吐き気がしたので、免疫力を高めようとノニを飲み始めた。そしたら、吐き気が治った気がする。医師はノニにはホルモ的な作用があるので、止めるようにと言っている。そのせいか不正出血も起こっている。（女性）

【回答】ルナベルは、従来あったホルモン薬よりも女性ホルモンの量が少ないため、吐き気や、重篤な血栓症の発生率が少ないとされています。まれに、最初の頃に吐き気等の副作用が現れる事がありますが、徐々に治まってくるとされています。また、ノニについては昔から月経促進薬として用いられており、不正出血もその影響である可能性も考えられます。妊娠中、またホルモン剤の服用中は控えた方がよいでしょう。吐き気に対する作用については、報告がなくはっきりとした事は言えません。

●ドーピング●

【質問】コンビニに売っている「モンスターエナジー」を飲もうと思う。ネットではドーピングは問題ないとあるが、高麗人参等が入っているというので心配。（スポーツ選手）

【回答】公開されている成分中に禁止物質はないが、カフェインが監視プログラムに入っているもので、注目される。健康食品等、医薬品以外のものは、成分明記が必ずしも義務ではない。そのため、通常のドリンク等は明らかにされていない成分が含まれている事もあり、飲用は自己責任となる。JADAが勧める栄養飲料がHP上で公開されているので、確認の上ドーピングにかからない公認の栄養飲料を勧める。

●意見・苦情●

・調剤薬局でジェネリックは希望しないと伝え、投薬時にも確認して、薬を受け取った。持ち帰った説明書には後発医薬品ですと書かれていた。薬局に確認の電話を入れた所ジェネリック医薬品だと判った。先発品はすぐには揃えられないと言うし、納得がいかない。

・薬は動物実験で安全が確認できれば、人間でも安全である。○か×かという答えと理由を教えてください。（中学生より）

・1歳2ヶ月の子供が40度近くの熱があったので坐薬を入れて解熱した。夜中1時頃再び坐薬を入れた。今朝になって1時頃入れた坐薬が大人用の坐薬「プロクトセディル」であった事に気付いた。今は微熱になり、食欲もあり元気もある。大丈夫ですか？

Medical Magazines titles

今の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 51巻2号

- *特集：臨床”Kampo”～各科領域におけるエビデンス～
- ・大腸がん検査における大腸カプセル内視鏡の費用効果分析 (p.116)
- ・注目論文を読み解く (35) (p.168)
 1. 妊娠中の抗ウイルス薬使用で内反尖足のリスクが上昇
 2. メトトレキサートによる肝機能検査値上昇のリスク要因
 3. 妊娠中の抗うつ薬使用で早産および低出生体重のリスクが上昇
 4. フルオロキノロン系抗菌薬で網膜剥離のリスクが上昇
 5. サルボグレラート併用でメトプロロールの血漿中濃度が上昇
 6. トピラマート併用でメトホルミンの血漿中濃度が上昇、ピオグリタゾンの血漿中濃度が低下

○医薬ジャーナル 51巻3号

- *特集：最新の心房細動薬物治療
- *小特集：マクロライドの治療効果をめぐる30年の歩み
- ・患者のQOL向上と薬剤師の関わりPARTII. 服薬指導と病棟活動 (93) 医師および看護師からの問い合わせ事例から見た病棟専任薬剤師へのニーズ (p.151)
- ・注目論文を読み解く (36) (p.158)
 1. クラリスロマイシンによる虹彩萎縮
 2. CYPの基質薬は薬物性肝障害を起こしやすい
 3. 薬物相互作用による高カリウム血症発現のリスク要因
 4. ナプロキセン併用でアピキサバンの血漿中濃度が上昇し、薬理作用が増強
 5. シクロスポリン併用でリバーロキサバンの血漿中濃度が上昇
 6. 結核治療中に肝障害を呈した患者はリファンピシンの血漿中濃度が高い

○エキスパートナース 31巻2号

- *特集：これでナットク！胸腔ドレーン管理

○エキスパートナース 31巻3号

- *特集：脳・神経の異常”とっさの”見かたと対応
- *特集：「CVポート」知っておきたいポイント

○エキスパートナース 31巻4号

- *特集：急変対応、まずはここから！
- *特集：「コレ何だっけ？」は医療コトバ

○きょうの健康 3月号

- *特集：長引く頭痛

○きょうの健康 4月号

- *特集：病気を防ぐ食べ方

○月刊薬事 57巻2月号

- *特集：薬剤性肺障害のとりえ方
- ・適応拡大クローズアップ インドシアニングリーン注/インジゴカルミン (p.85)
- ・病態を正しく見抜く！臨床検査値ケースファイル 35歳女性 主訴：浮腫、体重増加 (p.98)
- ・適応外使用の処方せんの読み方 (56) 非心臓手術周術期の心事故管理～β遮断薬 (p.135)

○月刊薬事 57巻3月号

- *特集：糖尿病性腎症の治療マネジメント
- ・適応拡大クローズアップ アルプロスタシル アルファデクス (p.116)
- ・病態を正しく見抜く！臨床検査値ケースファイル 63歳男性 主訴：口渇、体重減少 (p.124)
- ・適応外使用の処方せんの読み方 (57) ERCP後 膵炎の予防 (p.163)

○月刊薬事 57巻4月号

- *特集：がん疼痛緩和の新薬はこう使う
- ・レスキュー薬の自己管理導入に向けたポイント
- ・病態を正しく見抜く！臨床検査値ケースファイル 58歳男性 主訴：腹痛、意識障害 (p.132)
- ・適応外使用の処方せんの読み方 (58) セロトニン症候群 (p.145)

○産科と婦人科 82巻3号

- *特集：OC・LEPの静脈血栓塞栓症リスク Q&A

○産科と婦人科 82巻4号

- *特集：女性アスリートを診るー産婦人科的問題とその対策

○総合診療 25巻2号

- *特集：総合医のためのスポーツ医学ベーシックス

○総合診療 25巻3号

- *特集：神経難病ケアのコペルニクスの転回

○総合診療 25巻4号

今月の特集・論文

＊特集：関節が痛いんです！コモンからレアものまでの診断と治療

○正しい治療と薬の情報 29巻 1月号

- ・エルトロンボパグの効果と害について (p.87)
- ・オセルタミビル(タミフル)の害とその機序- 最新情報 (p.94)

○調剤と情報 21巻 2月号

＊特集：オピオイドの3大副作用対策

- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす(5) 糖尿病の血糖管理を検査値から考えてみよう (p.55)
- ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく(53) 包装類似の薬を毎回虫眼鏡で確認して四苦八苦していた患者 (p.91)
- ・新薬くろーずあつぷ：ダクルインザ錠60mg・スンベブ ラカプセル100mg (p.39)

○調剤と情報 21巻 3月号

＊特集：糖尿病経口薬のリスク・ベネフィット

- ・処方監査や疑義照会で検査値を使いこなす(6) 血清C a 値で有害事象を早期に発見しよう (p.75)
- ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく(54) 保護者の不安、「1歳と5歳で服用量が同じ？」 (p.113)
- ・新薬くろーずあつぷ：ドボベット軟膏 (p.38)

○治療 97巻 2号

＊特集：その気にさせる伝え方

○治療 97巻 3号

＊特集：認知症を診ていこう

○日経ドラッグインフォメーション 208号

＊特集：薬剤師の健康対策

- ・処方箋を読む：抜歯時にステロイドが追加された理由 (p.41)
- ・服薬指導：ホクナリンテープが剥がれた場合の対処法 (p.PE005)
- ・構造で薬を理解する～光学(鏡像)異性体 (p.PE007)
- ・医師が語る 処方箋の裏側～認知症患者の夜間せん妄にミアンセリンが著効 (p.PE016)

○日経ドラッグインフォメーション 209号

＊特集：実践！プレアボイド

・服薬指導：掌蹠膿疱症に出されたビタミンCと整腸薬 (p.PE003)

・構造で薬を理解する～医薬品にフッ素が活用される理由 (p.PE007)

・医師が語る 処方箋の裏側～喘息の間欠療法を実践し治療をシンプル化 (p.PE016)

○日経メディカル 567号

＊特集：痛みに先手を打て

○日経メディカル 568号

＊特集：攻めの不眠診療

○日本医事新報 4735号

＊特集：期待される肺癌の低侵襲手術
・質疑応答～内科：NOACの使いわけ (P.59)

○日本医事新報 4736号

＊特集：医療統計 早わかり
～オープンデータで見る医療の姿

○日本医事新報 4737号

＊特集：糖尿病合併症の早期先制治療

○日本医事新報 4738号

＊特集：子どもの心疾患治療

○日本医事新報 4739号

＊特集：ガイドラインで読み解く機能性消化管障害

○日本医事新報 4740号

＊特集：臨床医学の展望

○日本医事新報 4741号

＊特集：災害医療支援をどうつなぐか

○日本医事新報 4742号

＊特集：シックハウス症候群への対策と予防

○日本医事新報 4743号

＊特集：新規薬剤が引き起こす薬剤性肺障害

○薬局 66巻 2号

＊特集：小児科領域の適応外使用

・ワルファリン服用中の食道カンジダ症治療 (p.110)

・医療環境レポート～薬剤部テクニシャンによる薬物治療確認プログラム実施の試み (p.152)

○薬局 66巻 3号

＊特集：高齢者の多剤併用

○The Medical Letter 30巻 22号

・抗血栓薬

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

多剤併用の高齢者に対する処方整理の実践

薬局 3月号

高齢者の多剤併用にはさまざまな弊害があるので、常に処方整理を心がける。お薬手帳を活用し全ての薬を把握する。

予防薬に関してはエビデンスがある妥当な物以外は中止、対症療法薬も有効性が低い場合や症状が軽快したら中止を試みる。治療薬では、有用性と比較して重篤な有害作用のある薬等から優先して中止する。処方中止の際、徐々に減量すべき薬剤として、抗けいれん薬、抗うつ薬、向精神薬、麻薬、副腎皮質ステロイド、β遮断薬、硝酸薬などは注意が必要である。

アドヒアランスを確認する。きちんと内服しているかよりも、薬が余っていないかを尋ねる方が情報を得やすい。急性疾患の処方と慢性疾患の処方を明確に区別し、短期処方薬を漠然と用いない。口腔内崩壊錠や貼付剤も有用であり、便秘薬や睡眠薬以外の薬剤は一包化する。

糖尿病薬では、加齢や腎機能低下により薬やインスリンの必要量が減少し、低血糖を起こしやすくなるので、常に処方の減量を心がける。

東京医科歯科大学医学部付属病院
老年病内科
金子 英司

女性アスリート3主徴～無月経

産科と婦人科 3号

女性アスリートにおいては初経初来の遅延、無月経や月経不順の者が比較的多く、種目特性として低体重が求められる長距離走や新体操、体操等の若年選手やトップアスリートに多い。殆どは、慢性化した身体的・精神的ストレス、体脂肪減少、相対的な摂取エネルギー不足を要因とした視床下部性の排卵障害による。無月経の長期化により、低エストロゲン状態が持続、その結果低骨密度が問題となる。視床下部性無月経・骨粗鬆症・low energy availabilityの3つが「女性アスリートの3主徴」と呼ばれている。低エストロゲン状態に対してホルモン補充療法を行うが、ホルモン療法のみでは骨密度の増加は見込めず、エネルギー均衡の改善を最優先で図らなければならない。本来、女性の骨密度が最も増加するのは12～15歳である。

思春期に骨密度を十分獲得できるよう、適切な摂食と体重増加、血中エストロゲン値上昇を促すことで、3主徴の予防に務めるべきである。

埼玉医科大学産婦人科
難波 聡

適応外薬が処方された患児・家族に対する服薬指導のポイント

薬局 2月号

小児薬物療法において、適応外使用がやむを得ずなされている場合が多い。薬剤師は保護者が安心して患児に服薬させる事ができるように、きめ細やかな服薬指導に努める事が大切である。

小児に限らず適応外薬の服薬指導を行う時に医師の処方意図をしっかりと理解する必要がある。病院の薬剤師であれば容易にカルテから情報が得られるが、薬局の薬剤師はどういう理由なのかを確認する事は時に困難である。

最も大切な事は、適応外薬を使用していて副作用が起こったとしても、通常の救済制度はうけられないため、患者が「適応外薬が処方されている」ということを理解しているかどうかである。保護者の理解と意識が小児のアドヒアランスに大きな影響をもたらしている。薬剤師として考えられる見解や情報を保護者に一つずつ提供していくことが、服薬指導の第一歩であり、服薬アドヒアランスの向上にもつながっていく。保護者が不安や抵抗感を抱かないように服薬指導を行う事が重要である。

滋賀医科大学医学部付属病院 薬剤部
宮口 美由紀他

薬事法が薬機法になって何が変わった？

調剤と情報 3月号

薬事法が改正され、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）が2014年11月25日に施行されました。この改正により、国、都道府県、医薬品等関連事業者、医薬関係者等の責務が明示され、医薬品等の有効性および安全性など適正な使用に関する知識と理解を深めた上で、正確かつ適切な情報の提供に努める事が定められました。また、国などには薬害防止等の責務があることも明確になりました。医薬品等製造販売業者や病院、診療所、薬局の開設者らには、情報交換の連携についても明記されています。

以上のような責務は条文がなくとも当然の事と考えられますが、明記されたのですから今まで以上に、薬局では製薬会社や病院等と連携する事が重要になり、薬剤師は医薬品や医療機器等の知識を得た上で、情報提供等をしていくという意識が必要になるでしょう。

順天堂大学医学部付属練馬病院 小児科
新島 新一

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】医薬品医療機器等法 薬剤師法・毒劇法解説

【著者】翁 健、木村 豊彦 他 【発行】薬事日報社 【発行日】2015年3月

【版型/頁】B5判/総902頁【定価】4,968円(税込)【会員価格】4,500円(税込)

1. 『医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律』に完全対応。
2. 薬事関連3法を条文毎に、要旨、解説、関連政令・施行規則をセットにして掲載し、わかりやすく、体系的・実践的に編集(条文は2015年1月29日迄法令改正対応)。
3. 『医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律』に完全対応して『薬事法・薬剤師法 毒物及び劇物取締法解説 第23版』を全面改訂。
4. 薬局・薬剤師の「医薬品医療機器等法」の理解のために役立つ。
5. 医薬品医療機器等法の入門書、医薬品関連企業の新人研修用としてもお薦め。
6. 便利な関連法規抄録付。高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法、医療法、健康保険法、麻薬及び向精神薬取締法、個人情報の保護に関する法律、(独)医薬品医療機器総合機構法など18法の抄録を巻末に収録。

内服薬 経口投与ハンドブック 第3版

-簡易懸濁法可能医薬品一覧-

【監修】藤島 一郎 【発行】じほう 【発行日】2015年3月

【版型/頁】B6判/1,000頁【定価】4,860円(税込)

経管栄養チューブから薬剤を投与する際、つぶしや脱カプセルによるチューブ閉塞や薬剤曝露、煩雑な業務などの問題を解決する簡易懸濁法を紹介。前版から大幅に品目数を増やし、約4,700品目について経管投与の適否、最小通過チューブサイズ、水での崩壊状況、破壊開封後の水での崩壊状況の情報を掲載しているほか、粉碎の可否も記載。一覧表は商品名順、薬効分類順で並べており、代替薬の選択が容易で実務に役立つよう編集。嚥下障害患者の薬剤内服法についての解説つき。

薬事ハンドブック 2015

【編著】じほう 【発行】じほう 【発行日】2015年3月

【版型/頁】A5判/540頁【定価】3,240円(税込)

医薬品医療機器等法の施行、薬価収載加算率ポイント化・毎年改定の議論など薬価制度改革、医薬品安全対策、PIC/S加盟・ハラル対応の現状などグローバル化への対応、ワクチン対策、バイオ後続品やオンスライズド・ジェネリックの動向など、薬事行政・医薬品業界この1年の注目トレンドを解説。また主要企業・薬効別市場・欧米における最新の開発動向も完全アップデート。業界分析・統計資料の整理に重宝する「資料編」では、各種厚生労働統計資料に加え、医薬品承認状況、薬価算定加算対象品目一覧、公知申請事前評価品目、製薬企業・卸売販売業再編図など、「知りたい情報」「調べたい資料」「一瞥で欲しいデータ」を余すところなく凝縮した業界随一のハンドブック。

速解!調剤報酬 2014-15

【著者】山口 路子【発行】南山堂 【発行日】2015年2月

【版型/頁】B5判/284頁【定価】3,024円(税込)

保険薬局でのレセプト業務で抱える悩みや疑問を解決する解説書の決定版! 2014年度調剤報酬改定について、わかりやすく丁寧に解説。即実践で活用できるよう編集。巻末には、初学者が聞き慣れない保険用語などをすぐに調べられる用語集も掲載。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)
(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。

お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937
沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●授乳と片頭痛治療薬 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(11)1313- (2014.11))

片頭痛の多くは授乳中の女性における検討が不十分であるため、最も多用される抗片頭痛薬(AMDs)のレビューを行い、その授乳リスクを明確にした。Hale's Medications and Moter Milk(2012), National Library of Medicine の LactMed database(2014), および過去 10 年間に公表された関連する文献について MedLine Search から検索可能な全てのデータを収集した。薬剤摂取後の乳汁分泌リスクを評価するために用いた薬物動態パラメータの臨床的関連性は、(1)半減期(t_{1/2}), (2)母体の血漿中蛋白結合(PB), (3)乳汁中薬物濃度(M)と母体血漿中薬物濃度(P)の比率(M/P), (4)経口アペイラビリティについてレビューした。授乳中 “安全”な AMDs は、低用量 acetylsalicylic acid(ASA), ibuprofen, sumatriptan, metoprolol, propranolol, verapamil, amitriptyline, escitalopram, paroxetine, sertraline, acetaminophen, caffeine, および metoclopramide である。授乳中使用可能であるが注意を要する“中等度安全”な AMDs は, diclofenac, ketoprofen, naproxen, ほとんどの新規トリプタン系薬剤, topiramate, valproate, venlafaxine, および cyproheptadine である。授乳中“禁忌”となる AMDs は, 高用量 ASA, atenolol, nadolol, cinnarizine, flunarizine, ergotamine, methysergide, および pizotifen である。

●2010-2013 年にドイツで闇市場に出回った製品およびドーピングに使用される可能性のある薬剤の特定 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(11)1303- (2014.11))

ドイツの税関検査局が 2012-2013 年に押収した闇市場製品の成分, ドイツの闇市場に出回った「運動能力向上薬」の成分を, ケルンのアンチドーピング研究所が European Monitoring Center for Emerging Doping Agents(EuMoCEDA)の傘下で収集・分析したデータについて報告。税関検査局が押収した製品に含まれていた成分は, anabolic-androgenic steroids, 刺激剤, 選択的エストロゲン受容体モジュレーター, ヒト成長ホルモンなどであった。またケルンのアンチドーピング研究所が分析した 337 製品には, 67 種類の活性成分が検出され, そのうちの 49 種類は世界アンチドーピング機構(WADA)によりドーピング薬物に分類される成分であった。全製品の 83.7%が AAS(testosterone, trenbolone, nandrolone およびそれらの誘導体など), 12.8%がペプチドホルモンおよび成長因子(hGH, 成長ホルモン放出ペプチド [GHRP] など), 3.2%がホルモンおよび代謝調節剤, 0.3%が利尿剤であった。注目すべきは, 選択的アンドロゲン受容体モジュレーター(SARM)LGD-4033, 胸腺ホルモン thymosin β4, および生理活性不明の融合タンパクが検出されたことであった。

●授乳による薬剤誘発性有害反応 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 70(11)1361-/(2014.11))

フランスのファーマコビジランスデータベースに集積されたデータに基づいて母乳中に移行した薬物の有害薬物反応を記述した。1984 年-2011 年 6 月の間に, フランスの 31 のファーマコビジランスセンターによって記録された乳児の有害薬物反応(ADRs)の自発報告全てを検討した。届出された授乳中の乳児における ADRs は 174 例 276 件(女児 53.3%, 1 日齢-2 歳)であった。最も頻繁に報告された ADRs は, 中枢神経系(行動の問題, 鎮静, 不眠症), 次いで消化器系(下痢, 嘔吐)であった。うち 65 例(37.4%)が 重篤であった。授乳中の乳児における有害反応の 1/3 以上は中枢神経系に作用する薬剤(抗てんかん薬, opiate 鎮痛薬, benzodiazepines 等)によるものであった。乳児の ADRs に頻度が高く関与した薬剤は, paracetamol, dextropropoxyphene, hydroxyzine, ketoprofen などであった。さらに授乳中の使用を避けるべき pseudoephedrine などの特定の薬剤についても有害反応への関与が報告されていた。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➡ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

➡ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

➡ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承ください。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➡ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

卒煙物語 その51

良い波及

文：卒煙へようこそ担当
えんこ

時代はどんどん進んでいます。
どうしてこんな時代になったのか、
それなりの理由があります。
「卒煙」を知らないではすみません。
さあ、一緒に取り組みましょう！



知り合いの社長に、「僕も禁煙することにしました。今回は本気です！」と彼は話したそうです。すると社長は「僕は、どんなにつらかったから・・・君たちがそばで吸って僕はやめようと決心しているのに・・・と一、と一、やめなさい。やめた方がいいよ！」と応援してくれたそうです。その社長は、健康を害して禁煙を医師に勧められ、がけっぶちの思いで禁煙に挑み、現在も継続して禁煙されているとのことでした。一方、彼の方は、はっきりした健康害は見つかっていなかったのだけど、家族との禁煙の約束を延ばし延ばしにして、とうとう家族に飽きられる、見放される寸前に、禁煙を決意しています。そんな矢先に社長の一声で彼は励まされたようでした。

1日1箱のペースで吸っていたのが、2箱ペースになりかけてきたのに危機を感じ、家族の顔がちらついて、いつも怖々としていたのだそうです。それでも手の届く場所にタバコをおいて、いつでも吸えるようにしていたそうです。

「禁煙の決心をして、禁煙をスタートする前には、周りの喫煙グッズを全て処分するように」と助言しました。彼はそれを実行したら、自分でも驚くほど、あちらこちらからタバコが出てきたそうです。その所々で誘惑に駆られながら、その全てを同僚に分け与えたとのことでした。

今回の決心は、とにかく半端ではない。彼が、ニコチンパッチを始めて1週間。パッチの効果は十分あって、「タバコはピタッと止めた」と言いました。タバコをもらった同僚たちは、もらうにはもらったけれど、それは喜びというより、俺もいつか「“もういないから”と胸張って言える日が来たらな」と心の中で呟いていたことでしょう。

一人の禁煙が、もう一人へ、また一人へとつながっていくような気配を感じました。だから彼の卒煙はとても大切です。良い波及になりますように。

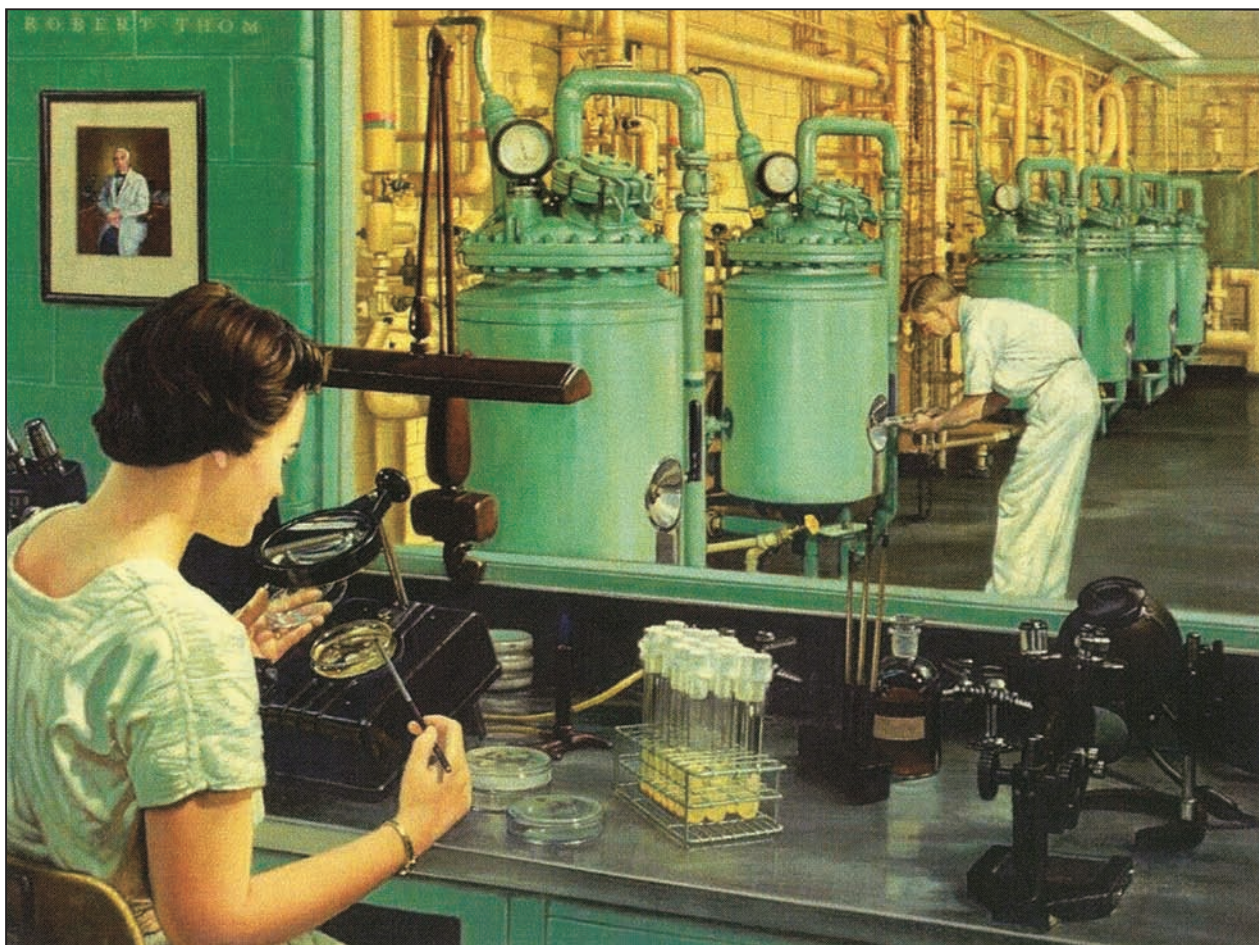
卒煙者の経験談を募集しています。皆様の声が大きな励みとなることでしょう。
下記までお寄せ下さい。

e-mail kouhou@okiyaku.or.jp

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932

薬事情報センター内 卒煙へようこそ担当 えんこ 行き



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

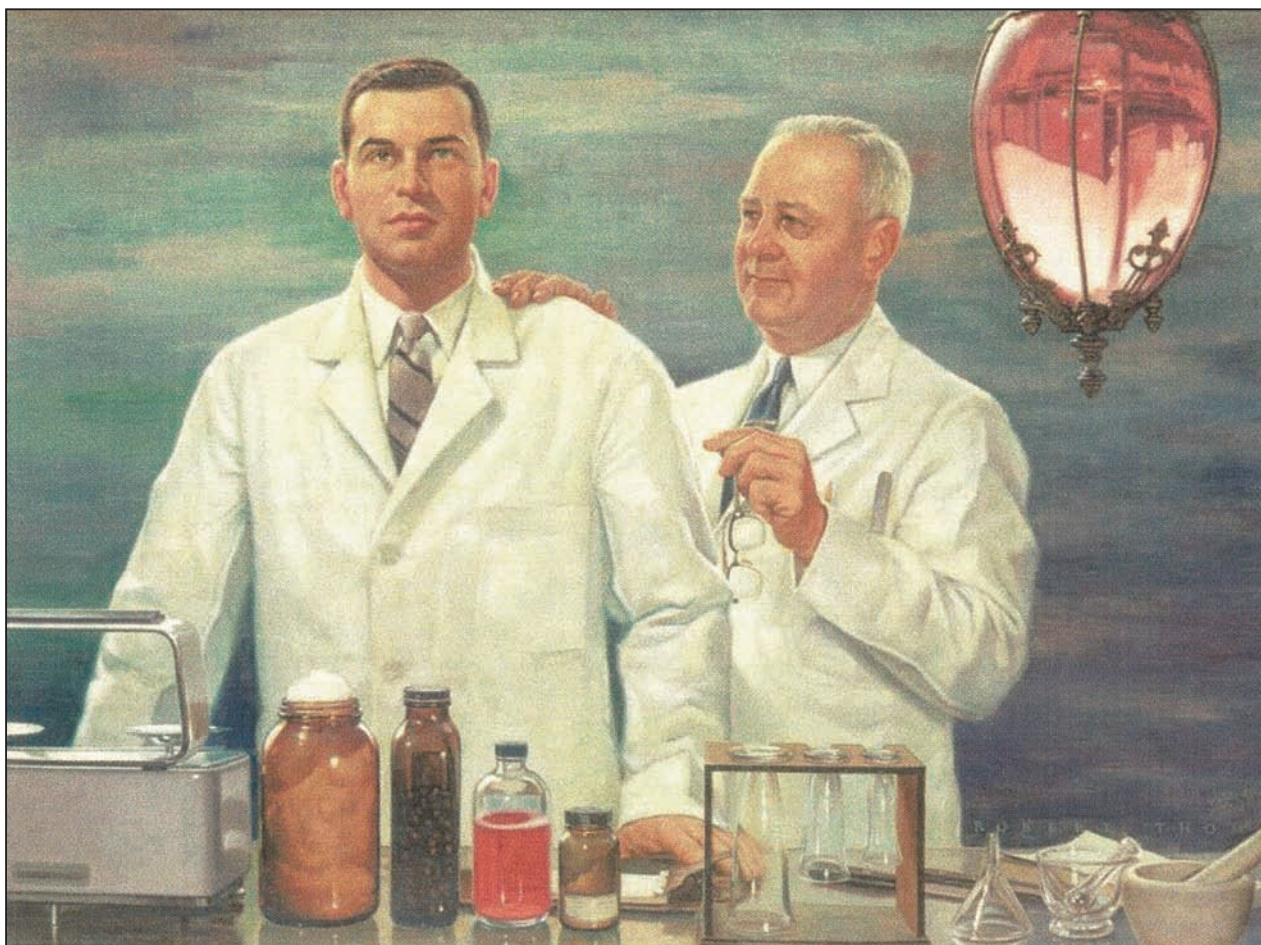
薬学の歴史

39. 抗生物質の時代

抗生物質は新しいものではありません。その作用は1877年にパスツールにより初めて観察されたといわれています。1925年から1950年頃までの間は、抗生物質時代の幕開けでした。その時期は治療薬の生産における革新的な出発点でもありました。1929年に Fleming が発見したペニシリンは実用化されませんでした。1940年に Florey と Chain がその研究に着手しました。第二次世界大戦中、製薬会社はペニシリンの大量生産を急速に開始し、生産コストを当初の1000分の1にまで抑えました。1940年代は、抗生物質の発見が大幅に増えました。現代においても、集中的な研究により人類の健康を蝕む病原菌に対抗する抗生物質が継続的に発見されています。

39. THE ERA OF ANTIBIOTICS

Antibiotics are not new. Their actions probably were first observed by Pasteur in 1877. However, the second quarter of the 20th century marked the flowering of the antibiotic era—a new and dramatic departure in the production of disease-fighting drugs. Fleming's discovery of penicillin in 1929 went undeveloped and Florey and Chain studied it in 1940. Under pressure of World War II, the pharmaceutical manufacturers rapidly adapted mass production methods to penicillin; have reduced costs to 1/1000th the original. Antibiotic discoveries came rapidly in the '40's. Intensive research continues to find antibiotics that will conquer more of men's microbial enemies.



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

40. 薬学の今日と未来

薬学は、人類の50世紀に及ぶ研究の成果とともに、偉大な職業として認識されるようになりました。医学と同様、薬学も多くの革命を成し遂げ、たくさんの事を学び、そして古い手法を排除しなければならないこともありました。薬剤師という職業は、地域社会で最も洗練された教育を受けた人々の職業の一つです。今日の小売薬剤師は、医師が処方した薬を調剤する際、教育、研究、開発、規格、生産、流通といったあらゆる専門分野での経験を生かした専門サービスを提供しています。この大きな遺産と伝統が指導者から実習生、教師から学生、父親から息子へと継承される中で、薬学の専門性は将来も成長を続けてゆくことでしょう。

40. PHARMACY TODAY AND TOMORROW

Pharmacy, with its heritage of 50 centuries of service to mankind, has come to be recognized as of the great professions. Like Medicine, it has come through many revolutions, has learned many things, has had to discard many of its older ways. Pharmacists are among the community's finest educated people. When today's retail pharmacist fills a prescription written by a physician, he provides a professional service incorporating the benefits of the work of pharmacists in all branches of the profession—education, research, development, standards, production, and distribution. Pharmacy's professional stature will continue to grow in the future as this great heritage and tradition of service is passed on from preceptor to apprentice, from teacher to student, from father to son.

第19回 暮らしの中の薬草学

身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ウイキョウ：フェネル：イーチョウバー

学名 *Foeniculum vulgare*
科名 セリ科
属名 ウイキョウ属
使用部位 葉、種、茎
有効成分 精油：アネトール、d-リモネン
フラボノイド配糖体：フェニクラリン



ウイキョウ：フェネル：イーチョウバーの特徴

ウイキョウ（フェネル）は株全体に芳香を持つ高さ1～2mの大型の多年草で、茎は柔らかい淡緑色で叢生して上部で枝が分かれている。葉は互生して3～4回に羽状に細かく分裂した複葉で、小葉は細長く糸状である。根近くの葉には長い葉柄があるが、茎につく葉は短くなり、葉柄が鞘状になって茎を抱えている。6～8月頃、複散形花序を付け、黄色の花卉5枚の小花をつけるが萼はない。秋には長楕円形の2個合わさった実をつけ、乾燥すると分離しやすくセリ科特有の形をしている。果皮の部分は、縦に5つの山の部分（肋線）と谷の部分（果谷）があり、果谷の下と各分果の接合面の下には油道を持ち精油を蓄えている。2個の果実の中にそれぞれ種子があり、他の植物のように種子単体として果皮から分離しない。果実は長さ8mm、幅2mmの長円柱状で、完熟する一歩手前で、へこみだけが黄色になる。

まだ緑の部分が残っている頃に刈り取って天日で乾かし、たたいて果実を集め、2～3日間、日干しにしよう乾燥させたものを、生薬で茴香：ウイキョウと呼ぶ。特異な芳香とやや甘味があり、芳香性の健胃剤として食欲を促進させ、胃腸疾患にも効果がある。腸内のガスの駆除作用があり、胃痛、冷えによる腹痛、腎臓の弱いとき、腰痛にも用い、また去痰剤としても用いる。また魚料理の生臭さをとり、味を引き立てることから魚のハーブと言われる。

ウイキョウの歴史

地中海沿岸の原産とされ、古代エジプト（紀元前1552年医学書エーベルス・パピルスに記載あり）・古代ローマでも栽培されていた記録があり、歴史上もっとも古い作物のひとつとされる。マテリアメディカ（ディオスコリデスにより、1世紀後半に書かれた、最も完全な本草書と称賛されている、全5巻からなる『薬物誌』『ギリシア本草』）には、フェネルの葉、種子を食べると母乳の出がよくなる、腎臓病や膀胱の痛みには葉の煎じ汁を飲むとよい、へびに咬まれたときはワインと共に服用すればよい、通経剤になり、冷たい水とともに飲めば胸やけや吐気を和らげる、また茎の汁や葉は、かすみ目などの目薬となるので保存しておくとう便利である、などが記載されている。

その後、イギリスほかヨーロッパ各地へ広まる一方、インド、中国へと伝わり、世界各地に近縁種や変種が生まれた。

参考 Wikipedia、日本大学薬学部薬用植物園、
eyakusou.com、沖縄元気野菜、
多和田真淳：沖縄の薬草百科

栄養成分（ウイキョウ100g当たり） 2005年 財団法人日本食品分析センター分析試験結果

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	食物繊維	マグネシウム	カルシウム	カリウム
3kcal	2.4g	5.5g	0.8g	5.3g	32.1mg	326mg	579mg
ナトリウム	リン	鉄	亜鉛	ナイアシン	ビタミンC	ビタミンE	βカロテン
36.2mg	33.6mg	1.90mg	0.46mg	1.61mg	41mg	1.8mg	3890μg

小茴香(ショウウイキョウ)・大茴香(ダイウイキョウ)

日本薬局方では、茴香又は大茴香から得た精油をウイキョウ油としている。中国では茴香は小茴香とも呼ぶが、これと対比し大茴香がある。

大茴香は、中国南部、ベトナム北部、台湾に自生するシキミ科の植物で、その果実の特異的な形から八角茴香、八角、スターアニスとも呼ばれる。茴香と同様に芳香成分のアネトールを含有し、芳香性健胃、消化、駆風、去痰薬としても利用するが、大部分は香辛料として用いられている。

抗インフルエンザ薬タミフルは、大茴香に高含量含まれるシキミ酸を原料に、10回の化学反応を経て生産(ロシュ法)されたものである。

日本には同属のシキミがあり似た形の実をつけるが、こちらはアニサニンなどの有毒成分を含むので利用できない。

和名のダイウイキョウは大茴香の意味があり、果実の芳香がセリ科のウイキョウ(茴香)に似ている上、ウイキョウと比べて大きいことから名づけられた。またその形状から八角茴香ともいい、中華料理には欠かせない香辛料の一つでもある。英名をスターアニスというが、こちらは果実の形が星形を呈し、その芳香がセリ科のアニスに類似していることによる。薬用にはやや未熟な果実を用い、芳香性健胃薬、興奮薬とする。また蒸留して得られる精油は、ダイウイキョウ油といい香料として利用する。

茴香の薬理と成分

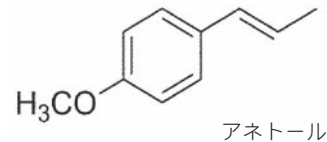
茴香やウイキョウ油には、胃腸機能調節、抗潰瘍、胆汁分泌促進作用が知られ、精油は性ホルモン様作用、気管支弛緩作用、気道液分泌亢進作用などが認められている。精油成分は50~60%のanetholeの他、methylchavicol (estragole)、limonene、p-anisaldehydeなどを含有する。果実は、生薬「茴香」で芳香健胃作用がある。漢方方剤の安中散、太田胃散(漢方+西洋薬の処方)、口中清涼剤の仁丹などに使われている。

茴香の芳香性成分アネトール

アネトールはウイキョウ特有の香りと、砂糖の1.3倍の強い甘味を持ち、鎮咳・去痰作用を有する。幅広い抗菌スペクトルを示し抗菌剤としても働く。弱い毒性を持ち大量に摂取すると有害な作用をもたらすこともある。ラットを用いた実験で、肝臓の再生能力を活

性化させ、高用量では鎮痙薬としても働くという報告がある。

アネトールは合成麻薬であるパラメトキシアンフェタミン(p-methoxyamphetamine, PMA)の前駆体である。PMAは「エクスタシー」(錠剤型麻薬の総称)として売られることがあり、しばしば死亡事故の原因となっている。



アネトール

参考 日本化学物質辞書、日本大学薬学部薬用植物園
公益社団法人日本薬学会、Wikipedia

薬物排出抑制・抗菌活性増強・抗癌活性増強

アネトールはABCトランスポーター: ATP-binding cassette transporters (ATPのエネルギーを用いて物質の輸送を行う膜輸送体の一群で、構造的に無関係な種々の物質を細胞外に排出するため、真菌やガン細胞の薬剤耐性獲得に大きく寄与している)の発現を抑制する。食用植物由来成分アネトールが、多剤耐性薬剤排出ポンプ遺伝子の発現を抑制し、抗真菌剤・抗細菌剤との相乗的増強効果を発揮することを確認した。薬剤排出ポンプに作用する薬剤耐性化抑制剤は、抗菌剤、抗真菌剤、抗がん剤などに応用でき、医療への大きな貢献が期待できる。

参考 大阪市立大学大学院理学研究科の藤田憲一 他

アニサキスの活動抑制・殺虫作用

サバ、タラ、イカなどの生ものを食べると、胃腸に激しい腹痛を起こすアニサキスという寄生虫がいる。アネトールがアニサキスの活動を減弱、殺虫するという報告がある。現在アニサキスに対処できる薬剤がなく、病院で内視鏡を使い、虫をつまみ出す方法しかない。

東京都立衛生研究所の実験で、安中散(散剤)の液を、寒天に乗せたアニサキス7匹ずつにかけた結果、アニサキスは3時間後に、すべて死んだり動けなくなるということが解った。

動物実験でアネトールで3時間処理したアニサキスは胃腸壁への侵入能力は無く、組織傷害を与えなかった。同様に、安中散3分包/30mLの抽出液に3時間浸漬したアニサキスは運動性を欠き0.6%の寒天内へ侵入することができず、当然胃腸壁侵入能力を失った。

参考 東京都健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科

Spot Light

佐久間 長昭 先生

八重山の医薬分業と
地区の活性のために…



さくま ながあき

昭和17年生まれ 石垣市出身 星薬科大学
沖縄県学校保健会長表彰（平成13年）
沖縄県薬剤師会会長表彰（平成18年）

石垣市ユーグレナモール（旧あやばにモール）にある佐久間薬局の佐久間長昭氏を訪ねた。昭和8年に長昭氏のお父様が石垣市石垣に佐久間薬局を開局し昭和20年に石垣市大川に移転、その2代目となる。

お父様の背をみて薬剤師を目指されたのかと伺うと、高校まで文系で、記者を目指していたとのこと。薬剤師になったのは他の兄弟が医師となったため、次男である氏に白羽の矢が立ったのだそうだ。

昭和44年に星薬科大学卒業後、東京に残り跡取り修行のため薬局に勤務する。薬剤師が3名、店員3名、出向社員4名で化粧品も扱う薬局では、毎日500名近くのお客さんがあり、てんてこ舞いだっただ。そんな修行を終え、昭和49年の暮れに帰郷。当時石垣市内で2軒店舗経営されており、うち1軒は薬種商のお母様が第2種の薬店を経営していた。「東京での忙しさから、石垣に帰郷して何もかもが小さく感じ、さみしい思いをした」と話された。現在はお母様の薬局は閉じ、32年前に立て替えた持ちビル1階で開局されている。



帰郷の翌年には、石垣市で薬剤師会として医薬分業をスタート、また先生個人では学校薬剤師としての活動を始められる等、新しいスタートの年となる。

帰郷して翌年の昭和50年には歯科限定ではあったが医薬分業が始まった。当時市内に5軒あった歯科医院の在庫薬品を買い取り、院外処方をスタートした。歯科からの処方箋は、抗生剤と鎮痛薬のみで、分業はスムーズに進んだそうだ。

その後、薬剤師会石垣支部長を務めた平成9年から八重山病院3科限定で医薬分業をスタートする。2期4年を支部長として務め、医薬分業が軌道に乗るのを見届けることになる。

歯科医院からの院外処方せん発行というベースがあり、また事前の病院との打ち合わせ、勉強会等の実施で分業はスムーズにすすみ、全科発行となる。

病院からFAXが届くと直ぐに患者さんは来局されるが、佐久間薬局の場所柄、処方箋を薬局へおき、買い物をしてから薬を受け取るという患者さんも多かった。そのため在庫不足の取り寄せでの問題もなかった。薬局には奥様も勤務され、不足薬品の取り寄せ、受け取りなどを担当されている。



八重山地区で開催された学校環境衛生講習会 後列左より3人目が佐久間氏
前列左より 浜元朝孝氏、吉田久子氏、喜納政利氏、太田節子氏、大浜貴子氏
後列左より 故新本一成氏、宮良良孝氏、佐久間長昭氏、故新嵩武三氏、宮良善久氏、故佐久川政紀氏

薬剤師として楽しい思い出は何ですかと伺ったところ、

「学校薬剤師をしていること」

と、同じ学校薬剤師の取材担当としては嬉しい返事。

「八重山の学校薬剤師は離島もあり大変だが、離島へも必ず2名ペアで行くようにしているため、年齢関係なく交流が深まる。薬局を経営していると旅行などなかなか行けるものではないが、学薬の研修会や大会の参加が旅行のようなもので、楽しい思い出が沢山ある。学薬には、もっと若い人が欲しいけどね」と話して下さった。現在、八重山地区では60余りの学校を5名の学校薬剤師が担当している状況であり、調剤が薬局の主な業務となった今、新人学校薬剤師の確保はどこの地域でも難しい。学薬不足の中で昭和50年から複数校を担当している長昭氏は、平成13年に学校保健会長表彰を受けられた。



奥様の富子さんと仲良く薬局を切り盛りしている

長昭氏の活動は薬剤師の範囲にとどまらず、商店街の活性化へも取り組まれている。その1つが商店街の名称権である。セルラースタジアムと同じ発想である。「ユーグレナ」は、みどり虫の学名で、その商品が石垣では生産販売されており、その企業が商店街の名称権を得、「ユーグレナモール」となったのである。ちょうど佐久間薬局の向かいにその店舗があった。

この地域活性化の活動も評価され平成11年に「医薬分業と地区の活性のために…」と八重山の産業まつりで商業部門の表彰を受けている。

八重山の現状として、

「薬学に進学する子供たちは多いが、なかなか石垣には戻ってこない。家業が薬局であれば戻ることもあるだろうが、なかなか難しい」と地区の薬剤師不足を危惧されている。



八重山地区で開催した当会定例理事会の後の懇親会では、薬局とは違う楽しい長昭氏の一面も拝見。夜の顔はまたいつか…

(聞き手：広報委員会 前濱 朋子)

Spot Light

大浜 貴子 先生

八重山美人が語る

「流れにのる自然な生き方、
頑張らない生き方」



おおはま たかこ
昭和21年生まれ 石垣市出身
京都薬科大学卒

南ぬ島（ばいぬしま）石垣空港に降り立った。4年前に石垣を訪れた時はまだ旧空港だったので、スタイリッシュに変貌した新石垣空港には驚いた。観光客、ビジネスマン、そして地元の人、、、空港には人々のいろんな顔があって、それと同じ数の人生があることを強烈に感じるどころだ。

さて今回は、八重山支部での理事会開催を機に「八重山美人のマドンナ薬剤師」にスポットを当てた。

なぜ「八重山美人」が存在するのか、乗り込んだタクシーの運転手さんが教えてくれた。「水が違うんですよ」。聞くとところによると於茂登岳から流れる水が軟水だという。沖縄で唯一の軟水地域で、石垣島はその軟水の恩恵を受けていること、八重山美人はその軟水がもたらしているのだということを懇々と語った。「オーリトリー」のホスピタリティーを感じながら、空港から約30分経って目的地に着く。「ユーグレナモール」の近くに「新川薬局」はあった。

新川薬局は大浜貴子氏が開設して40年。建築設計士であるご主人が造った自社ビルの1階で薬局を営んでいる。保険調剤を中心にOTCや化粧品の販売にも力を入れている。

また、学校薬剤師として精力的に活動している。現在、八重山支部の学校薬剤師はわずか5名。離島を含めた58校を5名で回っているという厳しい状況だ。学校の教諭は異動があるが、

学校薬剤師は殆ど変わらないので教諭よりも学校内部事情に精通しているのだという。

学校薬剤師の魅力とは何だろうか。大浜氏は言う。「環境衛生という視点と立場で地域貢献している。薬剤師のステージは薬局だけじゃない。薬局とちがう環境で仕事をする→地域を知る→それが地域貢献の原点。」そういいながら重量感のある黒い木箱を持ってきた。昭和の香り漂う、骨董品と見紛うような木箱の中には、学校薬剤師の検査セットがぎっしり詰まっていた。今でも学校薬剤師としてその木箱を持ち歩いているようだ。「薬剤師は知力だけではだめ。腕力（力仕事）も必要」だと声高に言う。



八重山地区学校薬剤師会 食事会 左席側中央が大浜氏
左席前より 山城専氏、大浜貴子氏、宮良善久氏
右席前より 佐久間長昭氏、宮良善孝氏、新嵩武三氏



さて、大浜貴子氏の魅力に迫ってみよう。薬剤師というより美容界や芸能界が似合いそうな人だ。筆者の第一印象は「石垣島のマドンナ」だ。ちょっと近寄りがたい感じがしたが、実はフレンドリーで話題の抽斗が多い方だった。華やかさの中に厳しさと優しさを併せ持ち、包容力のある女性だ。趣味や嗜好を聞くと、お酒が好きだという。日本酒なら宮城県産の「うらかすみ」、ウィスキーはスコッチがお気に入りだ。また、料理好きでもあり、特にお酒に合う料理を作るのが楽しみのひとつ。ワインなら手軽なところでカルパッチョ、日本酒ならやはり海鮮鍋、云々。(レシピ本ができるのではないかと筆者は淡い期待をしている)読書も好きで、吉村昭や沢木耕太郎の作品を好む。筆者が知る限り、本や酒を好む人は旅好きが多い。例に漏れず大浜氏も旅行が好きで、特に学生時代に過ごした京都にはよく足を運び、美味しい料理とお酒を堪能しているようだ。

八重山支部の医薬分業は歯科の院外処方箋発行から始まった。当時は毎日の薬局運営に加え、分業推進、保険調剤、勉強会、学校薬剤師の仕事、それに慣れないワープロやパソコンと格闘しなければならなかった。「あんなに頑張れたのは、八重山地区の仲間と一緒にだったから」と感慨深く語った。

「今まで十分頑張ってきたので、これからは頑張らない生き方をしたい。流れに乗って自然体で生きたい」という。そこには流されるのではなく大いなる意志の流れにのりたいという意味が含まれている。同感だ。



調剤薬局やえやま懇親会にて受賞を祝われる
中央が大浜氏



調剤薬局やえやま10周年記念パーティー(平成19年12月)
前列左端が大浜氏

「これからは後世の育成という大義名分のもと、『仕事を押し付ける作戦』に励みたい」とお茶目な言い回しをする。

なぜ、あんなに頑張れたのだろうか。多くの先生方を取材してきてわかったことだが、共通して言えるのは「薬剤師としての誇り」と「地元愛」だ。「石垣市はコンパクトな街だから動きやすい。ちょっと歩けばショッピングもできるし、公共機関も海にもすぐに行ける。人の風通しもいい」という。石垣の魅力語る大浜氏には、地に足をつけた力強さがあった。「出逢いが人生を彩る」と大浜氏はよく言う。出逢いとは「人」だけではない。「こと」や「もの」との出会いもある。旅、本、料理、お酒との出会い。大浜氏はオンとオフをうまく使い分け、これからも充電と放電を繰り返していくのだろう。それが大きな流れにのった自然な生き方なのかもしれない。

(聞き手：広報担当理事 宮城 敦子)

主な略歴

- 沖縄県薬剤師会代議員 (4年)
- 沖縄県学校薬剤師部会八重山支部長 (10年)
- 沖縄県薬剤師会会長表彰 (平成19年)
- 沖縄県学校保健会表彰 (平成20年)
- 沖縄県薬事功労者知事表彰 (平成22年)
- 日本薬剤師会学校薬剤師賞 (平成26年)



「妹」の話し



琉球大学医学部附属病院
古波蔵 直子

私には妹がいる。とても可愛がっており、職場でも話の話題にもよく出してしまう。初めて妹の話をした人には「そんなに可愛がっているってことは年が離れているの?」「小さい子なの?」と聞かれることが多いが、3つしか離れていない。

私は友達から「直子の持っている優しさのほとんど全てを妹に注いでいる」と言われるくらい妹に甘い。妹には怒らないし、幼い頃も親に怒られている妹をかばって、なぜか私が怒られたりもした。今回はそんな私が溺愛する妹について紹介しようと思う。

私は2人姉妹である。妹のことは「あい」と呼んでいる。妹は私のことを「なお」と呼ぶ。あまり「お姉ちゃん」とは言ってくれないので、私は家で自分のことを自分で「お姉ちゃん」と言うことで姉としての威厳を保っている(笑)

妹は、今では、ほとんど病気をせず、元気すぎて困るくらいだが、小さいころは喘息持ちでとても体が弱かった。梅雨の時期は特に体調が悪くほとんど保育園にも行けなかった。我が家は両親が共働きであった為、妹は祖父母の家によく預けられていた。

小さい頃、少し言い合いをして妹を泣かしてしまうと、すごく苦しそうにぜえぜえとするので、何だか弱いものいじめをしたような、すごく悪い事をしたような気持ちになってしまい、いつも強く言えなかった。大人になったのでお互い言い合いになることはないが、私がいまだに妹に甘い原因はそのせいではないかと思っている。

言い合いになっても結局次の日には仲直りしていることが多く、だいたい口の達者な妹に言いくるめられて私が謝ることが多いので、ほとんどケンカをした記憶もないが、妹が私にすごく謝ったケンカを1つだけ覚えている。

それは私が小学5年生の頃。妹は2年生。当時、私は母からもらったお小遣いを貯金していた。何を買う訳ではないけど、いつか何か好きなものを買うために使おうと思って貯めていた。しかし、ある日、自宅に帰ると

お小遣いがほとんど無い!!後から帰ってきた妹は、すごくばつの悪そうな顔をしていた。問い詰めるとモーニング娘のトレーディングカード(メンバーの写真付きのカードで、友達同士交換したり、好きなメンバーのカードを集めたりしていた)を買うのに使ったという。私達が小学生の頃、モーニング娘はすごく流行っていて、カードも入荷するとすぐ売り切れていた。妹はどうしてもカードが欲しくて、お姉ちゃんからお金を借りよう!と思ったらしい。すごくショックだった。貯金が無くなったことより、妹がお金を盗ったということがすごくショックだった。私は「あいは泥棒だ!おねえちゃん泥棒のお姉ちゃんは嫌だから、おうちを出ていく」と怒り、今考えてもよく分からないのだが、なぜか、家出をしようとした。

すると妹が「お姉ちゃん、ごめんなさい。お姉ちゃん行かないで。いつか必ず返すから。もうしません。仲直りしよう?ごめんなさい。」と言って何かの賞でもらったらしいすごく大事にとっていた少しぼろぼろの図書カードを泣きながら私に2枚くれた。妹は2000円くらい使ったので、2枚の図書カードでは全然足りなかったのだけど。

その後、妹は母にこっぴどく怒られて、おしりペンペンとお外に出される刑に処された。そしてお金はあれから15年くらい経つが一向に返ってくる気配はない。妹にこの時の話をしたら「なおが出ていくって今考えたら間違ってるんだけど、なおが本気で出ていくからかなり焦ったのは覚えている」と言っていた。妹が私のことをとても好きだということがお分かり頂けたでしょうか。

そんな妹も中学校を卒業し、3つ違いの私は高校を卒業し、薬学を学ぶ為に沖縄から進学先の金沢へ出ていく事になった。もちろん自分で選んだ道ではあるが、たった1人で友



達も家族も誰もいない、沖縄とは真逆のとても寒い土地にうまく馴染めず、ホームシックになった。沖縄に帰りたいと、毎日、寮の部屋で泣いていた。そんな時に母から荷物が届いた。中には妹からの手紙も入っていた。妹が義務教育を終える節目に家族にお手紙を書こうという授業があったらしく、妹の高校入学の日に自宅に届くようになっていた。親だけではなく私にも届いていたので荷物と一緒にに入れてくれたらしい。中には部活のことや、中学校での生活のことなどいろいろな事が書いてあった。そして手紙の終わりに、「あいも高校生になります。お姉ちゃんと同じ高校です。お姉ちゃん、いつも優しくしてくれてありがとう。いつも勝手に洋服を借りてごめんなさい、いつも勝手に靴を借りてごめんなさい。いつもいつもありがとう。お姉ちゃんは優しいから、あいはいつも甘えてばかりですね。お姉ちゃんがおうちからいなくなるのはすごくさみしいけど、お姉ちゃんは勉強を頑張りに内地に1人で行くから、あいも少

し嫌なことがあっても頑張ります。お姉ちゃんが薬剤師になって沖縄に帰ってくるの待ってるよ。早く帰ってきてね。」と書いてあった。

勉強が本当に嫌になったり、友達とうまく行かなくて悩んだり、今思えば学生だからこそその悩みなのだが、そんな時、妹にはたくさん助けてもらった。親や祖父母にももちろん感謝はしきれない程しているが、私は「気の合う何でも話せる優しい妹」がいて良かったと思う。

そんな妹が今年、結婚する。

と、文章を締められたらとても素敵な随筆になったと思うのだが、残念ながら特にそんな予定はない。

妹は今、東京で働いている。「甘えん坊な自分を変える！」と言って去年実家から出た。そんな甘えん坊の妹が自分も寂しいと思いながらも、学生の私をたくさん応援してくれたように私も妹を応援できているかというと、あまりできてない気がする。反省の意味も込めて今回、随筆に書いてみました。あい、頑張れ！！

次号には、吉富弓江 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

会 報 原 稿 募 集 の ご 案 内

広 報 委 員 会

としとし
お寄せ
下さい！

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。

☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 2 1 8 - 1 0
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

薬連だより

平成26年度日薬連盟九州ブロック協議会

日時：平成27年2月7日（土）15:30～18:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

沖縄県薬剤師連盟
副幹事長 姫野 耕一



平成26年度日薬九州ブロック会議終了後に引き続き、平成26年度日薬連盟九州ブロック協議会が開催された。出席者は、合計55名で、日本薬剤師連盟、藤井基之参議院議員事務所、九州山口各県薬剤師連盟からの出席があり、内沖縄県からは12名が出席した。

開会のあいさつとして沖縄県薬剤師連盟神村会長より、沖縄県での開催にあたり、有意義な協議会の開催と歓待の辞が述べられた。日本薬剤師連盟山本会長からは、日本薬剤師連盟の活動のひとつである、政治力の必要性について、「現場でよい考えを持っていても、制度、仕組、法律等、具体化するには、立法が必要で、政治の力は欠かせない」という主旨の言葉があった。

今年度の大きな目標である「組織の強化について」協議が行われた。具体的には、「学生への対応」、日薬連盟だよりの「POWER」の配布方法について協議が行われた。「学生への対応」は、直接に薬科大学に出向き活動することが挙げだったが、大学側が組織的な活動を好まない可能性がある為、同窓会等での活動を考えているとの事だった。「POWER」の配布の方法については、基本は、組織強化のために班単位の配布だったが、忙しい等の理由で県薬連盟が配布している状況との説明があった。組織の繋がりを考えた場合、可能な限り、少人数単位の組織で配布することが望ましいと思われる。



薬剤師連盟活動と直近政治課題などについて説明する岩本研氏

平松和好氏
藤井基之参議院議員
政策秘書

日本薬剤師連盟席側
小野春夫氏、荻野構一氏、山本信夫氏、安東哲也氏、藤野哲朗氏

濱良一氏
福岡県薬連盟
幹事長



福岡県薬連盟

山口県薬連盟

佐賀県薬連盟

長崎県薬連盟

また、全国規模で実施している若手薬剤師フォーラムや会議について、フォーラム等への参加者は、票を確保できるが、それ以外の興味を示さない薬剤師に対して、如何に関心を持ってもらうかが課題である。人と人との繋がりや個別訪問等に対応するしかない、地道な活動の大切さをあらためて確認した。その他に選挙活動における細かな注意点等の確認もあった。

最後に、次回の参議院議員選挙は、厳しい選挙になると予想される。薬剤師の身内からしっかり票を確保し、各関係団体に協力を仰ぎつつも、薬剤師会の力を示すことができるよう頑張っていこうと決意を固め、閉会となった。

<式次第>

司会：九州ブロック総務 藤野 哲朗

1. 開会挨拶

沖縄県薬剤師連盟会長 神村 武之

2. 挨拶

日本薬剤師連盟会長 山本 信夫

3. 出席者紹介

4. 議題

(1)日本薬剤師連盟の活動と直近政治課題

(2)組織強化について

(3)藤井もとゆき氏の後援会活動について

(4)その他

5. 協議・情報交換

(1)組織強化について

(2)藤井もとゆき氏の後援会活動について

(3)その他

6. 閉会



長崎県薬連盟

熊本県薬連盟

大分県薬連盟

宮崎県薬連盟



鹿児島県薬連盟

沖縄県薬連盟

＜日薬九州ブロック会議出席者＞

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| ○山本 信夫（日本薬剤師連盟会長） | ○岩本 研（日本薬剤師連盟副会長兼幹事長） |
| ○荻野 構一（日本薬剤師連盟副会長） | ○安東 哲也（日本薬剤師連盟副幹事長・大分県薬連盟会長） |
| ○小野 春夫（日本薬剤師連盟常任総務・政令指定都市連盟会長） | |
| ○藤野 哲朗（日本薬剤師連盟九州ブロック総務・福岡県薬連盟会長） | |
| ○川上 雅久（日本薬剤師連盟事務局長） | ○高木 雅史（日本薬剤師連盟事務局） |
| ○濱 良一（福岡県薬連盟幹事長） | ○平松 和好（藤井基之参議院議員政策秘書） |
| ○三浦 公則（福岡県薬連盟副会長） | ○井上 章治（福岡県薬連盟副会長） |
| ○原口 亨（福岡県薬連盟副幹事長） | ○福井 豊登（福岡県薬連盟総務） |
| ○小田 真稔（福岡県薬連盟） | ○田尻 泰典（福岡県薬連盟） |
| ○吉富 直助（佐賀県薬連盟会長） | ○青木真由美（福岡県薬連盟事務局） |
| ○曲渕 直喜（佐賀県薬連盟副会長） | ○本田 茂樹（佐賀県薬連盟幹事長） |
| ○福島あさ子（佐賀県薬連盟連盟組織強化担当役員） | |
| ○宮崎長一郎（長崎県薬連盟会長） | ○江頭 敏明（佐賀県薬連盟事務局長） |
| ○田代 浩幸（長崎県薬連盟副会長） | ○蒲池 芳明（長崎県薬連盟副会長） |
| ○井手 陽一（長崎県薬連盟総務） | ○江口 高（長崎県薬連盟事務担当） |
| ○廣田 誠介（熊本県薬連盟会長） | ○江上 祥一（熊本県薬連盟副会長兼幹事長） |
| ○神田 晴生（熊本県薬連盟副会長兼会計責任者） | ○村瀬 元治（熊本県薬連盟副会長） |
| ○副 千秋（大分県薬連盟副会長） | ○村上 健太（熊本県薬連盟事務局） |
| ○田代 和久（宮崎県薬連盟会長） | ○森 一生（大分県薬連盟幹事長） |
| ○日高華代子（宮崎県薬連盟副会長） | ○小山 明俊（宮崎県薬連盟幹事長） |
| ○内野 悟（鹿児島県薬連盟会長） | ○一原 慎吾（宮崎県薬連盟事務局） |
| ○上野 泰弘（鹿児島県薬連盟副会長兼幹事長） | ○吉水 久純（鹿児島県薬連盟会計） |
| ○西島 徹（鹿児島県薬連盟） | ○沼上 正樹（鹿児島県薬連盟事務局長） |
| ○神村 武之（沖縄県薬連盟会長） | ○吉田 久子（沖縄県薬連盟幹事長） |
| ○城間 盛光（沖縄県薬連盟副幹事長） | ○江夏 京子（沖縄県薬連盟副幹事長） |
| ○姫野 耕一（沖縄県薬連盟副幹事長） | ○田場 英治（沖縄県薬連盟常任総務） |
| ○山里 勇（沖縄県薬連盟総務） | ○吉田 洋史（沖縄県薬連盟総務） |
| ○亀谷 浩昌（沖縄県薬連盟） | ○前濱 朋子（沖縄県薬連盟） |
| ○山城 英人（沖縄県薬連盟事務局） | ○稲福 文隆（沖縄県薬連盟事務局） |

敬称略

薬連だより

国会レポート

医療保険制度改革と医療法人制度の見直しについて



文部科学副大臣・参議院議員 藤井 基之

朝晩の冷え込みも緩み、街では振り袖に袴姿で卒業式に向かう女子学生の姿も目を引きまします。今年度の薬剤師国家試験は2月28日、3月1日の2日間、全国9都道府県12箇所試験会場で実施されました。合格者の発表は3月27日になります。昨年度の合格率は60%台と残念な結果になりましたが、今回はどうでしょうか。薬学6年制教育を受けた多くの薬剤師が病院・薬局の第一線で活躍するのを願っています。

第189回通常国会は2月12日、安倍首相が施政方針演説を行い「経済再生、復興、社会保障改革、経済再生、地方創生、女性活躍、そして外交・安全保障の立て直し。いずれも困難な道のり、戦後の大改革であり、ひるむこと無く改革を進めなければならない。」と改革へ取り組む強い決意を表明しました。引き続いて本会議での各党代表質問、予算委員会審議と激しい論戦が繰り広げられています。昨年末の解散・総選挙の影響で国会日程は厳しい状況ですが、来年度予算の年度内成立に向けて全力を挙げて取り組みたいと思います。

さて、今国会には「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険等の一部を改正する法律案」の提出が予定されています。

本法律案では、持続可能な医療保険制度を構築するため、国保への財政支援を拡充して財政基盤を強化し、平成30年度より都道府県が市町村に代わって財政運営の責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業運営

の確保など、制度の安定化を図る。被用者保険者の後期高齢者支援金について、総報酬割部分を段階的に引上げ、平成29年度から全面総報酬割とする。負担の公平化を図るため、入院時の食事代に調理費が含まれるよう段階的に引き上げる。また紹介状無しで大病院を受診する場合の定額負担を導入する。その他、患者の申出を起点とする、患者申出療養の新たな保険外併用の仕組みを創設する。ことなどが主な改正内容となっています。

また、「日本再興戦略」改定2014に示された、複数の医療法人、社会福祉法人等を統括し、一体的な運営を可能とする法人制度「地域医療連携推進法人制度（仮称）」を創設すること、及び医療法人への会計基準の適用と外部監査の義務づけによる経営の透明性確保とガバナンスの強化、医療法人の分割を可能とすることなど、医療法人制度の見直しも検討されています。

超高齢化社会に対応した、給付と負担のバランスのとれた持続可能な医療保険制度の構築と地域医療体制の整備を目指して、全力で取り組みたいと思います。

なお、昨年出版した「危険ドラッグとの戦い」（薬事日報社）は、公益社団法人 日本図書館協会の選定図書に決定し、全国各地の図書館に選書の参考とするよう周知されました。本書が数多くの図書館の蔵書となり、多くの人の目に留まることにより、危険ドラッグの撲滅、ドラッグフリー社会の実現に一步でも近づくものと期待しています。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

薬連だより

国会レポート 「医薬分業」公開ディスカッション



文部科学副大臣・参議院議員 藤井 基之

新年度を迎え、新社会人として新入生として夢と希望を抱き新たなスタートを切られた方も多いのではと思います。第100回薬剤師国家試験の合格者も3月27日に発表されました。合格率は全体で63.17%、6年制の新卒者に限れば72.65%と、いずれも前年をやや上回る結果となりました。合格率の是非はともかくとして、9千人を超える新しい薬剤師が誕生しました。これから医療の場で大いに活躍してくれるものと期待しています。

さて、政府の規制改革会議は3月12日、医薬分業における規制の見直しをテーマに公開ディスカッションを開催しました。会議の様子はインターネットを通じて広く一般にWeb配信され、一般傍聴者にも発言の機会を与えるという画期的な取り組みでした。平日の午後ではありましたが、多くの薬剤師の皆さんは非常な関心を持って視聴されたのではと推察しています。

冒頭、内閣府の会議事務局より、医療機関と薬局の構造的独立性の問題、及びコストとメリットの問題に焦点をあて、国民にとってよりメリットのある医薬分業を実現するには如何するかとの課題提起をしてスタートしました。

最初に意見陳述に立った厚生労働省は、いわゆる門前薬局の乱立、調剤に偏重している薬局業務の現状などを課題に上げて、高齢化社会の中で「かかりつけ薬局」を整備することの必要性を強調しました。続いて、日本医師会、健康保険組合連合会及び日本薬剤師会の関係団体並びに有識者からの意見表明を受

けて議論が進められました。委員からは、医薬分業そのものの必要性を否定するような意見は聞かれなかったと考えていますが、分業の必要性やメリットについて、国民の理解や納得が十分でないとする指摘は真摯に受けとめなければならないと思います。厚生労働省が「医薬分業は道半ば」としているように、薬局・薬剤師への期待の表れへの裏返しとも言えます。医薬分業への国民の理解を深めるため「かかりつけ薬局」の定着に向けて、薬剤師をはじめとする関係者が改めて問い直す良い機会になったのではないのでしょうか。

一方、薬局と医療機関の構造上の独立性には、経営上の独立性さえ担保されれば、患者の利便性を考慮すると必ずしも求めなくて良いとする意見が多く聞かれ理解は得るには至りませんでした。病院内にあるコンビニエンスストアや鉄道の相互乗り入れ等を例に上げて議論されていることには違和感を覚えざるを得ませんでした。規制改革会議は今年6月に答申をするとしていますが、医薬分業の意義を十分に理解したうえで、その見解が示されるよう努めていきたいと思います。

規制改革会議での医薬分業問題に関わる議論をきっかけに、自民党の日本経済再生本部規制改革推進委員会でも医薬分業の勉強会が行われています。また4月1日、2日に開かれた参議院予算委員会でも医薬分業問題が取り上げられました。こうした国民的な議論の盛り上がりは医薬分業推進の後押しになるものと確信しています。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

平成26年度 第9回定例理事会 議事概要

日時：平成26年12月13日（土）19:00～21:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之
副 会 長：松山朝雄、吉田洋史
理 事：田場英治、江夏京子、亀谷浩昌、山里勇、前濱朋子、宮城敦子、
下地仁、幸地良信、村田美智子、外間惟夫、我喜屋美香、笠原大吾、石川恵市
欠 席：玉城純、姫野耕一、新垣秀幸、川上善久
事 務 局：松堂恵美

議題

(1) 会長候補者及び監事選挙について

<資料配布>

吉田副会長より、説明及び提案された。

会長候補者及び監事選挙規則より、会長はその候補者選挙を行う場合、選挙日の60日前までに届出受付期間等選挙に関し必要な事項を会の事務局に掲示及び会報等への掲載により会員への周知を図らなければならない。また選挙規則より、会長候補者の被選挙資格は、選挙日の90日前までに県薬への入会手続きを正式に完了している正会員となっている。その為、先の理事会にて選挙日が3月29日（第71回県薬臨時総会開催日）に決まったことから、今回の理事会で承認を受け、12月16日を公示としてFAX一斉同報を行いたいと提案され、承認された。

(2) 一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙及び予備代議員の選出について

<資料配布>

吉田副会長より、次のとおり説明及び提案された。

現代議員の任期が平成27年3月末日までのため、代議員選挙を行う必要がある。その告示については代議員選挙規程より、選挙日の60日前までに行わなければならない。また、代議員定数は選挙日90日前の各支部所属正会員数により決定される。2月後半から3月14日（3月理事会開催日）の間に開票しその後の理事会にて承認を受けるという段取りを予定している。その為には平成26年12月16日受付開始、翌年2月21日締切とすることで、承認された。

(3) 抗インフルエンザウイルス薬・衛生資器材の流通及び在庫状況を把握する

体制整備業務について<資料配布>

田場専務理事より、次のとおり説明及び提案された。

沖縄県健康長寿課より、沖縄県薬剤師会で県内大手の卸業者の抗インフルエンザウイルス薬、衛生資器材の流通状況及び在庫状況を調べ報告する業務委託依頼があった。「沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき、パンデミック発生時に県の備蓄薬を放出するタイミングを図るために流通及び在庫状況を把握することが目的である。体制整備にかかる予算として、専務理事の給料をベースとして作成し県に提出済。これから各卸業者と打合せしていく。県薬は指定地方公共機関であり、この業務委託を受ける必要がある。異議無く承認された。

(4) 平成26年度パート職員冬季賞与について

<資料配布>

事務局より、次のとおり説明及び提案された。

パート職員賞与基準よりパート職員に対しては原則として賞与支給を行わないが、本会の業

績・経済情報を考慮して、本会が決定した額を支給することができる。今年の業績も昨年同様良好であることから支給することの提案があり、承認された。

(5) 平成26年度合同祝賀会チケット割り当てについて

＜資料配布＞

神村会長より、次のとおり報告された。

各団体へのチケット割当て枚数については、薬業連合会にて最終的に決定されている。各団体とも、受賞者がいる場合には基本より少し枚数を増やしており、今回は、すべて当会の受賞者であるため、当会への割当て枚数が増え、合計130枚となっている。また会場について、例年どおり沖縄都ホテルをおさえているが、例年使用している地階ではなく2階の大きな会場を使用できないか調整中。薬業連合会では、来年以降の会場についてはあらためて検討していく予定とのことである。

※この議題については薬業連合会ですでに承認されているため、報告事項となった。

(6) 1月理事会の開催日（案；第3土曜日＝1月17日）について

田場専務理事より、次のとおり提案された。

1月理事会の開催日について、定例の第2土曜日は会長が公務で欠席となる為、第3土曜日の1月17日に開催することで、承認された。

(7) その他

今回理事会開催前、ネットライフによる団体保険の説明会が開催された。それを受け、吉田副会長より、議題として次のとおり説明された。

ネットライフの団体保険は他社と比較し保障内容は同じくらいだが、保険料は半額以下と安い。T-PEC社による健康相談が充実しているところが売りである。しかし、最低100名の加入者が必要である。当会会員から100名を集めるというのは大変だと思われる。県薬は案内程度で、実際の勧誘は保険会社の方で行うとのことである。また納入保険料の1割を事務手数料として県薬に還付することにはなっているが、保険料自体が安価なため、事務作業に見合った収入にはならないことが懸念される。

他理事より、次のとおり意見があった。

勧誘活動は行わなくても薬剤師会の名を出す以上は責任が伴うこと。

保険料の徴収（会費と同時に引き落とし）を薬剤師会が担うとのことと事務局の業務量が増える。

神村会長より、次のとおり述べられた。

これまでも同様な話は多々あった。このような件は慎重にならないといけない。

議論の結果、今回は見送ることとした。

村田理事より、次のとおり要望された。

女性薬剤師部会の来年度活動費について増額の要望をしたい。理由として、女性薬で毎年開催している漢方講座について、開始当初はクラシエ、その後ツムラがスポンサーになっていたが、平成27年3月をもってスポンサー契約が終了となるため、講座継続のための活動費が必要となるためである。講師はメーカーが入るのを好まず手弁当でも協力したいと言っているが、そういうわけにもいかない。年二回の講座を今後も続けていくために、講師料5万円と宿泊費のために、部会活動費として10万円増額を要望したい。

他理事からの意見として、会費制にする。年2回の開催から1回へ回数を減らす。講師を変更する等、意見が出されたが、県薬の予備費を確認し次回検討することとなった。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（11月分）及び病院別院外処方せん発行枚数 <資料配布>

- (2) 日薬 国際委員会 11月10日（月）日薬

宮城常務理事より、次のとおり報告された。

委員会では委員長及び副委員長の選出、英語版の日薬活動報告誌「Annual Report of JPA（日本薬剤師会の現況）」の校正を行った。10部程度注文しているので、完成後は県薬D I室に預け、ぜひ皆さんに見て頂きたい。また、委員会の翌日には日本薬剤師会の山本信夫会長のF I P（国際薬剤師・薬学連合）副会長就任祝賀会が開催され、約200名参加のもと大いに盛り上がった。

- (3) 会報取材 12月4日（木）名護薬局・12月10日（水）なかむら薬局

- (4) 平成26年度第4回広報委員会 12月8日（月）県薬<資料配布>

宮城常務理事より、次のとおり報告された。

県薬会報11、12月号は北部特集で、今回なかむら薬局、名護薬局を取材、そのほかりレー随筆や巻頭言等北部地区の会員に多く執筆してもらった。

- (5) 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」についての説明会 11月12日（水）県薬

- (6) 薬局薬剤師のための健康情報拠点事業会議 11月19日（水）県薬

笠原理事より、次のとおり進捗状況について報告された。

事業内容としては、健康サポート事業（薬局に血圧計、体脂肪計を設置し、来局者に測ってもらいその値によっては受診勧奨等をする）と、おくすりバッグ事業（残薬を専用の袋に入れ薬局に持参してもらい、薬剤師が整理してからお返しする）である。前者については北部から宮古、八重山まで参加希望の薬局があり、県内万遍なく参加して頂けることになった。11月12日の説明会では30薬局が集まった。また宮古及び久米島でも説明会を予定している。一般県民への周知方法については、現在ポスターとチラシを作成中で、県薬ホームページにも掲載する予定である。3月上旬にデータを集計し、3月末には報告する。また、12月21日には今回の事業への参加薬局を対象とした講習会を企画している。

- (7) 平成26年度ドーピング防止ホットライン担当者会議 <資料配布>

11月28日（金）TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

笠原理事より、次のとおり報告された。

会議では「Global DRO」（使用薬に禁止物質が含まれているか検索できるサイト。日本を含む数か国で運営されている）について話があった。これは個人が薬の名前で検索できるサイトである。ドーピングとは最終的には薬の使用、不使用を本人が決めなければならない。我々スポーツファーマシストはあくまでもサポート役である。これまでスポーツファーマシストのアドバイスにより、薬を服用し、もしメダルをはく奪されるようなことがあった場合責任問題になるため、そのような事態にそなえた保険に加入できるか、という問題が出ていた。しかし今回の会議では、最終的に決めるのは本人であり、その旨を必ず伝えたいのでサポートしてください、とのことであった。

他理事より、次のとおり質問された。

Global DROの日本版ができたのかとの質問があり、笠原理事より、次のとおり回答された。

以前から存在するが、使用しづらいとの意見があり、見直す予定。

(8) 薬局薬剤師のための健康情報拠点事業会議

12月4日(木) 県薬

(5)(6)と関連事項。

(9) なごみ会実行委員会

12月10日(水) 沖縄県医師会<資料配布>

笠原理事より、次のとおり報告された。

保健福祉委員会の上原幸代先生が出席した。県民健康フェアについて、薬剤師会としては沖縄コンベンションセンター以外の会場利用(県立武道館等)について提案していたが、経費や使用条件等を検討した結果、やはり次回も沖縄コンベンションセンターを利用することになった。日程については旧盆を避け8月9日(日)に決定。医師会より内容のマンネリ化が指摘され、せっかく夏休み期間の開催であるから大人だけでなく子供を対象にした自由研究に役立つようなものを行ったかどうか、との提案があり、各ブースでそれを盛り込んだ内容で実施することになったとのことである。

(10) 平成26年度第2回地域医療支援病院運営委員会

11月13日(木) 豊見城中央病院

神村会長より、次のとおり報告された。

豊見城中央病院の移転計画について、まだ設計図もできておらず、各部署の要望をもとに調整中である。工期が遅れるのではないかとのことであった。

(11) 第76回九州山口薬学大会事前協議会

11月22日(土) 長崎県<資料配布>

神村会長より、次のとおり報告された。

大会運営委員会では、DI運営委員会や試験検査センター運営協議会を九山大会時に開催する必要があるのか、との意見があった。個人的には沖縄県から九山会議には簡単に行けるわけではないため、これまで通り続けて欲しいと思うが、他県の考えはそうでもないようであった。

我喜屋理事より、次のとおり報告された。

九州山口地区調整機構会議は年3回の開催において九山大会時は機構から経費(交通費)を出さずに済んでいるが、来年は九山がないので開催をどうするかとの話があったと報告された。

田場専務理事より次のとおり報告された。

薬剤師会事務局長連絡協議会について、事前に各県薬に対してアンケートが実施され、長崎県各県における広報誌の編集及び発行体制等について協議した。

(12) 第76回九州山口薬学大会

11月23・24日(日・月) 長崎県

(13) 平成26年度沖縄県薬業連合会第2回代表者会議

12月9日(火) 沖縄都ホテル <資料配布>

(14) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

12月10日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(15) 寄付金の募集について

<資料配布>

神村会長より、次のとおり説明された。

神殿賽銭箱を設置する予定だが、そこで集まったお金については、会として例年行っている「ダメ。ゼッタイ。運動(薬物乱用防止運動)」や「交通遺児育成募金」への寄付に上乘せする形にしたい。また、他には薬学に関する資料等の購入資金に充てたいと考えており、今後もぜひ協力頂きたい。

(16) 平成26年度第3回沖縄県がん診療連携協議会

11月14日(金) 琉球大学医学部<資料配布>

吉田副会長より、会長代理で出席した旨報告された。

(17) 個別指導(2薬局)

11月27日(木) 那覇第一地方合同庁舎

- (18) **日薬災害対策委員会** 12月10日(水) T K P 信濃町ビジネスセンター <資料配布>
吉田副会長より、次のとおり報告された。

日薬役員が新体制になって初の会議であり、山本日薬会長も参加した。委員会では各都道府県のBCP（業務継続計画）の策定状況を知りたいということが大きな議題となっていた。策定された県がまだ少なく、策定された県を参考にして日薬版を作成したい。策定次第、日薬への提出がお願いされた。沖縄県においては、災害対策マニュアルを作成中であり、その完成後BCP策定作業に入ることになる。今回の会議で東京都薬版のものが良い資料としてあがっており、委員会でも参考にしようとの話があり、沖縄県でも参考にできたらと考えている。

- (19) **健康とおくすり相談会** 11月15日(土) うるま市健康福祉センターうるみん
江夏常務理事より、次のとおり報告された。

昨年より行政に働きかけ、地域全体の健康まつりで健康相談を行うことになった。会場はうるみん（健康福祉センター）で、朝9時から午後4時まで、土曜日の開催であり、開局している薬局もある中、昨年は16名、今年は11名の薬剤師が交代で相談を受けた。地域から73名の相談者があり好評であった。うるま市からも今後も続けて欲しいとの要望があった。

- (20) **高度管理医療機器継続研修会** 11月16日(日) 県薬

江夏常務理事より、次のとおり報告された。継続研修であり、今年で7回目。有効期間が6年の為、今回更新にあたる場所が多く、例年の参加者は100名程度だが、今年は150名であった。

- (21) **医薬分業対策委員会主催研修会** 11月30日(日) 県薬 <資料配布>

江夏常務理事より、次のとおり報告された。例年スモールグループディスカッション形式で開催している。通常は日薬で同様の研修会があり、そのテーマを受けて若手を対象に沖縄県でも開催しているのだが、今年は開催がなかったため、独自で「地域密着型の薬局を目指して」というテーマで2グループに分かれディスカッションを行った。議論の結果として、地域住民の健康維持のためには薬剤師の意識向上やもっと問題意識を持つべきであるとの意見が出された。また薬局も24時間対応できるようにしていかなければならないのではないか、という意見もあった。

県薬会報にも報告を載せているので、ぜひ読んで頂きたい。

- (22) **平成26年度高度管理医療機器等継続研修会（宮古）** 12月11日(木) シモジ薬局
吉田副会長より、次のとおり報告された。

研修会には12名の参加があった。八重山開催については日程が未定のため、年明け以降の開催を予定したい。

- (23) **自殺対策検討委員会** 11月18日(火) 県薬 <資料配布>
村田理事より、次のとおり報告された。

例年開催している「ゲートキーパースキルアップ研修会」を来年3月8日(日)に開催する。今回は講話のほか埼玉県薬剤師会作成のDVDも放映する予定である。内容は、①眠剤を過量服薬した患者へのアプローチ、②アルコール依存が疑われる患者の家族へのアプローチ等を、ロールプレイを通して編集されている。そのほか委員会では次年度の事業計画についても話し合った。計画としては、①行政が行う自殺予防対策事業への協力 ②会員を対象とした自殺予防につながる研修会の開催 ③気づき、つなぐための体制づくり ④学校薬剤師会と連携し、くすり教育に協力して命の大切さを伝える活動を展開。を挙げている。③については現在委員会で気づいたことを記載するフォーム（たたき台）を作成中である。④については昨年

なかなか実現できなかったため、引き続き取り組みたい。

(24) 女性薬剤師分科会(九山大会)

11月23日(日) 長崎県

村田理事より、次のとおり報告された。

九山大会での女性薬剤師協議会は、なくなりつつあり、最近では分科会として講演会を行っている。九州各県薬は一般社団法人または公益社団法人化の中、女性薬剤師会は部会ではなく委員会となったところが多い。沖縄県、佐賀県が部会としている。熊本県は薬剤師会とは別に女性薬剤師会を作っているとの事であった。

(25) 財務担当者 半期決算報告

11月19日(水) 県薬

(26) 保険薬局部会主催研修会

11月19日(水)・12月9日(火) 県薬

(27) 保険薬局部会 役員会

12月1日(月) 県薬

(28) 集团的個別指導

11月20日(木) 宮古合同庁舎

(29) 個別指導(1薬局)

11月20日(木) 宮古合同庁舎

(30) 新型インフルエンザ等対策としての市町村・指定地方公共機関における

業務継続計画(BCP)作成の研修会 11月26日(水) 自治会館<資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。

新型インフルエンザ等の発生に備えたBCP(業務継続計画)作成のための研修会であり、薬剤師会については日薬のものを参考に説明した。

(31) 企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインについて

<資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。

エーザイ株式会社より訪問があり、製薬企業の活動における医療機関等との関係の透過性・信頼性向上のため、医療機関および医療機関関係者等に対する研究費、寄付、交流等の支出に関係する情報を製薬企業が自社のウェブサイト等で公開することに伴い、同意書が必要になった旨説明を受けた。

(32) 薬局を活用した服薬支援事業実施について(薬局DOTS)

<資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。

薬局DOTSについて中部地区をモデル地区としてスタートするため、県の担当者とともに県立中部病院近隣の薬局に協力依頼のため訪問した。患者がその薬局での投薬を希望した場合は、薬局は保健所と委託契約をし、その服薬状況等をチェックし保健所に報告することとなる。

(33) 日薬 農林水産薬事薬剤師部会幹事会

11月14日(金) 日薬<資料配布>

我喜屋理事より、身内が委員として参加しているため、代理で報告された。

年2回農林水産省の事業報告も兼ねた研修会を全国的に開催している。各研修会参加者は約200名程度。今回の幹事会はその研修会の打合せであった。

(34) 平成26年度第1回薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議

<資料配布>

12月6日(土) 西鉄ソラリアホテル

(35)と関連事項。

(35) 平成26年度第2回薬学生実務実習受入委員会

12月10日(水) 県薬 <資料配布>

我喜屋理事より、次のとおり報告された。

今年度第2期の実務実習報告。県内にて1件、薬局事務職員のセクハラ言動があったとのことである。また第2回九州山口地区調整機構会議及び第1回九州山口地区薬剤師会調整機関運営委員会(九山大会時開催)では、ふるさと実習と九州8大学の実習調整に混乱が生じていたため、実習調整時期のタイミングを工夫することになった。平成29年度以降の薬学部入学者

の増加に対する実習施設数不足の懸念（沖縄県はそれほど大きな影響はない模様）も挙げられた。現在文科省より新コアカリキュラムのガイドラインが示され、その中でこれからの実習では大学・病院・薬局の連携が重視されている。病院と薬局の実習に連続性を持たせるため、実習を4期に分ける案が出ている。指導薬剤師の質の強化についても話があった。

(36) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

＜資料配布＞

我喜屋理事より、次のとおり報告された。

1 1月より薬剤師1名採用したため、現在正職員は5名の体制である。近隣の豊見城薬局に土、日祝日の開局を協力いただいていたが、来年1月からは日祝祭日について、とよみでも対応することとした。しかし、土曜日については豊見城薬局に継続して協力をお願いしている。また、薬剤師1名が、2月に1ヶ月間休職の意向を示している。

(37) Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会についての打合せ

11月26日(水) 県薬

(38)と関連事項。

(38) Uターン・Iターン就職希望薬学部生との相談会

＜資料配布＞

11月29日(土)・12月3日(水) 北陸大学・北海道医療大学

石川理事より、次のとおり報告された。

1 1月29日の北陸大学訪問は、青年部会より川満直紀氏、12月3日の北海道医療大学は石川理事が参加。各大学とも説明会は地元企業優先であるが、今回は「薬剤師会」のネームバリューでブースを出させて頂くことができた。学生へは薬剤師会は他の紹介会社と異なり、現地を知り内情を知った上での紹介となることや、単身で来沖する際に学生が最も不安視している生活環境の相談等にも応じること、青年部会では若手交流の場を設けて横のつながりを作りやすい、等を説明。また、薬学部側にはふるさと実習の実現を要望してきた。当会のブースは順番待ちがでる程好評であり、北海道医療大学からは次年度説明会への参加依頼を検討する旨の打診があった。こういった事業に参加することは青年部会としてだけでなく薬剤師会としても貢献できる活動であるので、ぜひ今後も継続していきたい。

(39) 会計監査

11月28日(金) 県薬

(40) 管理者会議

11月28日(金) 県薬

(41) 薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第3回）

11月30日(日) 慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス <資料配布>

(42) 個別指導

2月11・12日(木・金) 八重山合同庁舎

(43) 平成26年度「薬と健康の週間」反省会

12月11日(木) 県庁 <資料配布>

田場専務理事より、次のとおり報告された。

週間中に行われる街頭キャンペーンは効果があまり感じられないとのことで、昨年より検討課題とされており、今回からアンケートを開始している。次回の調整会議では次年度の県民公開講演会講師の選定を早速行っていく。推薦したい講師がいたら事務局まで連絡していただきたい。

(44) その他

<資料配布>

前濱常務理事より、女性薬剤師部会からの推薦で「女性の翼」に参加した旨報告された。

今回はシンガポールへの視察。現地の病院や学校等ではIT化が進んでおり、薬剤師・学校薬剤師として興味深かった。とても勉強になる事業なので、今後も薬剤師会から参加して欲しい。しかし自費参加である為、薬剤師会から少し補助が出せたら良いのではないかと思います。

報告（薬連）

<資料配布>

- | | |
|-------------------------|------------------------------------|
| (1) 橋本岳厚生労働大臣政務官との意見交換会 | 11月9日(日) なかいま弘多選対本部 |
| (2) 岸田外務大臣との意見交換会 | 11月10日(月) 与世田兼稔選対本部 |
| (3) 与世田兼稔総決起大会 | 11月11日(火) A N Aクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー |
| (4) 日本薬剤師連盟役員来訪 | 11月12日(水) 県薬 |
| (5) 衆議院議員 石田真敏氏来局 | 11月12日(水) 県薬 |
| (6) 衆議院議員 松本純氏来沖 | 11月13日(木) なかいま弘多選対本部 |
| (7) 衆議院議員 渡嘉敷奈緒美氏来沖 | 11月14日(金) 県内各所 |
| (8) なかいま弘多必勝打上式 | 11月15日(土) 松山公園～むつみ橋 |
| (9) 宮崎政久 事務所開き | 11月26日(水) 宮崎政久選対事務所 |
| (10) 比嘉奈津美 事務所開き | 11月26日(水) 比嘉奈津美選対事務所 |
| (11) 國場幸之助 関係団体との打ち合わせ | 11月27日(木) 國場幸之助選対事務所 |
| (12) 國場幸之助 事務所開き | 11月27日(木) 國場幸之助選対事務所 |
| (13) 薬連総務会 | 11月28日(金) 県薬 |
| (14) 全国薬剤師フォーラム2014 | 11月29・30日(土・日)クロスウェーブ船橋 |
| (15) 國場幸之助 総決起大会 | 12月9日(火) A N Aクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー |
| (16) その他 | |

お知らせ

研修認定薬剤師申請料について

日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師申請料等が、下記（二重枠：日本薬剤師研修センターホームページより）の通り改定になりました。平成26年4月1日以降に、日本薬剤師研修センター（東京）へ着の申請より適用になります。申請の際は、申請料の支払い金額に注意願います。

《消費税法の改正に伴う申請料等の改定について》

平成26年4月1日より消費税（地方消費税を含む）率が5%から8%に改定されたことに伴い、日本薬剤師研修センターへの申請料等について、法律の規定に従い改定されました。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。平成26年4月1日以降、当センターで受け付ける研修認定薬剤師申請料は、下記の通りとなります。

項 目	1 申請当たりの金額（税込）	本体価格	税
認定申請料（手数料：新規・更新）	10,286 円	9,524 円	762 円
認定申請料＋I D カード	11,726 円	10,857 円	869 円
認定証再交付	3,086 円	2,857 円	229 円
I D カード再交付	1,440 円	1,333 円	107 円
英文認定証	3,086 円	2,857 円	229 円

（参考：旧申請料）

1 申請当たりの 旧金額（税込）
10,000 円
11,400 円
3,000 円
1,400 円
3,000 円

平成26年2月

- 1日○平成26年度医療安全講習会 県薬ホール
- 2月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 3火○平成26年度第12回定例幹事会 県薬研修室
 - 平成26年度第3回在宅マニュアル作成検討会議 県薬会議室
- 4水○中頭病院より来訪 県薬会長室 神村会長
 - 南風原町長への固定資産税減免に関する要望書提出 南風原町役場 神村会長、山城課長
- 5木○第14回沖縄県健康教育研究大会 浦添市てだこホール
 - 個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長
 - 薬事情報センター運営委員会 県薬会議室
- 6金○平成26年度東日本大震災支援協力会議第1回総会 県庁 吉田副会長
- 7土○日本薬剤師会九州ブロック会議 県薬ホール
- 8日○BLS講習会 おきなわクリニカルシミュレーションセンター
- 9月○臨床薬剤師育成研修会（株）ダイコー沖縄
- 10火○沖縄県保健医療部薬務疾病対策課より来局 県薬会議室 田場専務理事、笠原理事、稲福係長
 - 社会保健診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 神村会長
 - 健康おきなわ21推進協議会 ホテルチュウ琉球 江夏常務理事
 - 学術講演会～透析と栄養～ ホテル日航那覇グランドキャッスル 共催：大塚製薬（株）
- 11水○日本薬剤師会生涯学習担当者全国会議 日本薬剤師会 亀谷常務理事
 - 在沖米国軍基地内新海軍病院視察 主催：青年部会
- 12木○公衆衛生・薬事衛生担当者全国会議 日本薬剤師会 前濱常務理事、村上市子氏（学校薬剤師部会）
 - 個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長
 - 宮古地区学術講演会 沖縄県立宮古病院
 - なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 笠原理事、稲福係長
- 13金○平成26年度 第4回 沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部管理棟 神村会長
 - 島尻あい子氏への訪問 島尻あい子後援会事務所 神村会長、山城課長
- 14土○平成26年度第11回定例理事会 石垣市民会館
- 15日○平成26年度高度管理医療機器等継続研修会(八重山) 石垣市民会館 講師：吉田副会長
 - JPALS研修会 県薬会議室 講師：亀谷常務理事
 - 平成26年度FAXコーナー担当者意見交換会 県薬研修室
- 16月○ジェネリック医薬品使用促進の先進事例ヒアリング調査についての事前打ち合わせ 神村会長、吉田副会長、江夏常務理事、仲真薬局長、山城課長
- 17火○平成26年度沖縄県献血推進協議会 県庁 前濱常務理事
 - 損保ジャパン日本興亜来訪 県薬会議室 亀谷常務理事、大城係長
- 18水○財務委員会 県薬会議室 仲程みちの税理士
 - 第6回沖縄動脈硬化予防研究会 ラグナガーデンホテル 共催：バイエル薬品（株）豊見城薬局との打ち合わせ 会営薬局とよみ 我喜屋理事、（会営薬局とよみ）島袋陽子・上野邦子

19木○個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 吉田副会長

- 平成26年度第2回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議 沖縄県南部保健所 新垣理事
- 平成26年度第3回地域医療支援病院運営委員会 パシフィックホテル沖縄 神村会長
- 第69回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
- 北部地区薬剤師会学術講演会（合理的パーキンソン病治療について） 北部地区薬剤師会館

21土○日本薬剤師会第84回臨時総会（22日迄） ホテルイースト21東京 神村会長・吉田副会長

22日○平成26年度薬剤師継続学習通信教育講座・スクーリング 県薬ホール

22日○第120回健康とおくすり相談会 サンエー経塚シティ（浦添市） 担当：那覇地区薬剤師会

23月○ジェネリック医薬品使用促進の先進事例ヒアリング調査 県薬会議室 神村会長、吉田副会長、江夏常務理事、仲真薬局長、山城課長

- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

24火○沖縄県交通遺児育成募金贈呈式 琉球新報社 神村会長、大城係長

- 抗インフルエンザウイルス薬・衛生資器材の流通状況及び在庫状況把握体制についての各卸との打ち合わせ 県薬研修室 田場専務理事、山城課長
- 平成26年度第2回健康づくり（福寿うちな〜）推進協議会 サザンプラザ海邦 我喜屋理事
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

25水○沖縄県保健医療部健康長寿課より来局 県薬会議室 田場専務理事

- 「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」に関する講習会 県薬研修室
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏

26木○平成26年度未来の産業人材育成事業報告会議 県庁（薬事情報センター）大城恭子、大城係長

- 個別指導（2薬局） 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：宮城幸枝氏
- 抗インフルエンザウイルス薬・衛生資器材の流通状況及び在庫状況把握体制についての各卸との打ち合わせ 県薬研修室 田場専務理事、山城課長
- 平成26年度中部地区糖尿病標準治療推進委員会 推奨講演会 中部地区医師会館
- 八重山地区学術講演会〜喘息治療と吸入指導〜 ホテル日航八重山

27金○平成26年度第2回薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会 日本薬剤師会（薬事情報センター）吉田典子

- 会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・前原
- 平成26年度第3回地区調整機構会議 ホテル福岡ガーデンパレス 我喜屋理事
- 保健福祉委員会（在宅小委員会） 県薬会議室

28土○平成26年度第2回地区薬剤師会会長会議 県薬研修室

平成27年3月

1日○第5回在宅医療に関する講習会 県薬ホール

2月○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城

- 災害対策委員会 県薬研修室

- 2月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療 担当：仲真良重氏
- 3火○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城
○薬学生実務実習受入委員会 県薬研修室
- 4水○学校薬剤師部会全国担当者会議 日本薬剤師会 前濱常務理事、大城恭子氏(学校薬剤師部会)
○九州厚生局長来局 県薬会長室 神村会長
○平成26年度第13回定例幹事会 県薬研修室
- 5木○平成26年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 田場専務理事
○研修会「在宅医療における薬剤師の役割」 県薬研修室 共催：沖縄県慢性期医療協会薬剤師部会
○美波セミナー in 沖縄 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 共催：大日本住友製薬(株)
- 6金○小児救急電話相談(＃8000)打ち合わせ 県薬研修室
○沖縄 X e p l i o n 発売1周年記念講演会 ラグナガーデンホテル 共催：ヤンセンファーマ(株)
- 7土○第4回沖縄リハビリテーション栄養研究会 沖縄県総合福祉センター 共催：沖縄リハビリテーション栄養研究会
○第6回子ども禁煙研究会 県薬 共催：禁煙マラソン
○沖縄県地域がん診療連携拠点病院 薬剤師教育セミナー (株)ダイコー沖縄 共催：那覇市立病院
○第176回全国禁煙アドバイザー育成講習会 県薬 共催：禁煙マラソン
○北部地区薬剤師会平成26年度薬局における医療安全管理研修会 I Z U M O (名護市) 講師：仲真良重氏
- 8日○第121回健康とおくすり相談会 具志川ドーム 担当：中部地区薬剤師会
○平成26年度自殺予防対策事業 ゲートキーパー(薬剤師)スキルアップ研修会 県薬研修室
○BLS講習会 おきなわクリニカルシミュレーションセンター
- 9月○沖縄県医療審議会医療法人部会及び有床診療所部会 県庁 神村会長
○「小児救急電話相談事業＃8000」に関する協議会 沖縄県医師会館 吉田副会長、城間薬局長、山城課長
- 10火○財務委員会 県薬会議室 仲程みちの税理士
○平成26年度第2回自殺対策検討委員会 県薬研修室
○八重山地区健康拠点推進事業・BLS講習会 大濱信泉記念館 講師：笠原理事・中尾滋久氏
- 11水○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 神村会長
○平成26年度第2回スポーツ医・科学委員会 沖縄県体育協会 笠原理事
○第8回美ら島薬学ネットワーク 沖縄県医師会館 共催：持田製薬株式会社
○平成26年度第3回 医薬品事故・過誤対策委員会 県薬研修室
- 12木○個別指導(2薬局) 県庁 吉田副会長
○第11回沖縄リウマチ薬研究会 ザ・ナハテラス 共催：ファイザー(株)
- 13金○第12回 O C E A N 研究会 ザ・ナハテラス 共催：大日本住友製薬(株)

- 13金○健康情報拠点推進事業会議 県薬会議室 田場専務理事、江夏常務理事、笠原理事、上原幸代氏（保健福祉委員会）
- 14土○平成26年度第12回定例理事会 県薬研修室
- 平成26年度地域・在宅医療、薬局・薬剤師を拠点とした健康情報拠点推進事業等担当者全国会議 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都） 笠原理事
- 15日○**管理薬剤師業務研修会** 沖縄コンベンションセンター会議棟A1 講師：仲真良重（医療保険委員会）
- 16月○平成26年度第2回理事会（沖縄県薬物乱用防止協会） 県庁 前濱常務理事、吉田久子氏、大城係長
- 青年部会役員会 県薬部会室
- 17火○平成26年度薬物関連相談窓口担当者意見交換会 浦添市てだこホール 前濱常務理事・笠原理事
- 平成26年度第1回沖縄県防災会議幹事会 沖縄県市町村自治会館 吉田副会長
 - 平成26年度第3回薬剤師学術研修委員会 県薬研修室
- 18水○八重山糖尿病学術講演会 ホテル日航八重山
- 保険薬局部会研修会** 県薬研修室
 - 豊見城薬局との打ち合わせ 豊見城薬局 我喜屋理事、（会営薬局とよみ）島袋陽子氏・上野邦子氏、山城課長
- 19木○平成26年度社会保険指導者研修会 フクラシア東京ステーション（東京都） 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
- 沖縄県病院薬剤師会NST分科会講演会 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 共催：テルモ（株）
 - なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 上原幸代氏（保健福祉委員会）、稲福係長
 - 宮古地区健康拠点推進事業・BLS講習会 宮古地区薬剤師会事務局 講師：笠原理事、西田裕氏
- 23月○医薬分業指導者協議会 厚生労働省 田場専務理事、石川理事
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 24火○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 九州厚生局沖縄事務所との打ち合わせ 県薬会議室 吉田副会長、仲真薬局長
 - 管理者会議 県薬研修室
 - 平成26年度第6回広報委員会 県薬研修室
- 25水○第8回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー 大浜第一病院 共催：MSD（株）
- 第32回薬タッチャーの会 沖縄県立中部病院
 - J P A L S 研修会** 県薬研修室 講師：亀谷常務理事
 - 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 27金○模擬地域ケア会議 沖縄市役所 笠原理事
- トルバプタン学術講演会 大浜第一病院 共催：大塚製薬（株）

27金○平成27年度実務実習受入施設指導薬剤師研修会 県薬研修室

29日○**沖縄県薬剤師会第71回臨時総会** 県薬ホール

30月○会計監査 県薬会議室

○平成26年度第2回健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会 県庁 田場専務理事

○平成26年度第1回沖縄県国民保護協議会 沖縄県市町村自治会館 神村会長

○平成26年度第1回沖縄県防災会議 沖縄県市町村自治会館 神村会長

31火○保健福祉委員会 県薬研修室

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成27年2月

7土 平成26年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会 県薬ホール

平成27年3月

25水 平成26年度定時評議員会 スクワール麹町（東京都） 神村会長

28土 國場幸之助衆議院議員訪問（医薬分業の規制の見直しに関する陳情） 國場幸之助後援会
事務所 神村会長、事務局山城

開催日が決定した平成27年度的主要行事

第1回 症例検討入門研修会

講師：大澤友二先生（福岡薬物治療研究会会長）

会期：平成27年5月30日（土）

会場：県薬会館ホール

第72回 沖縄県薬剤師会 通常総会

会期：平成27年6月21日（日）

会場：県薬会館ホール

平成27年度 新任・新人薬剤師研修会

会期：平成27年7月5日（日）

会場：県薬会館ホール

調剤報酬請求業務講習会

会期：平成27年8月16日（日）

会場：浦添市てだこホール

第28回 沖縄県薬剤師会学術大会

会期：平成27年11月1日（日）

会場：県薬会館ホール 他

業界NEWS

沖縄県薬剤師会館内に「神殿」——薬剤師の心の拠り所として

沖縄県薬剤師会館内の2階の一角に立派な神殿が祀られた「神殿」が設置されていて、同会館来訪者に注目されている。これは、沖縄県薬剤師会が独自に企画、制作し、昨年10月2日に、神村武之会長をはじめ歴代会長、同県薬剤師会連団体会長ら24名の参列のもと、波上宮の大山晋吾禰宜により神棚祭祀が執り行われ完成したものだ。

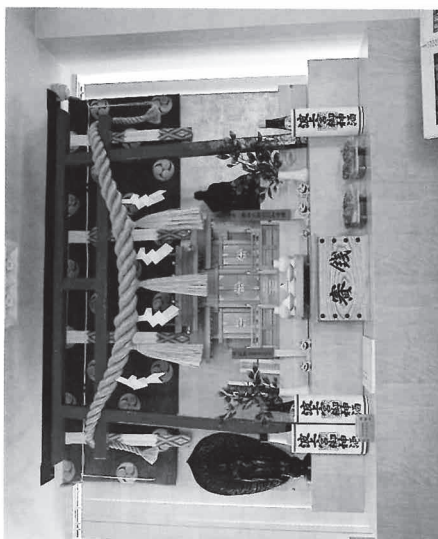
神殿は、140cmの棚段に、目線より高くなるよう神棚が配置されていて、その神棚の手前には鳥居用注連縄が装着された赤漆調の鳥居が構え、壁板は金箔様壁紙で覆われ、その上部に紫地の三つ巴紋様の門帳が飾られている一体型のシンブルな構造。シックな装いの中にも豪華絢爛さを併せ持つ沖縄風の佇まいとなっている。

神棚には、神農像と薬師如来像、御三札（天照皇大神宮、少彦名神社御祈禱之牘、波上宮神霊）が祀られている。このうち少彦名神社御祈禱之牘は、神村武之会長自らが大阪市道修町の少彦名神社に参拝していただいてきたものだ。完成に至るまで、毎年薬祖祭が行われる波上宮を視察し、本宮内の幣殿を参考にすることはもちろん、同神社からはこの神殿製作の構想や設置に関するアドバイス資料の提供などの協力を得た。

神殿は、美術や信仰を目的として製作したものでなく、参拝や拝観を目的として

いる。神殿完成に先駆けて尽力し、少彦名神社より御分霊を勧請し、波上宮に依頼して奉祀した故仲松弥元氏（第6、8、11代会長）は、「医薬の道を天職とする薬業人にとって年1回の薬祖祭には、この1年の無事感謝し、薬の取り扱いの過ちのないように祈願したいものである」との言葉を残している。また、神村同会長は「神殿は、いわば薬剤師の心の拠り所。仲松先生の残した言葉をしっかりと受け止め、諸先輩の足跡に思いを馳せ、温故知新の心を持って後世（生）に引き継いでいきたい」と語る。

この神殿の設置された部屋は元々、薬業関連の教材、資材等を設置する閲覧室として使おうとされてきた場所だが、「神殿の設置を機に、今後は神殿・薬学資料室として、沖縄県内の薬局、薬業関係者などの協力を得、薬や薬学に関する資材、歴史資料などを保管、展示していく予定です。沖縄に求められる機会があったらぜひ立ち寄ってほしい」（沖縄県薬剤師会事務局・大城喜仁氏）ということだ。



神殿



神殿・薬学資料室内部



薬剤師

⑭

訪ねた人 新垣奈々さん (琉球大学付属小3年)

陽介君 (6歳)

働く人 父・慶朗さん (42)

母・麻衣子さん (39)

新垣奈々さん(9)＝琉球大学付属小3年＝と陽介君(6)は、薬剤師のお父さんの慶朗さん(42)とお母さんの麻衣子さん(39)が働く「にしはる薬局」を訪ねました。機械や棚一面に並ぶ薬を見て、目を輝かせました。

薬局の奥はたくさんさんの棚が並び、ぎっしりと薬が置かれていました。

にしはる薬局には、1000種類ほどの薬があります。色も形もさまざまです。薬を見て「これは何？」と次々と聞く奈々さんに、麻衣子さんは「体がむくむ人のための出すお薬、食べ過ぎておなかが痛い時のお薬」と丁寧に答えます。麻衣子さんは2人に、「患者さんとは病院でお薬の作り方のメモをお医者さんから持たさ

れるから、それをもとに薬を入れるんだよ」と教えます。

2人以上でチェック

処方箋を見て、慶朗さんはキビキビと薬の準備をします。たくさんさんの薬の中から、「体が震えている」と、送る薬を取り出します。大事なものは、間違えないことと必ず2人以上でチェックをし、ミスしやすいことはみんなで共有します。薬は毎年新しいものが出るので、定期的に勉強会に出て、常に新しい情報を取り入れています。

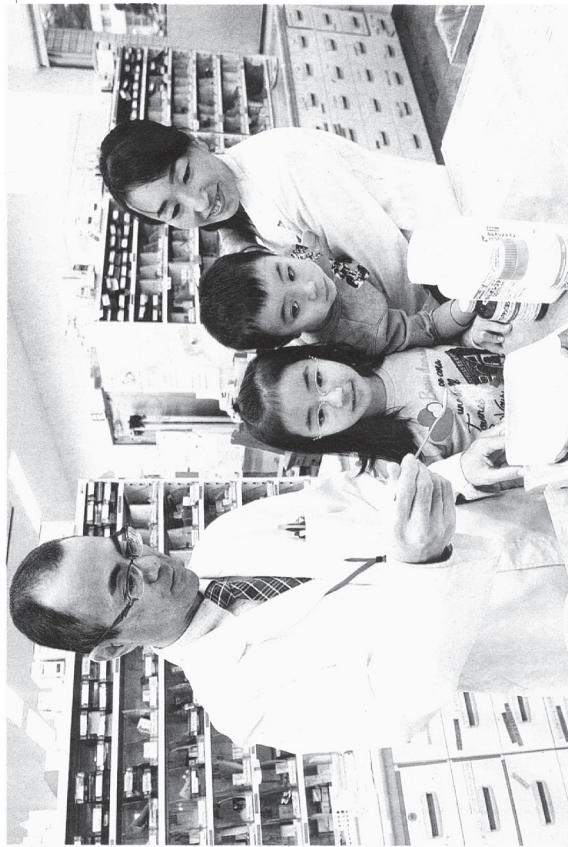
窓口で、薬を説明しながら渡します。飲むタイミングや注意点を説明して、きちんと薬を飲んでもらえるように気を配ります。

麻衣子さんは「お子さんが飲む場合、この薬は苦いからチョコアイスに混ぜる

機械で、何種類かの薬を一つの袋に分けます。分かりやすくすることで、飲み間違いを防ぎます



正確さ心掛け お薬手渡す



送薬の量を知る(左から)新垣慶朗さんの手付きで記入する奈々さん、陽介君、麻衣子さんのおなかが痛いときに飲む薬だけでも、たくさん種類があります。どんな薬か、麻衣子さんが説明しました「しはる薬局」

といいですとアドバイスすることも。薬を飲んで良くなった、という話を聞くとうれしい」と言います。

飲み忘れを防ぐ工夫

薬を袋に入れる機械もありました。

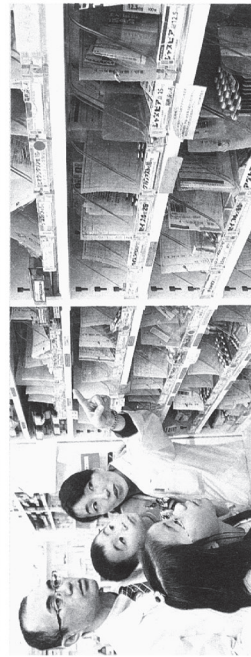
新垣奈々さんは思った！ 薬を包む機械 面白かったな

「お父さんもお母さんも、一生懸命でかっこよかった。初めて知ったことがたくさんあった。薬を包む機械が面白かった！」

何種類かの薬を、1回に飲む分ずつ袋につめます。

慶朗さんは「『一酸化』っていい、飲み忘れなく1回で飲めるようにしているんだよ」と説明をします。

薬局での仕事のほかにも、さまざまな仕事があります。自宅で過ごす患者さんの家に薬を配達したり、学校薬剤師として学校でフールの水の水质や部屋の明るさを調べたりすることもあります。



薬剤師職能P R に会員の新垣慶朗さんご家族がご協力下さいました。

“もう一度、国際通り”

この頃、眠らない空港と言われるようになった那覇空港。押し寄せる大勢の観光客。夜中は東南アジアの主要都市へ向けて貨物の集積集散、短時間で目的地へ届けるため、ひとときも休むことがないハブ空港である。降り立った観光客は年間700万人に達する。すぐにリゾートや史跡見物に散ってゆくが、そのほとんどが滞在中に国際通りにやってくるという。140万人の県民に700万の流動人口であるから小さな島に人が溢れる。こんなバックグラウンドがあるから国際通りも昼夜を問わず大勢の人で賑わう。日曜日はトランジットモールで歩行者天国となり、あちこちの広場では大道芸、エイサー^{*1}、シャボン玉など路上パフォーマンスが多く、楽しみがいっぱいの奇跡の一マイルである。通り沿いと100m以内には大規模中規模のホテルが約10軒、さらに工事中を含めて大きいホテルが4軒計画されているという。益々、観光客が集中することだろう。人の流れに乗って歩いていると外国語が飛び交い、どこか沖縄ではないところを旅している気分になるのである。

先日のことである。薬局へ年配の紳士が入ってきて、古びた写真を見せながら「これ、こちらさんと関わりがあると思いますが…」と言う。その写真は壺屋の骨董屋で手に入れたらしい。昔の国際通り、むつみ橋辺りが写されている。叔父の薬局の看板がハッキリと写っている。向かいの大洋堂、ガープ川にかかるむつみ橋、南陽相互銀行、そして大越デパートが見える。この紳士は自分のブログにこの写真と今の国際通りを比べながら旅の思い出を話したいと言う。だからこの写真はいつ頃なのか知りたいのである。

さて、いつ頃なのだろう。鳩首を並べてガヤガヤである。写真の中に映画の広告の垂れ幕が写っていた。「ああ、江田島」とある。これが沖縄で上映されたのが昭和34年頃と分かったので、紳士は大いに喜んだものである。ここに写っている大越デパートはしばらくして沖縄三越となった。以来50数年、国際通りの顔として大勢のファンを引きつける。ちょっぴりグレードが高くその買物袋、包装紙が街中で目立ったものである。しかし、時代の流れというか、大型ショッピングセンターの進出、客層の変化などで苦戦が続いた。ついに平成26年9月21日に閉店となった。その日、別れを惜しむ人たちが大勢集まり、玄関前の舗道を埋め尽くした。小生もその人混みの中に紛れ込んでいたものである。

それから6ヵ月後の3月12日に「ハピナハ」がオープンした。沖縄中の特産品、お土産品を集め、せんべい焼の体験、多数の泡盛の銘柄からブレンドしての自分だけのお酒づくりコーナー、お化け屋敷、お笑いのよしもと沖縄花月といった異色のコンセプトである。そこから100m位の所に小生の薬局がある。お年寄りの患者さんはひとしきり世間話でおしゃべりを楽しむ人が多い。妻が「聞き屋」役であるが、時にはこのあたりのニュースをネタに「聞かせ屋」に回ってもいいので



那覇のメインストリート

はと言う。それもそうだねとハピナハへ足を向ける。ひとしきり店内を見て回る。日曜日でもあり観光客の姿が大いに目立つ。これから新しい観光スポットとなってゆくことだろう。

小生達のねらいは「よしもと花月」なのである。会場には係員が10名単位で入場させる。500席位と立ち見席まであり驚いた。開幕である。イカルガと言う若い2人が前説を努める。案内役のようなもので、お客さんへ拍手の勘所、声かけのタイミングなど笑いを取りながら協力を求める。お客もノリノリである。2人の合図でドーッと湧く。雰囲気盛り上がったところでメインの主人公たちが登場する。今日の目玉は「西川きよし」である。そう言えば大きい目玉がセールスポイントであるからピッタリである。最近、好評の朝ドラの「マッサン」で優しくて人の良い酒屋の社長役で人気を博したので記憶に新しいことと思う。ひと頃、横山やすしと「やすきよ」漫才で大人気であった事を思い出す人も多いだろう。相方の「やすし」は破天荒な男で一般常識をこと如く無視、トラブルメーカーである。きよしは、彼の行状を叱りながらも優しくカバーし、ガードしながら舞台に立ち続けた。一度は参議院選で全国区でトップ当選し、国会では庶民の目線で活躍した経歴を持つ。話し始めると今でも「やすし」が側にいるようである。イヤ、居るのだろう。エアー相方である。ご当地サービスで親交のある具志堅用高の話が出る。ご存知の用高語録は数多い。こんなものがある。「貴方の卒業した高校の伝統は何ですか？」という問いに、「ハイ、蛍光灯です」。きよしが話す。用高さんに「卒業した高校の伝統は何ですか？」と聞いた。来たなと思った。「ハイ、ほとんどがナショナルですね」。客も大笑いである。そうか、用高さんにはこうして自作他作の迷言が増えるのか。ならば小生もひとつ作ってみようかな。きよしは余韻を残して舞台を降りた。

続いて、地元沖縄出身のガレッジセールの舞台である。父娘の経営する居酒屋が舞台で、修理に出した名器のサンシン^{※2}が戻ってくる日である。常連の客が集まっている。ウチナー^{※3}青年、ヤマトウ^{※4}青年、アメリカ兵、ブラジルウチナー3世と酒が入り意気投合したり、お互いに主張を譲らず口論になったり、ウチナーグチ^{※5}、日本語、英語、ポルトガル語が飛び交ったり、チャンプルー^{※6}である。劇中、オスプレーというセリフが飛び出すと客席から「反対！」と声上がる。どうなるかと思ったら、もめ事もサンシンとカチャシー^{※7}でまとまった。メデタシ、メデタシである。

今、沖縄の抱える大きな問題は決してカチャシーで治まることは無いだろうなあ。今年は終戦から70年となる。肉親を失い、あらゆる物を破壊された人達は絶望し無気力となった。何とか元気を取り戻して欲しいと沖縄中から芝居シー^{※8}達が集まり、いくつかの劇団は創られ、町や村、各地で公演を続けた。娯楽の力、芝居の力、笑いの力から大きな勇気をもたらったものである。

よしもと沖縄花月が、質の高い楽しい笑いを提供して欲しいと期待するものである。ハッピーナハはハッピー国際通りかな。

橋の下

* 1 本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能のひとつ。各地域がそれぞれの型を持ち、旧盆の夜に踊りながら練り歩く。

* 2 三線と書く三味線に似た沖縄の楽器

* 3 沖縄の青年

* 4 内地の青年

* 5 沖縄方言

* 6 「混ぜこぜにした」というような意味。さまざまな材料を一緒にして炒め合わせる料理を指す場合もある。語源は、インドネシア語・マレー語の「混ぜる」の意味の campur (チャンプルーまたはチャンポール) との説がある。

* 7 「かき回す」という意味であり、両手を頭上で左右に振りながら踊る様がかき回しているように見える。

* 8 芝居役者



誌上ギャラリー（裏表紙）について

上：「ボタン」 撮影地：東京都神代植物公園 photo by 平安山 春江（沖縄市）

中央：「食餌3熊」 photo by 松山 朝雄（沖縄県健康づくり財団）

下：「八重桜」 photo by 吉田 久子（那覇市）

編

集

後

記

7～8年前、広報委員としてはじめて石垣島を訪れた際、八重山支部の先生方がわざわざ懇親会の場をセッティングしてくれた。その際に（今回スポットライトに登場した）大浜貴子氏と出会った。初対面にもかかわらず、翌日の観光案内を買って出てくれた。正直にいうと意外だった。「え～、あのマドンナが？」近寄りがたいオーラを放っていたからだ。それは私の思い込みだったわけだが（苦笑）。大浜氏に案内された場所で撮った川平湾の写真は我ながらうまく撮れたものと自画自賛。後日談で、「あそこはね、誰でもきれいに撮れるポイントなの」と大浜氏から聞かされた。そんなオチがあったとは。（苦笑）（クララ）

広報委員会とバイクがどう繋がるんだと言われると、バイク無くして私の委員会活動は困難であろうということである。私は広報委員会を始めいくつかの委員会に属し、理事として、学校薬剤師として、また、地区薬の役員としてチョコチョコ活動している。他の会議、会場場所や編集会議で県薬に向かう道路は渋滞が常である。ここでバイクが威力を発揮する。交通渋滞の中をスイスイ通り抜けて、ほぼ予定通りに短時間で目的地に到着できる。この足回りの良さが私の薬剤師会活動を支えているのだ。もう一つ理由がある。バイク趣味が高じて現在可動車が5台、不動車を2台の計7台所有している。機械は常に動かさなければ調子が悪くなる。2台は置きっぱなしで不動になってしまったのだ。従って、毎日、取っ替え引っ替え、動かさなければならない。どこかに行かなければならないのだ。つまり、ついでに、仕方なしに委員会に向かう場合も多い。これが案外長年にわたって会の活動を続けられた理由かも知れない。但し、着いてしまえばしっかり勤めを果たすのであるが。（亀）

石垣開催理事会という事で、新石垣空港に降り立った。理事会翌日、飛行機の時間まで市内を回った。新しいビルが増え、街全体が都会になっている。昭和から平成にかけて薬剤師としての初めて勤めた八重山病院が小さく感じる。宿泊ホテルのあたりは海が近いはずだったが、聞くと埋め立てで様変わりしている。変わらないのは人。懐かしい人との会話も、街の人の親切も心地いい。最近トゲトゲだった私は癒され帰路に就いた。（TOMO）

神村会長が今季限りで会長職を退かれることになった。平成元年に薬剤師会理事になり、副会長も長年就き、そして沖縄県薬剤師会会長に就任されたのが平成17年、今年は平成27年なので会長として10年間薬剤師会を引っ張ってきたことになる。実は、神村会長は薬剤師会との結びつきが深く、薬科大学を卒業して最初に就職した職場が薬剤師会だったという嘘のような本当の話である。その頃からずっと神村会長と薬剤師会は浅からぬ縁で結ばれていたのである。会長は見かけによらず（？）繊細で芸術性に富み、見かけ通りに包容力が大きく大胆な方であった。在任中の神村会長の大きな功績の一つは医療ゾーンのど真ん中に薬剤師会館を建てたことであろう。もちろん会長一人の力で出来る事ではなく、紆余曲折大勢の方々の苦労と努力の結晶が会館である。ただ、薬剤師会をオーケストラにたとえてみれば指揮者の判断・行動はきわめて重要であったと思う。指揮者が変わって今後、薬剤師会はどのような音色に変わっていくのであろうか。（ピアナ）

先日、海軍病院へ行ってきた。詳細な内容は部会便りの森下先生の記事を参照されたし。とりわけ驚いたのが、小児への薬物療法の違いだ。ER内の小児用救急カートは、Broselowtap®で患者の身長を測れば、その患者に必要な量の薬剤をカートから取り出すことができる。非常に合理的、なんとアメリカン。また、子供の薬でも散剤ではない。液剤が中心だった。日本では一般的に使用されている分包機が海外では一般的ではないようだ。同じ薬局でも国が違っても違うのか！海外の薬局事情をもっと色々聞いてみたいと思った一日だった。（いさ吉）

この時期は歓送迎会が多く、アルコール漬けで体が悲鳴を上げている！以前に比べると、酒の抜けが悪くなって油断すると体重も即UP状態だ。気がつけば今年で40歳・・・そろそろ体を労わらないといけないと思い、初の人間ドックに挑もうと考えた。特に不安なのが、胃・大腸検査。内視鏡検査を受けるのも怖い、長年の不摂生でどのようなになっているのを知るのがさらに恐ろしい。そう思っただけで、病院への足取りが重くなってしまいが、勇気を出して奮い立たせている最中だ！因みに.. 人間ドックの日程はまだ決められていないのが現状である(笑)。皆さん、体を労わりつつお酒とはいい関係でありましょね。何か自分が言うのと説得力が無いような.. (ごり)

今年の第100回薬剤師国家試験の合格率が63.17%でした。去年の60.84%よりは上がったものの低い水準を推移しています。今は合格基準が明確で厚生労働省のHPに記載されていて、見る限りこの合格率も納得です。質の高い薬剤師を育成するために薬学部が6年制となり実務実習はより充実したものになりました。しかしストレートで卒業試験と国家試験に合格し薬剤師になる学生がいる一方、何度も留年や国試浪人して薬剤師になるといった学生も少なくないはず。薬剤師になるのに10年費やす学生も珍しくないでしょう。大学入試を難しくして入学自体を狭き門にするか、また教育内容の方向性を変えるか、今後の大きな課題ではないでしょうか？ (みつなり)

私は他の会員より一足先に原稿を目にします。今回、特に気になった記事は、平成26年度FAXコーナー担当者意見交換会報告のものです。私の勤務する病院にもFAXコーナーがあり、毎日多くの患者さんが利用しています。そこに常駐している女性職員らは、本来の業務ではない患者さんからの病院に対するクレームや相談を受けたり、極度に男性が苦手な患者さんには会計から院内処方を受け取りまで付き添ったりしています。きっと彼女たちには、病院職員にはない優しさやほんわかとした気持ちが表情に出ているからではないかと思っています。彼女達に感謝するのみならず、病院職員の接遇も改善できればと願っています。 (三郎)

つい先日、学校保健委員会に参加してきました。年2～4回ほど行われる保健委員会ですが、毎回のことながらネタ探しに苦労させられています(ー;)。環境検査の結果報告から入り、それに肉付けをして話をするのですが、最近はその際に話をするネタがなく一校でした話を他の学校の保健委員会でも話をするような状況になってしまいました。おかげで同一校を受け持っているドクターや保健師の方などとは「あれ、別の学校でも聞いたような話が…」なんて思われていないか内心ヒヤヒヤしています。また、保健委員会ではPTAや学校の先生からの質問がありますが、全く知らない話が出てくるとギクッ、としてしまうことがしばしば。いずれはどっしり構え、全ての質問に自然と答えられるような学校薬剤師になりたいものです。 (松)



沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 **■薬事情報センター** TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 **■試験検査センター** TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第275号 平成27年4月24日発行

◇次号は、平成27年6月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
 石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 金城印刷



誌上ギャラリー（会員作品）お気軽にご投稿下さい。